

環境レポート

2013

私たちは応援します



環境にいいこと、
プラス。



会社概要

本社	〒492-8680 愛知県稲沢市天池五反田町1番地
設立	2012年2月16日*
資本金	100億円（2013年2月21日時点）
代表者	佐古 則男
事業内容	衣・食・住・余暇にわたる総合小売業のチェーンストア
売上構成	衣料品15.4%・食料品66.8%・住居関連品16.2%・その他1.5%（2013年2月期）
決算期	2月20日（年1回）
店舗数	1府19県下に227店舗（2013年2月20日時点）
従業員数	27,595名（2013年2月20日時点）
営業収益	7,689億円（2013年2月期）
主要取引銀行	三菱東京UFJ銀行、住友信託銀行
HPアドレス	http://www.uny.co.jp
グループ連結営業収益	1兆302億円（2013年2月期）
主なグループ企業	(株)サークルKサンクス、(株)99イチバ、(株)さが美、(株)パレモ、(株)モリエ、UNY (HK) CO.,LIMITED、 優友（上海）商貿有限公司、(株)ユーライフ、(株)UCS、(株)サン総合メンテナンス、(株)サンリフォーム、(株)ユニコム、 (株)マイサポート、(株)ユニフード

*純粋持株会社体制移行にあたり、準備会社としてユニグループ・ホールディングス（株）を設立した日です。

なお、2013年2月21日付で（旧）ユニ（株）を事業会社と持株会社（存続会社）に会社分割し、準備会社が事業会社を吸収するとともに両社の商号を入れ替えました。

事業所 ※2013年7月末現在

中京エリア

■名古屋 市 ヒルズウォーク徳重ガーデンズ（ピアゴラ フーズコア徳重店）、アビタ新守山店、アビタ千代田橋店、アビタ東海通店、アビタ名古屋北店、アビタ名古屋南店、アビタ鳴海店、アビタ線店、アビタ港店、ピアゴ味鋺店、ピアゴ植田店、ピアゴ西城店、ピアゴラ フーズコア桜山店、ピアゴ鹿山店、ピアゴ清水山店、ピアゴ中村店、ピアゴ平針店、ピアゴ守山店、ピアゴラ フーズコア豊場店、ピアゴラ フーズコア正保店、ピアゴラ フーズコア柴田店、ピアゴラ フーズコア神野店、ピアゴラ フーズコア滝ノ水店、ピアゴラ フーズコア黒川店、ユーホーム桶狭間店

■愛知県 エアポートウォーク名古屋（アビタ名古屋空港店）、リーフウォーク稲沢（アビタ稲沢東店）、アビタ阿久比店、ユーホーム阿久比店、アビタ安城南店、アビタ稲沢店、ユーホーム稲沢店、アビタ大口店、アビタ大府店、アビタ岡崎北店、アビタ蒲郡店、アビタ刈谷店、アビタ木曾川店、アビタ高蔵寺店、アビタ江南西店、アビタ小牧店、アビタ瀬戸店、アビタ知立店、アビタ東海荒尾店、アビタ桃花台店、アビタ豊田元町店、アビタ長久手店、アビタ向山店、ピアゴラ フーズコア赤池店、ピアゴ阿久比北店、ピアゴ安城店、ピアゴ井ヶ谷店、ピアゴ岩倉店、ピアゴ印場店、ピアゴ大清水店、ピアゴ大治店、ピアゴ香久山店、ピアゴ上和田店、ピアゴ気鳴店、ピアゴ清洲店、ピアゴ吉良店、ピアゴ国府店、ピアゴ幸田店、ピアゴ江南店、ピアゴ佐屋店、ピアゴ篠木店、ピアゴ甚目寺店、ピアゴ十四山店、ピアゴ勝幡店、ピアゴ新城店、ピアゴ武豊店、ピアゴ知立店、ピアゴ伝法寺店、ピアゴ東栄店、ピアゴ常滑店、ピアゴ豊明店、ピアゴ中切店、ピアゴ長久手南店、ピアゴ西春店、ピアゴ半田店、ピアゴ東刈谷店、ピアゴ尾西店、ピアゴ菱野店、ピアゴ福釜店、ピアゴ碧南店、ピアゴ碧南東店、ピアゴ洞店、ピアゴ布袋店、ピアゴ妙興寺店、ピアゴ八剣店、ピアゴ矢作店、ピアゴ大和店、ピアゴ豊川店、ピアゴ蟹江店、ピアゴ黒笹店、ピアゴラ フーズコア半田清城店、ピアゴラ フーズコア三河安城店、ユーホーム矢作店、ユーホーム安城店

■岐阜県 アクアウォーク大垣（アビタ大垣店）、ラスバ御嵩（アビタ御嵩店）、アビタ各務原店、ユーホーム各務原店、アビタ北方店、アビタ岐阜店、アビタ中津川店、アビタ飛騨高山店、アビタ美濃加茂店、ピアゴ浅草店、ピアゴ鞠店、ピアゴ恵那店、ピアゴ各務原店、ピアゴ笠松店、ピアゴ川辺店、ピアゴ関店、ピアゴ多治見店、ピアゴ長良店、ピアゴ穂積店、ピアゴ瑞浪店、ピアゴ可児店

■三重県 アビタ伊賀上野店、アビタ桑名店、アビタ鈴鹿店、アビタ名張店、アビタ松阪三雲店、ユーホーム松阪三雲店、アビタ四日市店、ピアゴ赤尾店、ピアゴ阿倉川店、ピアゴ畑野店、ピアゴ上地店、ピアゴ保田店、ピアゴ菟野店、ピアゴ多度店、ピアゴ東員店、ピアゴ星川店

■長野県 アビタ飯田店、アビタ伊那店、アビタ岡谷店、アビタ高森店、アビタ飯田駅前店

■滋賀県 ピアゴ一里山店、ピアゴ今崎店、ピアゴ近江八幡店、ピアゴ豊郷店、ユーホーム豊郷店、ピアゴ松原店、ピアゴ水口店

■京都府 アビタ精華台店

■奈良県 アビタ大和郡山店、ユーホーム大和郡山店

北陸エリア

■石川県 アビタ金沢店、アビタ松任店、ユーホーム松任店、ピアゴ七尾店、ピアゴ金沢ベイ店

■富山県 アビタ魚津店、アビタ黒部店、アビタ砺波店、アビタ富山店、アビタ富山東店、ピアゴ小矢部店、ピアゴ富山西町店

■福井県 アビタ敦賀店、アビタ福井店、アビタ福井大和田店、ピアゴ丸岡店

関東エリア

■神奈川県 アビタ金沢文庫店、アビタ戸塚店、アビタ長津田店、アビタ日吉店、ピアゴイセザキ店、ピアゴ大口店、ピアゴ弘明寺店、ピアゴ座間店、ピアゴ大雄山店、ピアゴ中山店

■埼玉県 ピオニウォーク東松山（アビタ東松山店）、アビタ岩槻店、アビタ吹上店、アビタ本庄店、ピアゴ大桑店、ピアゴ川本店

■群馬県 けやきウォーク前橋（アビタ前橋店）、アビタ伊勢崎東店、アビタ笠懸店、アビタ高崎店、アビタ館林店、ピアゴ藤岡店

■茨城県 アビタ石下店、アビタ佐原東店、アビタ守谷店

■千葉県 アビタ市原店、アビタ木更津店、アビタ君津店

■栃木県 アビタ足利店、アビタ宇都宮店

■新潟県 リバーサイド千秋（アビタ長岡店）、アビタ新潟亀田店、アビタ新潟西店

■福島県 アビタ会津若松店

山静エリア

■静岡県 プレ葉ウォーク浜北（アビタ浜北店）、アビタ伊東店、アビタ大仁店、アビタ掛川店、アビタ静岡店、アビタ島田店、アビタ初生店、アビタ藤枝店、アビタ富士吉原店、ピアゴ磐田店、ピアゴ於呂店、ピアゴ香貫店、ピアゴ上岡田店、ピアゴ上島店、ピアゴ清水高橋店、ピアゴ大覚寺店、ピアゴ中里店、ピアゴ浜松泉町店、ピアゴ榛原店、ピアゴ袋井店、ピアゴ富士中央店、ピアゴ富士宮店、ピアゴ森店、ピアゴラ フーズコア中田店

■山梨県 ラザウォーク甲斐双葉（アビタ双葉店）、アビタ石和店、アビタ田富店



店舗紹介

地域の中でライフスタイルを多面的にカバーする、ユニーの各業態

ユニー株式会社は、衣・食・住・余暇にわたる総合小売業として、関東から北陸・東海地区に228店舗（2013年7月末現在）を展開するチェーンストアです。その代表であるモール型ショッピングセンターをはじめ、豊かで楽しい生活提案を取り入れた「日常生活向上店」を目指すアピタ店舗、毎日楽しく買い物ができる「日常生活便利店」を目指すピアゴ店舗など、地域の中でライフスタイルを多面的にカバーできるよう、さまざまなタイプの店づくりに取り組んでいます。また2008年8月21日にはスーパーマーケット事業を柱とする株式会社ユーストアと合併し、スーパーマーケット部門のより一層の充実に努めています。

●モール型ショッピングセンター

数多くの専門店街とエンターテインメントを兼ね備えた広域型複合ショッピングセンター。ファッション・ライフスタイル・グルメなどトレンドを意識したテナント誘致で、地域交流・活性化を見据えた「街づくり」を進めています。



●アピタ店舗

ヤングマインドで日常生活にこだわりを持つお客様をメインターゲットに、立地やマーケット特性に合わせた店づくりを行っています。



●ラスパ

専門店にウェイトを置き、「ミニモール」タイプとしてトレンド感あふれるショップが魅力。また、ライフスタイルにこだわりを持つお客様をメインターゲットに、立地やマーケット特性に合わせた品揃えや店づくりを行っています。



●ピアゴ店舗

「日常生活便利店」として、ファッションから食品まで地域密着型の品揃えとサービスが特徴の総合小売店です。



●ピアゴ ラフーズコア

「時代にフィットしたこだわり志向の食材」も提供する都市型小型食品スーパー。街の生活に密着した、「食」のライフスタイルを発信しています。



CONTENTS

会社概要・事業所・店舗紹介	1
環境理念・環境方針	3
社長インタビュー	5
環境活動の歩み	7
特集 子ども環境学習	11
エコ・ファーストの約束	17
環境マネジメント	19
環境計画の概要	21



環境にイイこと、プラス。

低炭素社会	
低炭素社会の構築	23
環境負荷	27
循環型社会	
廃棄物を削減する取り組み	29
環境にやさしい容器包装	31
食品廃棄物リサイクルシステム	37
自然共生社会	
生物多様性	43



社会・地域にイイこと、プラス。

店舗での取り組み	45
ピック・アップ・エコストア	47
お客様の声	49
社会貢献・地域貢献	50
環境教育	58
ユニーの食育について	59



従業員にイイこと、プラス。

働きやすい職場環境づくり	61
--------------	----



自然との調和を大切に

「未来の子ども達に美しい自然を残したい」ユニーは環境に優しい生活をお客様と一緒に進めていきます。

対象範囲 ユニー株式会社227店舗及び本社事務所（各エリア事務所含む）
※旧ユニー（株）と旧（株）ユーストアは、2008年8月21日に合併しました。この環境レポートに記載している内容の一部は旧ユニー（株）に関するものみの場合もあります。

対象読者 ユニーの各店舗をご利用いただくお客様のほか、店舗の近隣住民の方々・お取引先・従業員など、当社にかかわる全ての皆様を対象とします。

対象期間 2012年度（2012年2月21日～2013年2月20日）
※一部上記対象期間以外の活動等を記載しています。

環境理念

地球規模での環境破壊が深刻化している今日、
低炭素社会・循環型社会・自然共生社会を実現させた持続可能な社会を構築するために、
ユニーは企業活動を通して貢献します。

環境方針

ユニー株式会社は

- 1 衣・食・住・余暇にわたる総合小売業として、環境負荷の少ない安全安心な商品及びサービスの提供と店舗開発の推進に努めます。
- 2 全従業員が環境問題に関心を持ち、環境マネジメントシステムを機能させ、運用することにより、汚染の予防及び持続的な改善に努めます。
- 3 環境側面に関係して適用可能な法的要求事項、エコ・ファーストの約束及び当社が同意するその他の要求事項を遵守し、お客様ならびに一般市民・行政機関とパートナーシップをとり、人と環境にやさしい持続可能な社会の実現に努めます。
- 4 持続可能な社会を目指した環境目的及び目標を設定し、営業活動を通じて
 - 低炭素社会の実現のために、省エネ型店舗・サプライチェーン全体でのCO₂排出量の削減を目指します。
 - 循環型社会実現のために、廃棄物削減やリサイクル推進に努めます。
また、容器包装の削減とリサイクル及び環境負荷の少ない容器包装の使用を推進します。
 - 自然共生社会実現のために、食品リサイクルループの構築、生態系保全に配慮した商品を販売します。
 - 次世代を担う子どもたちに、持続可能な社会について学ぶ環境学習を実施します。
- 5 この環境方針を実行・維持し、また広く一般に開示して、お客様と一緒に、地球環境保全活動及び社会貢献活動を推進します。

2013年2月21日

ユニー株式会社
代表取締役社長

佐古則男



持続可能な社会を目指して

現在のことだけではなく未来に向かって地球環境を壊さずに、
人間や地球の生き物が共存していく社会を構築していくこと、
この未来に続く仕組みが持続可能な社会です。



エコストア
ピアゴ蟹江店

- 化石燃料の使用削減
- エネルギーの節約
- カーボンフットプリントの少ない商品
- バイオマスの利活用
- エコストアの建設

低炭素社会

CO₂など温室効果ガス
発生抑制を目指す社会

- リデュース…コピー用紙使用削減
- リユース…マイバッグキャンペーン
- リサイクル…リサイクルボックス



リサイクル
ステーション



エコ野菜

持続可能な社会

循環型社会

限りある資源を大切に、
3Rを実践する社会

自然共生社会

生物多様性を
実現する社会

エコストア、ステキな未来へはじめての一步

お買い物をする際の、ほんのちいさなエコゴコロが地球の未来を救います。

10年後、20年後の地球の未来を快適なものにするために、
ユニーと一緒に地球環境にやさしい生活をはじめませんか？

社長インタビュー

ユニーはエコ・ファースト企業としてユニーグループ・ホールディングスのグループ力を活かして地域に根差した環境・社会貢献に取り組み、持続可能な企業を目指します。



ユニー株式会社 代表取締役社長

佐古則男

ユニーグループ・ホールディングスが2013年2月21日に誕生しました。グループ17企業の多様な企業力を活かしたグループ力で、企業活動を通じた環境社会貢献活動を、さらに進展させ果敢な挑戦を続けます。そしてユニーが2008年に環境大臣と交わした最初の「エコ・ファーストの約束」は2013年3月に達成することができました。そして次の約束を締結し、持続可能な社会を実現していくことを目指しています。次なるユニーの姿を、佐古則男代表取締役社長への百瀬則子環境社会貢献部長によるインタビューで紹介합니다。(インタビュー：2013年6月18日)

エコ・ファースト企業として

百瀬 ユニーが環境先進企業として小売業界で唯一「エコ・ファーストの約束」を環境大臣と交わし、その約束を果たすことができました。特に、最近世界的に問題になっている「食品廃棄物」をリサイクルループにより再生利用できたことは、食品関連事業者として、誇れることです。そしてその功績により第34回食品産業優良企業等表彰環境部門で「農林水産大臣賞」を受賞しました。食品産業の賞を小売業が受賞できたことはとても光栄なことです。

佐古 ユニーが総合小売業界で唯一「エコ・ファースト企業」に選ばれたのは、①“地産地消”の食品リサイクルループの推進と環境学習の実施、②持続可能な社会の構築に向けた活動、③消費者のライフスタイル変革による低炭素社会循環型社会実現の推進、が評価されたからです。

百瀬 こうした環境活動は、ユニーが本業の中から課題を抽出し、店舗で具体化したもので、地域のお客様やNPO、自治体と一緒に進めてきたものです。

特別なことではなく、誰でも参加できる環境貢献を、ユニーに買い物に来ていただければ実現できるということが大切だと考えます。

佐古 環境活動は、日常生活で参画できる

ことが最も活動の広がり期待できると考えています。全店舗での環境学習の定期的な開催が環境活動の広がり定着の鍵です。「エコ・ファーストの約束」の達成は、地域をより良くしたい思いで取引企業・団体とお客様と協働した成果だと、全ての方に感謝します。ホールディングスとして、エコ・ファーストやISO14001(国際標準化機構の発行する環境マネジメントシステムに関する国際規格)に沿ったユニーの取り組みをグループ全社に拡大・共有していくことが、これからの使命だと考えています。

新しい店づくり

一地域における店舗の役割を果たす

百瀬 ところで社長に就任されて、ユニーの店舗にどのような抱負を抱いているのでしょうか。またホールディングスのグループの一員としてはいかがでしょうか。

佐古 環境・社会貢献への期待は大きいと考えています。ご来店いただくお客様にバリアフリーは当然のこと、あらゆる客層に安心・安全を届けます。子育て世代への支援として赤ちゃんスペースを見直し、より使いやすくするよう重点的に取り組んでいます。小売業というのは、物とサービスの販売だけでなく、地域にとってのコミュニティの場としての役割もこれからは強く求められてい

ます。また地域の公共の場としての期待もあり、行政や各種団体とのコラボレーションで、さまざまな使い方を提案していきたいですね。

百瀬 特に高齢者へのお買い物サポートとして、名古屋市などでは地域の社会福祉協議会などと連携して、市内巡回バスの停留所にピアゴやアピタの店舗を使ってもらい、小売業ならではの地域活動を行っています。

佐古 我々が目指すのはBuyではなくShoppingです。買い物をお客様の喜びの一つにできるよう、店舗は地域の方々の精神的な充足感を得る場所にしたい。従業員には義務感だけでなくボランティア精神も必要でしょう。

百瀬 2013年3月にボランティア活動に対する「第4回Make a CHANGE Day」の奨励賞をいただきました。店舗周辺の長年の美化活動「全店一斉クリーンアップキャンペーン(1府19県)」が継続・発展性に富む活動だと評価されました。地味な活動を認めてくれたことに、うれしさが込み上げました。

佐古 清掃活動は店舗では当たり前前の活動です。この当たり前前を誇りに思い継続していくという点で、受賞の意義は大きいですね。

百瀬 本部からの指示ではなく、多くの店舗が少し足を延ばして公園や地下鉄の通路などを清掃しました。通りすがりの方から



「ご苦勞様です」「ありがとうございます」と言われ、これが、やらされ感のない取り組みにつながったようです。

ユニーの特徴だと思うのですが、何らかを企画したとき、本部からの指示があるなしに関わらず、自らの意志で全店が実行しますね。

佐古 企業として、誠実さが非常に重要な視点です。その視点を従業員が持っているからこそ、全体活動にスピードが出て徹底することにつながっているのでしょう。環境や社会貢献活動に関しては、何か大々的に画期的なことよりも、地道に誠実に取り組んでいくことが重要ですから。

自治体との包括協定締結

一地域社会への貢献

佐古 2011年3月11日の東日本大震災では、被災地への物資の搬送が交通規制によって止められるなど、小売業だけでは支援活動に限界があると感じました。地域社会への貢献を確実に実行するためには行政との連携が欠かせないとして、2011年11月に愛知県と「連携と協力に関する包括協定」を締結しました。2012年には千葉・岐阜・石川・三重・静岡・神奈川県と締結し、現在7県です。行政との相互連携と協力により、サービスの向上と地域の活性化を図ります。地域の安全・安心の確保、観光や県産品の情報発信、地産地消の推進、子育て支援など、多岐にわたります。例えば、災害対策として店の施設を一時避難所として提供する、生活必需品を可能な範囲で調達・配送する、県はその運搬を優先運行する、といったことです。大きな災害時にはいち早くサービスが受けられ、県民の安心につながります。締結がさらなるサービスにつながるよう取り組んでいきます。

百瀬 その他にも、地域社会を豊かにするさまざまな情報発信もしていきたいですね。例えば、認知症への理解を深める活動。各店舗では認知症サポーターの勉強していますが、それだけではなく来店されたお客様にも認知症のことを知っていただき、地域全体で支援する活動、イベントを店舗で開催しています。

佐古 重要なのは、特定の従業員だけが担当するのではなく、従業員一人ひとりがまず勉強に参加すること。学ぶことで、サービスという価値観をどう提供するかと考える発端になりますから。

店舗での取り組みが、地域で高齢者を見

守る体制作りに役立っていけると嬉しいですね。

ESDへの取り組み

一子どもたちへの働きかけ

百瀬 ところで、ESD (Education for Sustainable Development) 国際会議が2014年に愛知・名古屋で開催されます。ESDは、ユネスコが推進している持続可能な開発のための教育のことです。愛知県から協力要請を受けており、これまでの経験を活かし積極的にサポートします。

ユニーでは環境部を設立した翌年2002年から、子ども環境学習を実施しています。それは環境に対する意識は大人になってからではなかなか身につかないと気づいたからです。1年間に3000～4000人の子どもたちが参加する環境学習「エコロお店探検隊」「エコクイズラリー」を開催しています。ポイントは、環境についての知識、知識を行動に移すことを必ずセットにしていること。例えば、牛乳パックを持参しての紙すき教室で葉書を作ります。この体験で紙の再生を実感できます。実感すれば行動につながります。こうした体験を通して、「牛乳パックは、リサイクルするためにお店へ持っていかんだよ」と、リサイクル意識の定着になっているようです。

佐古 私は、それがレベルの高い環境学習だと思うのです。高いレベルとは高度なことではなく、身近なところで具体的なことをきちんと知り、その一歩先をきちんと理解し行動することです。

百瀬 また、小学校や児童館への出前授業も行っています。楽しく学べるように、使い終わった容器などを使ったエコ工作やゲームで「地球に優しいお買い物」をテーマに実施しています。お買い物を通して環境貢献ができる大人になってほしいと期待しています。

佐古 子どもたちには何より経験させることで環境意識が高まります。未来の地球環境をより良くしていくために子どもたちへの働きかけは、とても大切なことです。子ども達やお客さま、従業員に対しても「わかりやすい言葉」で伝え、誠実に取り組んでいくことが重要です。いくら素晴らしいことでもわかりにくければ人は動きません。どうすればわかってもらえ、実現できるのか。未来を生きる子どもたちのために、常に知恵を絞り取り組んでいきたいと思えます。

ホールディングス化への期待

百瀬 今年2月、持株会社ユニーグループ・ホールディングス株式会社が誕生しました。さまざまな事業でのグループ力に大きな期待が寄せられています。

佐古 環境・社会貢献においては、特に期待が大きいと言ってよいでしょう。事業形態は違って、グループとしての価値観がここにありますから。価値観とは「それぞれの店が地域のお客様に対してどう貢献できるか」ということです。

それは、それぞれのグループ企業が扱う商品やサービスがお客様の生活を豊かに最適なものにしていくこと、そのことを従業員が誇りに思えること。

ユニーは今まで成し遂げてきた「環境社会貢献、地域への貢献」をグループ会社に伝え、一緒に活動してシナジー効果を出していくことが、大きな役割だとしています。

例えばグループの力を結集して開発しているプライベートブランド商品の中で「eco! on」は、品質・価格だけではなく、環境にも配慮した商品です。こうした商品をグループ会社で販売することが環境貢献することであり、お客様は「購入することで環境貢献できる」仕組みです。

営業面だけではなく、環境貢献や社会貢献を進めていくことで、企業としての価値を高めていくことも、これからの課題です。

百瀬 ユニーは持続可能な社会を目指してきました。これからはグループ全体で持続可能な社会を構築し、持続可能なユニーグループ・ホールディングスにしていくために、頑張らなければいけませんね。



代表取締役社長 佐古則男 (左)、
グループ環境社会貢献部長 百瀬則子 (右)



環境活動の歩み 2001年～2013年

- …社会一般事項
- …ユニーの全社的事項
- …ユニーの環境に関する事項
- …ユニーの社会貢献に関する事項

ユニーに環境部が2001年に設立して以来12年、その間に2005年に愛知県を会場に「愛・地球博」の開催、2010年に愛知、名古屋で「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」の開催など環境に関する大きな催しがあり、環境に対する関心が広がりました。また2011年の東日本大震災では自然の脅威や人間の開発した科学技術に対する信頼性の揺らぎ、そして命や人の絆の尊さをあらためて実感しました。ユニーでは12年の間に、廃棄物を削減し再生利用を進める循環型社会を事業活動のなかで実施し、さらに低炭素社会を目指し、「テーブルの上の生物多様性」をテーマに自然共生社会を推進しています。これらの活動を振り返り、さらにこれからも「持続可能な社会」をお客様や取引先、関係のある人々と進めていきます。

- 環境法令施行（食品リサイクル法、容器包装リサイクル法、家電リサイクル法）
- ユニーに環境部を設置
- 環境レポート第1号を発行
- 環境理念、方針を制定
- マイバッグキャンペーンを開始…スタンプカードと交換でオリジナルショッピングバッグをプレゼント
(スタンプカード回収 / 24万9,802枚)
- 家電リサイクル回収 / 2万6,243件



- ISO14001認証取得への取り組み、本社事務所サイトでキックオフ
- 食品リサイクルにチャレンジ
- 廃棄物計量調査を実施



- ISO14001本社事務所認証取得
- 弥富物流センターにリサイクルセンターを開設（店頭回収した容器包装を集積）
- エコロお店探検隊をアピタ東海荒尾店、アピタ岡崎北店でも開催



●ISO14001本社事務所認証取得



2001

2002

2003

2004

- ユニーに環境会議を立ち上げ、組織を編成



- 環境配慮商品を品揃えしお客様が選びやすいようにショーカードを添付



- 廃棄物庫のごみの分別を開始
- 食品残さの真空乾燥機を、アピタ岡崎北店、アピタ東海荒尾店に設置

- 初めてのエコロお店探検隊をアピタ新守山店で開催



- マイバッグキャンペーン…レジ袋いりませんカードを全店に設置（スタンプカード回収 / 30万2,260枚）
- アピタ環境展をアピタ新守山店で開催



- 静岡地区本部がISO14001認証取得



- 愛知県でヒラテ産業、JAあいち海部の食品リサイクルループが完成、エコ野菜売り場をアピタ稲沢店に設置。JAあいち海部で「いちご狩り」と消費者交流会を開催



- 新入社員教育に「環境教育」を導入
- 名古屋市エコロジー・ワンデーツアーをユニー黒川店で開催
- 各商品部で環境配慮商品を販売
- 食品残さの真空乾燥機をアピタ瀬戸店・アピタ江南西店に設置
- あいちクリーンキャンペーンに参加、店舗周辺の清掃活動を全店で実施
- 廃棄物計量器設置を開始



- 愛知県で愛・地球博開催
- 北陸地区本部、関東地区本部がISO14001認証取得



- フールビズを全店で展開、万博会場でのファッションショーに佐々木社長と若手社員が出演



- 食品リサイクルループ、「アritaさんちの豚」(飼料化)を横浜市内店舗で開始。三重県の三功、酵素の里とのリサイクルループ開始

- 夏休み自然探検隊を岐阜県トヨタ白川郷自然学校で開催



- 本社保管庫のPCB (特別管理産業廃棄物) を豊田市の処理工場へ搬出
- 食育を店舗で開催 (アピタ東海荒尾店)



- バイオマスプラスチック製容器を卵パック、フルーツケースに導入。農水省の「バイオマス利活用フロンティア推進事業」に選定される



- ノーレジ袋キャンペーン開始、レジ袋を使わないお買い物物を推進



- 家電リサイクルへの対応を評価され「家電リサイクル券取扱優良店」に認定される

- 愛知県の全店舗で「CO₂削減マニフェスト」を登録

- 店舗駐車場を利用したパークアンドライドの活動が評価され、ユニー乙川店、アピタ阿久比店が「自動車エコ事業所認定証」を授与される

- 小池環境大臣がアピタ新守山店の環境活動を視察



2005

2006

2007

- レジ袋無料配布中止 (有料化) を横浜市、名古屋市で開始



- 食品リサイクル法の再生利用事業計画 (食品リサイクルループ) 第1号に認定される



- アピタ長久手店にエコマネーセンター開設
- 三重県の三功、酵素の里でお客様に収穫体験を実施
- 北陸3県の店舗で地元NPOと協働で子ども環境学習を開催



- 名古屋市で東邦ガスと共催で子ども環境学習「エコクッキング」を開催
- ごみゼロ社会推進あいち県民大会で優良店としてユニー常滑店とアピタ豊田元町店が表彰される



- ユニーの一般廃棄物・産業廃棄物・リサイクルの事業者による第1回環境関連事業者連絡会を開催



- 環境ダーなごやにてレジ袋有料化を決め、三者協定を締結



- ユーストアと合併 (8月21日)
- 総合小売業で唯一「エコ・ファースト企業」に認定される



- バイオマスプラスチック製容器を回収してリサイクルを開始



- 食品リサイクルループが評価され「第1回環境省食品リサイクル推進環境大臣賞 最優秀賞」を受賞
新しい食品リサイクルループとして愛知県尾張エリアで「DIDバイオマスリサイクルシステム」が稼働



- レジ袋無料配布中止店舗の地域が愛知、岐阜、三重、富山、山梨、静岡に徐々に拡大
- 旧ユーストアも含むユニー全店舗に廃棄物計量システムを導入、着実に総廃棄物量とコストを削減



- 環境配慮商品PB「eco!on」の審査を第三者審査委員会が実施、認定された商品を販売



- 岐阜県大垣市のアクアウォーク大垣のオープンに際して、大垣市環境市民会議と協働で敷地内の緑地に植林し「レジ袋 市民の森」と命名

- 環境省中部環境パートナーシップオフィスと共催で「インタープリター養成講座」を開設
- 国連世界食糧計画 (WFP) に協賛して、子どもを対象にした「給食プログラム」に参加



- エコ博の前身「家族の食卓」セミナーをアクアウォーク大垣で開催 (「地球に優しい、体に優しい食卓 エコライフ」をテーマに登山家野口健さんのトークショーなど)



2008

2009

2010

- 生物多様性条約締約国会議 (COP10開催1年前)
- ユニーは持続可能な社会構築を目指す
- 「エコ・ファーストの約束」の第1号から6号までの企業の1年経過後の報告会を開催。エコ・ファースト推進協議会が設立、ユニーは幹事企業として貢献



- レジ袋無料配布中止店舗が中部地方を中心に166店舗、辞退率30%を超える
- 食品リサイクル率が30%を超え順調に推進。国連地域開発センターの研修で途上国の行政官がリサイクルループを見学
- 経済産業省カーボンフットプリント試行事業に参加、環境配慮商品eco!onトイレットペーパー、さらら (鶏卵) を試算



- CPO10開催1年前イベントに佐々木会長が出演、参加事業として生物多様性を大切に栽培された「サステナブルコーヒー」を紹介



- けやきウォーク前橋、アピタ長津田店で「エコ博」を開催、登山家野口健さんのトークショー、WFP協会のチャリティーオークション
- 名古屋市のアピタ千代田橋店が「エコ事業所優秀賞」を受賞
- ISO14001の審査登録機関を日本環境認証機構に移転し更新を完了
- 有料レジ袋の売上げの一部を地域環境活動に寄付 (50市町96店舗/7,441,807円)
- ファッションを学ぶ学生を対象に「リデザイン プロジェクト (再生利用商品)」コンテストを開催、入賞作品を授産施設で生産、アピタで販売
- 国連世界食糧計画 (WFP) に協賛して「給食プロジェクト」に従業員の「ワンコイン募金」を開始

- 生物多様性条約第10回締約国会議 (COP10) 開催
- ユニーのテーマ「テーブルの上の生物多様性」
- COP10の生物多様性交流フェアに「テーブルの上の生物多様性」をテーマに参加



- 店舗でCOP10協賛イベントを開催、サステナブルコーヒー協会の川島彰良会長、名古屋市立大学の香坂玲先生のトークショーや日本モンキーセンターの「キッズズー」、珈琲工房ひぐちの協賛でコーヒーの試飲など





- 東日本大震災 (3月11日)
- 2020年までにCO₂の25%削減を目指す「チャレンジ25」キックオフイベント (総理大臣官邸) に参加
- エコ・ファースト企業が震災影響での電力ピークを抑えるために「夏の節電目標」を環境大臣と交わす



- 愛知県と包括協定を締結、地産地消など地域活性化や環境保全、災害時の支援などを協働
- ピアゴ蟹江店、省エネルギーモデル店舗としてリニューアル。従来型の店舗より30%省エネが目標



- アピタ千代田橋店の環境活動が評価され「エコマーク小売店」第1号に認定



- 食品リサイクルループ「千葉県/ブライトピック、プリマハム、山崎製パン」「三重県/三功・酵素の里」「岐阜県、愛知県/中部有機リサイクル」「京都府、滋賀県、奈良県/京都有機質資源」が認定
- 環境省「活かそう資源プロジェクト」に参加、エコ博に出展
- 生物多様性「いろんな生きものと一緒に生きている」を子どもたちに伝えるために「モンキーサマースクール」を開催



- ユニーグループ・ホールディングス株式会社設立
- 第34回食品産業優良企業等表彰「環境部門」農林水産大臣賞を受賞



- 東日本大震災被災地復興支援「光のカケラプロジェクト」をNPOウイメンズアイ、ECOMACO、P&Gと共催



- ユニーグループ・ホールディングス株式会社でISO14001環境マネジメントシステムを開始

2011

2012

2013

- レジ袋無料配布中止は176店舗、有料化店舗では辞退率89%、使用済みレジ袋のリサイクル回収開始
- トレイを使わない販売にチャレンジ
- アピタ千代田橋店に電気自動車の充電スタンドを設置



- 「エコ・ファーストの約束」を達成
- 食品リサイクルループを1府18県15件認定、再生利用等実施率65%
- 容器包装使用削減…レジ袋辞退率75%
- 全店舗で環境学習実施、環境関連事業者連絡会実施
- 電気自動車充電器を店舗に設置
- 店舗のドミナントエリアの自治体 (千葉県・岐阜県・石川県・三重県・静岡県、神奈川県) と包括協定を締結
- バイオマスプラスチック製品 (レジ袋、PB [eco]lon) の液体洗剤・柔軟剤の容器) の普及が評価され「第2回バイオマス製品普及推進功績賞」を受賞
- レジ袋にバイオマスプラスチックを使用



- 東日本大震災の支援としてお客様と一緒に「ベルマーク活動」を実施、325万点収集



- 全店一斉クリーンアップキャンペーンで「Make a CHANGE Day」奨励賞を受賞





特集 子ども環境学習

エコ・ファーストの約束 **2**

【環境について学ぶための取り組み】

2014年11月に、愛知県・名古屋市で「ESDに関するユネスコ世界会議」が開催されます。ESD (Education for Sustainable Development) とは、「持続可能な開発のための教育」「持続発展教育」と訳されます。ESDは、一人ひとりが世界の人々や世代、環境との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革するための教育です。ユニーは、ESDの考え方を取り入れた環境学習に取り組んでいます。



ESD (持続可能な開発のための教育) とは

地球の温暖化、資源の浪費と枯渇、生態系サービスの劣化など、私達人間が生きるための基盤である地球環境が持続不可能な状況になりつつあります。また、世界中の人が私達日本人と同じ生活をすると、地球2.3個分の食糧や資源が必要だと言われています。このような状況であることを意識せずに食糧や資源を使い続ければ、未来の子ども達は生きていくことが困難になるかもしれません。

私たちは応援します

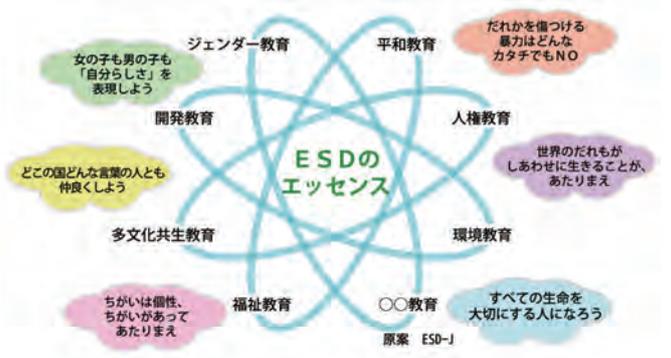


●ESDの歩み

- 1992年**
国連環境開発会議 (ブラジル/リオ・デ・ジャネイロ) にて、持続可能な開発のための教育 (ESD) の重要性をつたった「アジェンダ21」を採択
- 2002年**
持続可能な開発に関する世界首脳会議 (南アフリカ/ヨハネスブルグサミット) にて、日本の提案による「ESDの10年」が実施計画に盛り込まれる。第57回国連総会にて、ユネスコを主導機関として「国連ESDの10年」(2005～2014)を採択
- 2005年**
「国連ESDの10年」スタート
- 2014年**
「持続発展教育 (ESD) に関するユネスコ世界会議」(日本/愛知県・名古屋市、岡山市)

だれもが幸せに生きることのできる社会、つまり持続可能な社会を構築するためには、今と未来に想いをよせ、地球の限りある資源を大切に使う暮らしや社会、そして一人ひとりの行動を変えていかないとはいけません。そのための学びあいがESD、持続可能な社会づくりのための教育です。

ESDは国際社会の中でその必要性がうたわれ、1992年の「国連環境開発会議」、2002年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議」を経て、2005年に「国連持続可能な開発のための教育 (ESD) の10年」キャンペーンとして位置づけられ、世界各国でESDの取り組みを活性化するための期間が設定されました。最終年の2014年に愛知県名古屋市で開催される「持続発展教育 (ESD) に関するユネスコ世界会議」は、その10年間のキャンペーンの成果と今後について協議する重要な国際会議です。このように国際社会、日本社会において、この持続不可能な社会状況を作り直すための人材育成、教育 (ESD) を実施することが重要課題となっています。



子ども環境学習のあゆみ

愛・地球博開催

年	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
環境学習	アピタ桑名店にて初めて実施	1店舗 (アピタ新守山店)	4店舗	5店舗	7店舗	13店舗	14店舗
自然探検隊	トヨタ白川郷自然学校 モンキーサマースクール	 ●エコフレンド認定	 ●白川郷合掌集落の前で	 ●新緑の田植え祭	 ●NPOとの協働	 ●農業体験	 ●エコクッキング
農業体験	JA農業体験 三功						
企業コラボ	東邦ガス 中部電力 ブラザー工業 デンソー						
工場見学	中央化学工場見学 丸富製紙工場見学						
EPOC							



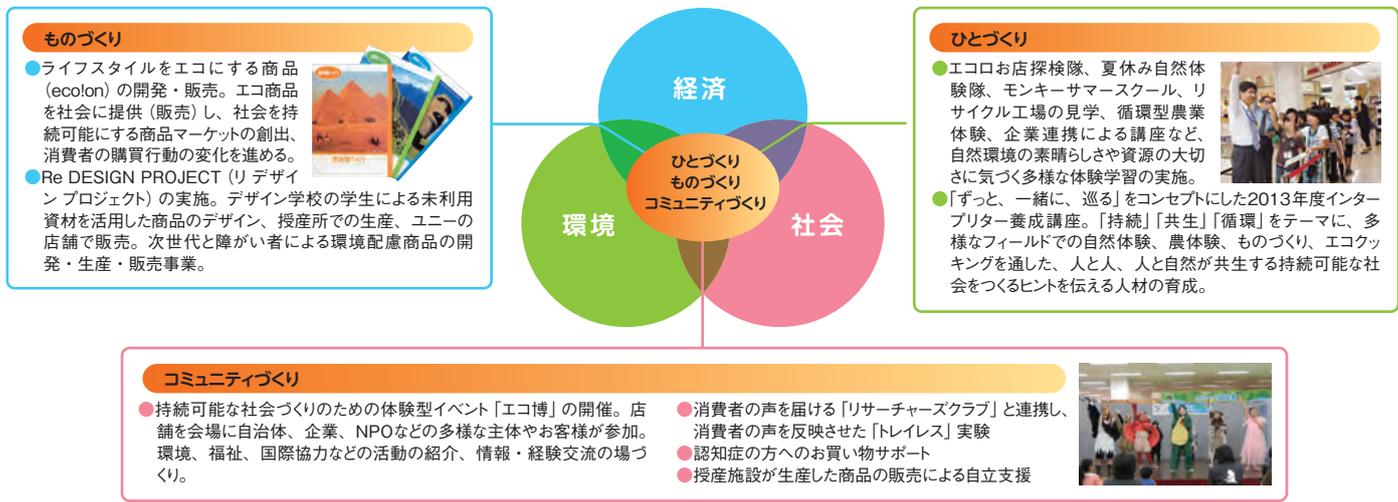


ユニーのESD

ESDを取り入れた環境学習、環境・社会貢献活動

ユニーが行っている環境学習は、ESDの考え方を取り入れています。持続可能な社会を担う子ども達に、お店探検隊や農業体験、自然探検など体験学習を行うとともに、いろいろな人に出会い、交流する場を提供しています。環境、社会貢献、食糧問題、命の大切さなど環境、社会貢献を広く捉え、ユニーの店舗や商品、サプライチェーンとともに、子ども達が美しい自然の中で幸せに生きていくための「力」を培うことを願い、活動をしています。

持続可能な社会の実現には、「環境と経済と社会の調和」が必須であると言われています。ユニーでは、環境、経済、社会の調和を重視した、ひとつづくり、ものづくり、コミュニティづくりを進めています。そのプロセスが人々の学びあい、まさにESDです。



持続可能な社会づくりを牽引する企業としてESDに取り組んでほしい

ESDは、社会を構成する人々、セクター全てが取り組むべき教育活動です。ユニーでは、地域の人々を紡ぎ、環境・社会にやさしい経済活動を次々と生み出しています。そのプロセスにおいて、お客様、社員、メーカーなど関わるステークホルダーがみな、ESDとは言わなくても、持続可能な社会をつくる、安心して暮らせる未来をつくる、というESDの概念に共感し、学びあう場がつけられています。さらに多様な活動をつなぎ、持続可能な社会を創りだす、牽引する企業としての一層の展開を期待しています。



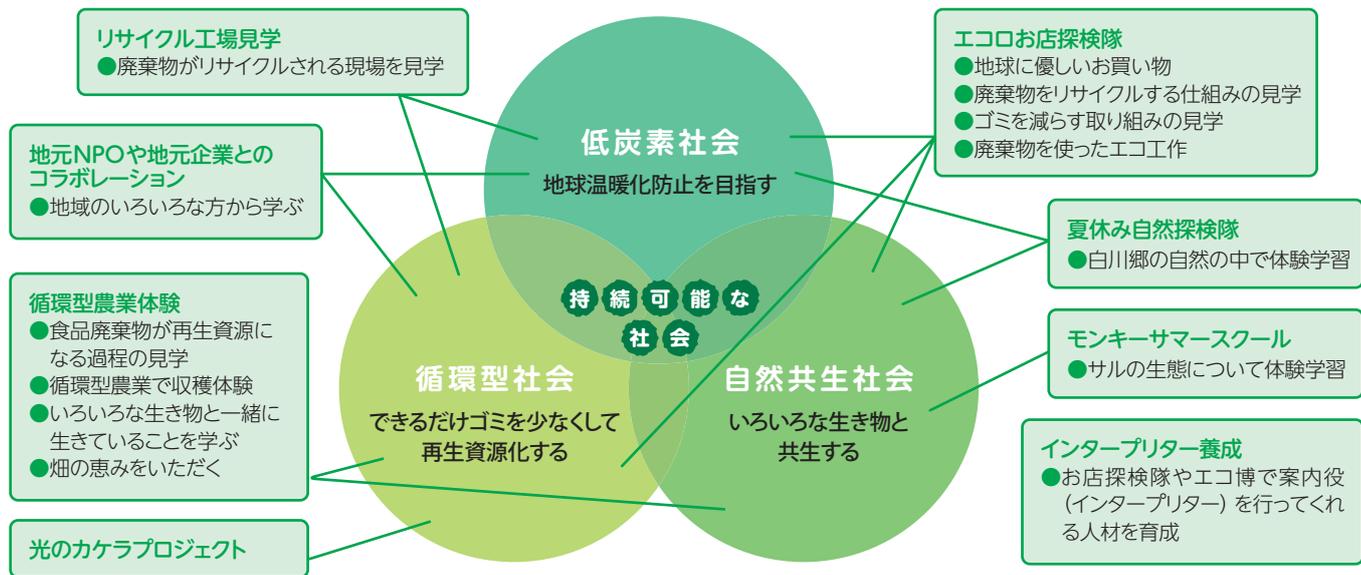
環境省
中部環境パートナーシップオフィス
新海洋子

エコ・ファーストの約束		COP10		ESD	
2008	2009	2010	2011	2012	2013
24店舗	25店舗	48店舗	アピタ・ピアゴ 99店舗	アピタ・ピアゴ 96店舗 (102回) ピアゴエコイズラリー 122店舗	
			 ●フォクツネザルの餌やり 2011~	 ●エコイズラリー	
			 ●エコバッグ作り 2010	 ●エコクッキング 2011~	
			 ●オリジナル鉛筆づくり 2009~		
			 ●リサイクルベンチ工場見学 2009~	 ●牛乳パックリサイクル工場見学 2011~	
			 ●名古屋市立本郷小学校	高校1校、小学校1校、 児童館2館	小学校1校、 児童館4館





ユニーは持続可能な社会をつかっていくために環境学習を実施しています。



循環型農業体験

私たちの毎日の食卓に並ぶ食物はどのように作られているのでしょうか？ ユニーが推進している食品リサイクルループの仕組みを見学したり農業体験を通して、「たくさんの生き物と一緒に生きること（生物多様性）」や「食べ物を大切にすること」を学びました。

JAあいち海部での農業体験

JAあいち海部のエコ部会では、食品リサイクルループで作った堆肥を使い、野菜や米を生産しています。お店で募集した子ども達やその家族と一緒に田植えや稲刈り、小松菜の収穫などの農業体験をしました。



生産者に手伝ってもらい、小松菜の収穫



カマを使って稲刈り体験



でき上がった堆肥をさわりました



さつまいも収穫体験

三功・酵素の里での農業体験

三功・酵素の里では、ユニーから排出された食品残さから堆肥を作り、その堆肥を使って野菜を作っています。直接土にふれての収穫を体験しました。



地元NPOや企業とのコラボレーション

地元NPOとのコラボレーション

ユニーの店舗の近くで活動しているNPOと一緒に環境学習を実施しました。ユニーは店舗を活動の場所として提供、NPOのプログラムを実施し地域とのコミュニケーションを深めました。



大垣市環境市民会議



エコネットふくい

企業とのコラボレーション

東邦ガス、デンソーなどの企業と共催で環境学習を実施しました。

●東邦ガス

地元で作られた野菜や調味料を使ってエコクッキングをしました。野菜の皮なども工夫して調理し、おいしくいただきました。



●デンソー

デンソーとの共同イベントでは、いろいろな力で車を走らせたり、科学実験などを行い、ラリー形式で店舗をまわりました。約400名が参加しました。





エコロお店探検隊

2001年にたった1店舗からスタートした「エコロお店探検隊」も、2012年には224回実施し3,358名が参加しました。持続可能な社会を構築するための体験を通して、未来を担う子ども達が地球環境を守ってくれることを願っています。

ユニーのお店では環境に対してどのような取り組みをし、環境に良い商品にはどのようなものがあるのでしょうか。店長を探検隊長にして、地域の小学生がお店で行われている環境保全活動や環境にやさしいお買い物を勉強します。環境問題は決して難しいことや大変なことではなく、身近なことから始めることができる、ということを感じて実践してもらいたいです。

リサイクルの秘密を知ろう

使い終わった容器の行方を見学!

家庭から排出される容器包装をリサイクルステーションで回収しています。回収することで、ゴミではなく新しいものに生まれ変わることを伝えます。



地球にやさしいお買い物をしよう

環境ラベルの意味を学ぼう!

子ども達が身近な文房具についている環境ラベルを探します。普段使用している下敷きやノートにも、リサイクルされたものや環境にやさしい素材で作られたものがあります。



お店の裏側を探検しよう

お店から出るゴミの行方を知ろう!

店舗の裏側を見学します。店舗から出るゴミは19種類に分別し、計量しています。計量することで、ゴミを減らすよう意識を高めます。また、折り畳み式のコンテナを使用し、段ボールの使用抑制に取り組んでいます。



エコ工作にチャレンジしよう

使わなくなったものを材料にした工作体験!

通常なら捨てられてしまう容器包装などを使用したり、自然の素材を使ったエコ工作を行います。捨ててしまえばゴミになってしまうのも工作で生まれ変わります。



ピアゴエコクイズラリー

ピアゴにて、ラリー形式の環境学習を開催しました。お店の環境の取り組みをラリー用紙を片手にまわり、身近なスーパーマーケットでの環境の取り組みを知りました。



自由研究応援隊

夏休みの宿題のヒントをお店で探そう! お店にはリサイクル・商品・環境ラベルなど、夏休みの自由研究のテーマがいっぱい。2012年は牛乳パックのリサイクルをテーマに展示を行い、自由研究のお手伝いをしました。



ユーホームお店探検隊

ホームセンターであるユーホームならではの環境の取り組みを学びました。太陽光パネル・LEDライトなど今まで少し難しいと思っていたことが身近に感じることができるようになりました。また、端材を使いオリジナルプランター作りを行いました。





夏休み自然探検隊

2005年からトヨタ白川郷自然学校で夏休み自然探検隊を開催しています。2012年は「未来のエコスタ」に応募した小学4年生から6年生の24名が世界遺産白川郷で自然探検をしてきました。

先人の知恵

白川郷の合掌造りでは
昔の人の知恵を学びました。



合掌造りの家はこんなふう
なんだね。工夫がいっぱ
いだ！



白川郷の合掌集落はとっても大き
くて独特の形をしているよ

自然に 触れる

森や川、たくさんの
自然に触れました。



インタープリターに森の秘密を教えてくださいました



白川村の「お！これは残した
い！もの・こと・風景」
を探しました



3日間でいろいろな体験をしました



「上手に吹けるかな？」草笛
の吹き方を教えてくださいま
したよ



川の水の流れを使って電気を作
ろう！上流と下流、ど
ちらがいいんだろう

友達づくり

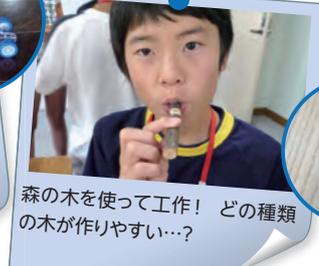
全国から集まった
友達と仲よ
くなりました。



ちょっと背伸びをしてテー
ブルマナーの講習



川の水を水素と酸素に分解してエ
ネルギーを作りだしました



森の木を使って工作！どの種類
の木が作りやすい...？



モンキーサマースクール

2011年より日本モンキーセンターでサマースクールを開催しています。「ぼくの私の好きな生き物」をテーマに応募した24名の小学生が愛知県犬山市の日本モンキーセンターで人間に一番近い生き物であるサルのことを学んだり、理想の動物園を考え発表しました。



学芸員からサルの生態を学び、
サル図鑑を自分で作りました



サルの種類によって
食べるものが違うんだね



自分達で河原の石を削り石器を
作りました。お肉も切れる！



手を使って上手にえさを
食べている様子を観察しました



グループごとに理想の
動物園を考えました



夏休み親子自然教室

静岡地区を対象にした自然教室を行いました。リサイクルトイレトペーパー工場（丸富製紙）を見学した後は、富士常葉大学で山田辰美教授から富士山についてのお話を聞き実験をしました。

富士山の火山噴火のメカニズムを学び実験で火山の層を作ったり、富士山に降る雨が長い時間をかけて地上に降りてくることを実験を通じて学びました。



富士山に降る雨の実験



溶岩が流れ富士山ができるまでの実験



富士山の断面を観察



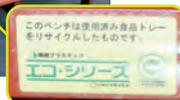
噴火のメカニズムの実験



リサイクル工場見学

中央化学（トレイリサイクル工場）

店舗で回収したトレイをリサイクルしてベンチを作る工場を見学しました。



三功（廃棄物リサイクル工場）



丸富製紙（牛乳パックリサイクル工場）

店舗で回収された牛乳パック類をリサイクルして、トイレトペーパーを作る工場を見学しました。



インタープリター養成

市民講座なごや環境大学で「お店探検隊インタープリター」を養成しています。インタープリター養成講座2012は「ショッピングが地球を救う」をテーマに作り手の思いを知り、それを伝え広げる講座を行いました。



味噌蔵に行き、味噌のできる工程を学びました



インタープリターの皆さんと協力しながら講座を行っています



EPOC

EPOCは中部地区を活動拠点とする環境パートナーシップクラブで、業種や規模の垣根を越えた企業が集まり、地域社会で活動しています。ユニーが所属する「次世代交流分科会」では、子ども達が分かりやすく学び、体験する講座を開きました。ユニーでは、「環境にやさしいお買い物」をテーマに小学校や児童館で講座を行いました。



名古屋市立八社小学校



安城市中部児童センター



愛西市市江児童館





エコ・ファーストの約束

ユニーは、環境への取り組みの業界のトップランナーとして2008年に環境大臣と「エコ・ファーストの約束」を交わしました。さらに2010年には、エコ・ファースト制度の改定により、新たな約束を更新しました。日本の環境問題は、地球温暖化対策とともに食品廃棄物の問題など生活に密着したものが多くなってきています。企業だけではなく、市民のライフスタイルを変革するような取り組みが求められています。

エコ・ファーストの約束を達成

環境省からエコ・ファーストに認定された企業が集まり、さらなる持続可能な社会実現を目指して2009年にエコ・ファースト推進協議会が発足しました。協議会は業界を超えて情報交換や啓発活動を行っています。2012年度には、企業の環境プレゼンテーションのコンクール「環境メッセEXPO」を開催、ユニーは「お店には秘密がいっぱい、エコロ探検隊出発!」というメッセージで「環境パートナーシップ会議賞」を受賞しました。

また、第3回エコとわざコンクールを実施し、エコプロダクツ展の会場で表彰式を行いました。アピタ・ピアゴの店舗からの応募で、2名が入賞しました。

エコ・ファースト推進協議会

さまざまな業界から選ばれたエコ・ファースト企業が集まり、業界を超えて持続可能な社会を構築していくために、2009年にエコ・ファースト推進協議会が発足しました。協議会では会員企業の情報交換や次世代を担う子ども達を応援するイベント「エコとわざコンクール」を開催し、社内外の啓発活動を推進しています。

また、企業の環境活動をさらに世の中に浸透させるため、エコ・ファースト推進協議会加盟の38社は、「環境メッセEXPO2012」を開催しました。企業の環境活動を各社の担当者が「13文字程度のメッセージ」にまとめ、会場で3分間のプレゼンテーションを行いました。ユニーは「子ども環境学習」をテーマに発表し、当日の審査で「環境パートナーシップ会議賞」を受賞しました。



環境省南川事務次官に報告する佐古社長



環境メッセEXPO



エコとわざコンクール表彰式

エコ・ファーストの約束の進捗状況

① 食品循環資源のリサイクルループによる再生資源化および、容器包装廃棄物の削減に取り組めます。	<ul style="list-style-type: none"> ● 食品リサイクルの取り組みを全店舗で実施し、2012年までに再生利用等実施率60%を達成します。 	再生利用等実施率 66.5% (2012年度)	p37 参照
	<ul style="list-style-type: none"> ● 再生利用事業計画を制度を活用し、食品リサイクルループを店舗のある1府18県に拡大します。(福島県を除く) 	全府県にリサイクルループを構築 (2012年度)	p37 参照
	<ul style="list-style-type: none"> ● 食品廃棄物発生抑制の取り組み (食品売上1万円あたりの発生量を2012年までに2007年と比べ10%削減) 	22.4% 削減 (2007年度比)	p37 参照
	<ul style="list-style-type: none"> ● 2012年までにレジ袋の辞退率75%を達成します。 	レジ袋辞退率 75.0% (2012年度)	p31 参照
	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治体と協力し、使用済み容器包装を店頭回収しリサイクルします 	店頭回収実績 3,288t 前年比 102.8% (重量)	p33 参照
② 持続可能な社会構築のための環境学習を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> ● 子ども環境学習を全店舗で実施します。 	全店舗 で実施	p11 参照
	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境関連事業者(廃棄物・リサイクル関連など)に対し、研修を実施し法令遵守・リサイクル推進を促します。 	研修 / 2回	p58 参照
③ 消費者のライフスタイル変革による、低炭素社会実現を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境に配慮した商品やサービスなど、消費者に地球温暖化防止を目指したライフスタイルを提供します。 	環境配慮商品eco!onの商品開発・販売	p25 参照
	<ul style="list-style-type: none"> ● 消費者の来店方法として、電気自動車の充電器の設置を進めます。 	充電器設置店舗 / 18店舗21台	p24 参照





エコ・ファーストの約束 (更新書)

～環境先進企業としての地球環境保全の取組～

平成24年3月22日

環境大臣 細野 豪志 殿

ユニー株式会社
代表取締役社長

前村 哲路

「未来の子供達に美しい自然を残したい」

ユニー株式会社は、食品循環資源の再生利用等を推進すべき食品等の小売業としての社会的責任を踏まえ、法令遵守を徹底するとともに、持続可能な社会構築と社会貢献のため、以下の取組を進めてまいります。



食品循環資源のリサイクルループによる再生資源化および 容器包装廃棄物の削減に取り組みます。

- 食品リサイクルの取り組みを全店舗で実施し、2012年度までに再生利用等実施率60%を達成します。
- 再生利用事業計画制度を活用し、地元のリサイクル事業者・農業者等と連携し、地産地消の取り組みとなるよう配慮した食品リサイクルループを2012年度までに、当社が店舗展開する1府18県に拡大します。
- 容器包装使用抑制への取り組みとして、2012年度までに会社全体としてレジ袋の辞退率75%を達成します。
- 地方自治体と協力しながら、お客様が持ち帰った使用済み容器包装を店頭回収し、限りある資源を有効に循環させます。



持続可能な社会構築のための環境学習を実施します。

- 未来を創っていく子どもたちに対して、買い物を通して持続可能な社会（低炭素社会・循環型社会・自然共生社会）を実現するために学び、考え、行動する環境学習を2012年度までに全店舗で実施します。
- 当社と取引のある環境関連事業者（廃棄物・リサイクル関連など）に対し、関連法令や最新技術などの学習会や視察をととして、法令遵守・リサイクル推進を促します。



消費者のライフスタイル変革による、低炭素社会実現を目指します。

- 環境配慮商品やカーボンフットプリントの表示、地産地消費作物などの購入や、容器包装の適正使用などを通して、消費者に地球温暖化防止を目指したライフスタイルを提供します。
- 消費者の来店方法として、電気自動車の充電器の設置、公共交通利用啓発などを推進します。



ユニー株式会社は、上記取組の進捗状況を確認し、その結果について定期的に公表するとともに、環境省へ報告します。





環境マネジメント

ユニーは、持続可能な社会の構築を営業活動を通して実現することが企業責任であると「環境方針」に掲げています。現在のことだけでなく、未来に向かって地球環境を守り、人間が自然と共存していける社会、持続可能な社会を「地球にやさしいお買い物」によって実現したいと願い、お客様や生産者、取引先そしてその他の関係する人達と一緒に目指していくために、環境マネジメントを実践しています。

環境マネジメントシステム (EMS) の組織と活動

ユニーは営業活動の中で地球環境に対してさまざまな影響を及ぼしています。商品を生産者から仕入れ、運び、販売し、お客様に消費していただくバリューチェーンのそれぞれの過程で発生する環境に悪い影響（環境負荷）をできるだけ低減することを環境目的目標にしています。また、環境配慮商品の販売やエコストアの建設、容器包装の削減や廃棄物のリサイクルなど、環境保全活動をさらに進めることも、環境マネジメントシステムで実践しています。

このシステムは、Plan（計画）・Do（実行）・Check（検証）・Action（見直し、改善）のスパイラルで環境方針を実現し、持続可能な社会構築のために継続的に改善していくものです。

2013年2月ユニーグループ・ホールディングスの発足に伴い、ユニーグループ・ホールディングスの本社事務所もユニーのEMSの中で活動しています。



各部門の代表的な環境目的目標

業務サポート本部 ●総務部 ●法務部 ●業務指導部 ●店舗会計部 ●人事教育部 コピー用紙使用量削減(総務部)。従業員に対する環境保全・社会貢献に関する意識・知識の向上(人事教育部) 改善部・国際部	IT物流本部 ●情報システム部 ●物流部 ●ECビジネス部 電子帳票化によるペーパーレス(情報システム部)。センター集約による物流の合理化(物流部)。ネットスーパーの展開を推進(ECビジネス部) 改善部・国際部	開発本部 ●企画部 ●管財部 ●建設部 ●店舗開発部 エコストアの建設と環境配慮設備の評価 改善部・国際部	グループ戦略本部 ●経営企画部 ●関係会社管理部 グループ会社のシンクタンクとして環境問題解決の提案 秘書室・広報IR室
テナント本部 ●企画管理部 ●開発導入部 ●運営部 ●催事部 テナントの廃棄物削減、再生紙の分別徹底 改善部・国際部	営業サポート本部 ●商品・品質管理部 ●営業政策部 ●お客様サービス部 ●営業管理部 ●営業企画部 ●営業管理部 店舗の省エネ設備への投資推進(営業管理部)。チラシ媒体を活用した環境保全・社会貢献に関する消費者への訴求(営業企画部) 改善部・国際部	衣料本部 ●レディス部 ●子供ベビー部 ●メンズ部 ●インナー部 ●靴・服飾部 ●商品企画開発部 環境配慮商品の販売 改善部・国際部	グループ営業企画本部 ●グループ商品企画部 ●グループ商品品質管理部 ●グループ物流部 ●グループ販促部 グループ会社の環境配慮商品の開発 改善部・国際部
住関本部 ●ヘルス&ビューティ部 ●ホームファッション部 ●ホビー&スポーツ部 環境配慮商品の販売 改善部・国際部	食品本部 ●ドライ食品部 ●鮮魚部 ●精肉部 ●青果部 ●コンセ部 ●プロセスセンター管理部 店舗での食品廃棄物の発生抑制。環境配慮商品の販売 改善部・国際部	関連事業本部 ●ユーホーム事業部 ●夢屋書店事業部 ●業務部 太陽光発電商品やLEDなど環境配慮商品の普及・販売 改善部・国際部	グループ業務本部 ●グループ業務企画部 ●グループ環境社会貢献部 グループ会社の環境影響の負荷軽減に繋がる施策の企画、立案、実施 監査室
関東事務所 ●業務管理部 ●関東営業部 ●衣料部 ●住関部 ●食品部 食品リサイクルの推進。レジ袋辞退率向上。事務所の環境活動 改善部・国際部	山静事務所 ●業務管理部 ●山静営業部 ●衣料部 ●住関部 ●食品部 食品リサイクルの推進。レジ袋辞退率向上。事務所の環境活動 改善部・国際部	北陸事務所 ●業務管理部 ●北陸営業部 ●衣料部 ●住関部 ●食品部 食品リサイクルの推進。レジ袋辞退率向上。事務所の環境活動 改善部・国際部	グループ経理財務部 グループ会社の資金の調達、運用業務をユニーHDに一元化することによる作業性効率の向上 改善部・国際部





環境マネジメント (ISO14001) の取り組み

2004年1月に本社事務所がISO14001を認証取得し、その後関東事務所・山静事務所・北陸事務所がそれぞれ本部として認証取得しました。2008年2月、本社が各本部を統合、同年8月にはユーストアを合併し組織変更・拡大を図りました。

また審査機関は、2004年から2009年までオリオン・レジストラー・ジャパンでしたが、2010年からは株式会社日本環境認証機構 (JACO) に依頼しています。



サーベイランス審査



サーベイランス部門審査



サーベイランス現場内審査



環境目的目標にエコ・ファーストの約束を設定

環境マネジメントの目的目標については、各部門ごとに業務の環境影響調査を行い、環境側面を抽出し、影響の重大なものを改善するよう環境実施計画を策定しています。

さらに、エコ・ファースト企業としての高い環境目標を掲げている「エコ・ファーストの約束」を果たすために、環境実施計画に以下のことを組み込みました。

- 食品リサイクルの推進
- 容器包装の削減とリサイクル推進
- 環境教育の実施
- 環境配慮商品の開発および販売拡大



ゴミ運動いなざわ

継続的な環境目的目標

- 省エネ活動……空調温度規制・照明の個別管理・クールビズ、ウォームビズ
- 省資源……コピー用紙使用量削減
- 廃棄物の削減とリサイクル推進
- 本社周辺の清掃活動

ISO14001 推進のための社員教育

環境方針・環境目的目標や環境マネジメントシステムの理解を深め環境活動を実践していくために、適用範囲の全従業員と関係する人々に教育を行いました。環境目的目標は、部門ごとに業務の環境影響調査を行い、環境側面を抽出して設定しました。「環境実施計画」策定についての教育を実施しました。

また、環境マネジメントシステムの内部監査の監査員教育を行い、認定取得者は258名になりました。



内部監査監査員合宿



従業員集合教育

緊急事態への対応

環境影響で重大なものに災害があります。愛知県稲沢市の本社では2011年の東日本大震災レベルの災害が東海地方に起きることを想定し、防災訓練を計画し、実施しました。



初期消火訓練



防災訓練 (グループ会社合同)

ISO内部監査

ユニーでは「企業価値向上」の観点から「エコ・ファーストの約束」が制定され、ISO14001推進の重要性と活動範囲はさらに拡大しています。「環境マネジメントシステム」のISO14001要求事項への適合を確認するために、登録企業内に内部監査が規定されています。

内部監査にあたってはこの新たな要件を鑑み、厳正な業務遂行と整備・運用への積極的な提言を心がけ、取り組みへの貢献を果たしたいと考えます。



監査室長
水谷 功





環境計画の概要

ユニーは持続可能な社会を目指し、低炭素社会・循環型社会・自然共生社会を実現するために、環境方針に基づき、さらにエコ・ファースト企業として、継続的な環境保全活動を行っていきます。そのために、ISO14001マネジメントシステムを用い、具体的な環境目的および数値的な環境目標を設定し、達成するために取り組んでいます。現在だけでなく、未来のことも考えて計画を立て、お客様と一緒に「環境にやさしいお買い物」で持続可能な社会を実現します。

環境計画

環境方針	取り組み項目	2012年度目標
環境マネジメントシステムの構築	● ISO14001による全社における環境マネジメントシステムの構築	<ul style="list-style-type: none"> ● 2013年3月31日までにエコ・ファーストの約束を達成 ● 環境負荷をCO₂換算し、目標管理を実施 ● 各部署の目的目標を策定し、目標管理を実施
エコストアの実現	● 省エネ設備によるエネルギー削減	● 照明器具のLED使用を拡大
	● 環境配慮商品の販売による低炭素型ライフスタイルを提供する	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境配慮型PB商品ecolonの開発・販売を拡大(イズミヤ、フジと協働) ● 環境配慮商品の環境負荷低減効果を見える化し、お客様に訴求
環境負荷の低減	● 省エネへの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● CO₂を原単位で1%削減する ● 省エネ委員会で目標策定し、目標達成を図る
		● 使用エネルギーを1%削減する
	● 物流システムの見直し	<ul style="list-style-type: none"> ● 物流の合理化による環境負荷低減を図る ● 段ボール 2%削減
	● 包装資材の使用削減	<ul style="list-style-type: none"> ● ecolon商品の容器包装、有料レジ袋にバイオマスプラスチックを使用する ● 包装資材使用削減 5% ● レジ袋有料化中京地区での完全実施を図る ● レジ袋辞退率 75%
廃棄物の適正処理とリサイクル推進	● 廃棄物排出削減	● 廃棄物排出総量 前年比 3%削減
	● 食品リサイクル推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 営業店舗所在地1府18県でリサイクルループを構築(福島県を除く) ● リサイクルループ参加店舗を拡大(2011年5月現在90店舗135店舗) ● リサイクル率 60% ● 発生抑制 △20%(売上100万円当たり40kg) ● 再生利用等実施率 65%
	● 店頭容器包装回収の推進	● リサイクルボックスの回収実績5%向上
	● バイオマスプラスチック製容器包装	<ul style="list-style-type: none"> ● リサイクル実績向上 3% ● リサイクル製品生産拡大 ● 店頭回収を拡大
環境情報の開示と環境保全活動	● 環境情報の開示	<ul style="list-style-type: none"> ● 啓発用などのDVD作成(従業員教育用) ● 売り場での環境配慮商品の情報開示 ● 店舗での情報開示推進
	● 環境保全活動	<ul style="list-style-type: none"> ● エコ博、環境展を開催 6店舗/8回実施 ● グリーンアップキャンペーン全店で年2回実施
	● 環境教育、啓発活動の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ● 廃棄物分別・CO₂削減についての教育を実施 ● 子ども環境学習全店実施、農業体験10回実施 ● アピタ30周年エコ博8回実施 ● 環境関連事業者連絡会セミナーを開催
環境汚染防止	● 環境汚染物質の排出抑制と監視	<ul style="list-style-type: none"> ● 全店舗での排水水質監視を実施(清掃点検表の完全実施) ● 低濃度PCBの適正管理実施





2012年度結果	評価	2013年度目標
●エコ・ファーストの約束を全て達成	○	●新たなエコ・ファーストの約束を締結
●エネルギー、廃棄物排出状況、レジ袋削減、排水水質管理、リサイクルなどの管理システムにより、目標管理を実施	○	●CO ₂ 排出を抑制するための実施計画と手順を構築
●建て替えたピアゴ蟹江店の設備に省エネ機器を導入し、効果を測定	○	●新店、改築店舗に有効な環境機器を導入し、その効果を測定
●環境配慮型PB商品ecolonの開発・販売を拡大 ecolon開発数 8件、売上 5億579万円 (135.9%)	○	●環境配慮型PB商品ecolonの容器包装の環境設計を図る (イズミヤ、フジとも協働)
●低炭素型ライフスタイルをお客様と一緒に推進する「リサーチャーズクラブ」がモデル店舗 (アピタ千緑店) でトレイレス実験を実施	○	●環境配慮商品のバリューチェーンの環境負荷低減効果を見える化し、お客様に訴求
●前年比 25.7%増加	×	●CO ₂ を原単位で1%削減する
●全店で省エネ委員会を開催	△	●省エネ委員会で目標策定し、目標達成を図る
●電気使用量 96,8870千kwh (98.6%) △1.4%	○	●使用エネルギーを1%削減
●ガス使用量 22,065千m ³ (95.7%) △4.3%	○	●物流の合理化による環境負荷低減を図る
●石油使用量 8,325千ℓ (94.7%) △5.3%	○	●段ボール 2%削減
●輸送距離・量・エネルギー使用量いずれも増加。ただし、原単位は前年比99%	○	●PB商品の容器包装を見直し、バイオマスプラスチック製容器包装の導入拡大
●前年比 5.4%削減	○	●包装資材を3%削減
●バイオマスプラスチック製容器の店頭回収・再生製品を作製	○	●関東地区での有料化店舗を拡大
●レジ袋 839t (98.6%) △1.4%	○	●レジ袋辞退率 76%、未有料化店舗の辞退率を向上
●包装紙 149t (86.6%) △13.4%	○	●廃棄物排出総量 前年比 3%削減
●紙袋 175t (86.6%) △13.4%	○	●リサイクルループに周辺店舗を組み入れ、規模の拡大を図る
●食品取り扱い217店舗中173店舗で実施 (79.7%)	△	●リサイクルループ参加店舗 140店舗
●レジ袋配布店舗 24.3%、有料化店舗 87.8%、全社換算…75.0%	○	●リサイクル率 60.0%
●廃棄物総排出量 4.2%削減	○	●発生抑制 △25.0%
●廃棄物処理場・リサイクル現場を確認	○	●再生利用等実施率 67%
●営業店舗所在地1府18県でリサイクルループを構築 (福島県を除く)	△	●リサイクルボックスの回収品目を増やす
●リサイクルループ参加店舗 133店舗	△	●全店4品目を回収
●リサイクル率 57.0%	×	●一部店舗で透明プラ容器を回収しリサイクルを実施
●発生抑制 △20.5%	○	●全店舗から回収
●再生利用等実施率 65.0%	△	●リサイクル製品品種拡大
●牛乳パック 575,332kg (96.1%)	○	●店頭回収を拡大
●トレイ 291,151kg (95.6%)	○	●環境学習DVD作成
●アルミ缶 555,663kg (104.0%)	○	●チラシ・POPなどで環境配慮商品を紹介し、拡販
●ペットボトル 1,865,920kg (106.0%)	○	●新しいポスターを作成し、さらに情報提供を推進
●リサイクルボックス回収実績 2.8%向上	○	●未実施店で開催
●全店舗から回収	○	●グリーンアップキャンペーン全店で年2回実施
●リサイクル製品 (定規) 作製	○	●新店・テナントの廃棄物分別教育を実施
●店頭回収35店舗で実施	○	●子ども環境学習全店実施、農業体験6回実施
●環境学習テキストを発行	○	●エコ博10回実施
●ecolonなどの情報を開示	○	●環境関連事業者連絡会セミナーを開催
●環境掲示板の設置を標準化	○	●全店舗での排水水質監視を実施 (清掃点検表の完全実施)
●エコ博、環境展を開催 10店舗	○	●低濃度PCBの適正管理実施
●全店実施 (全国表彰される)	○	
●テナントの廃棄物分別教育を実施	○	
●子ども環境学習全店実施、農業体験6回実施	○	
●エコ博を6店舗で8回開催	○	
●メッセナゴヤ、EPOCに参加	○	
●講演会、リサイクル施設見学会 2回実施	○	
●水質検査の実施と排水管理マニュアルの徹底	△	
●適正管理の実施	△	



低炭素社会 低炭素社会の構築 [環境にやさしいお買い物]

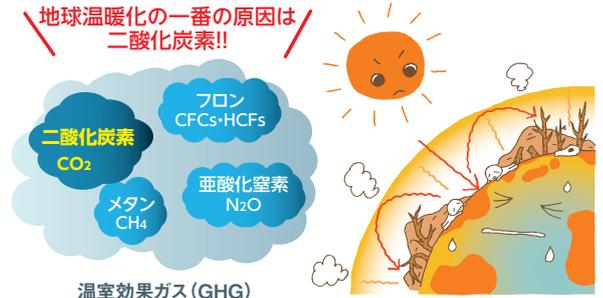
気候変動の原因とされる地球温暖化は、CO₂など温室効果ガスの増加が原因といわれています。2009年に政府が立ち上げたCO₂など温室効果ガス削減のための「チャレンジ25キャンペーン(2020年までに1990年比25%削減する)」も、2011年の東日本大震災以降、当初ほどの勢いがなくなっています。しかし、地球温暖化は地球環境保全の最大の課題です。この解決には安全で持続可能なエネルギーの創造を果たすことであり、そして私たちが暮らし方を見直し、ライフスタイルを低炭素型に変えていくことです。ユニーでは「地球にやさしいお買い物」をお客様に提案し、お客様と一緒に持続可能な社会の構築を目指します。

地球温暖化とは

地球環境の現状

CO₂などの温室効果ガス(GHG: Green House Gases)の増加により、地球表面から出てくる赤外線が吸収・再放出され大気中に熱が溜まり、地球温暖化が進んでいるといわれています。本来自然界で発生したCO₂は、森林や海洋による吸収によりバランスが取れていたのですが、人間が化石燃料(石油や石炭、天然ガスなど)を消費するようになり、吸収しきれなくなりました。

地球温暖化は、化石燃料をエネルギーとして電気を起こしたり、自動車を走らせたり、冷暖房に使用することにより温室効果ガスを排出し、また熱を放出していることが原因といわれています。このまま地球温暖化が進むと、100年後には大気中の温室効果ガスがさらに増加し、平均気温が上昇し、多くの生き物が生存できなくなるといわれています。



CO₂排出量を減らすための取り組み

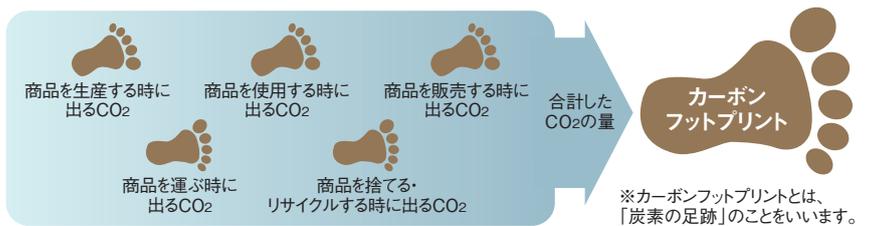
地球温暖化の原因といわれているCO₂の多くは工場や輸送で発生していますが、私達の日常生活からの量も少なくありません。家庭での電気製品や自動車の使用だけではなく、スーパーの買い物由来のCO₂もあります。例えば石油を使った温室栽培の野菜や果物、飛行機で運ばれた輸入食品も、旬の作物や地産地消の食品に比べると、CO₂の発生は多いのです。また商品の容器包装やレジ袋もゴミになり焼却すればCO₂が発生します。

商品を選ぶとき、旬のもので地元産のもの、容器包装の少ないものを選びレジ袋を断れば、それだけCO₂の発生が抑えられ、低炭素社会に貢献できます。

カーボンフットプリントの算出

ユニーで販売している商品やサービスは、原料の採取、生産、運輸、販売、消費、使用後までの商品の一生(ライフサイクルアセスメント)を通じて、多くのエネルギーが使われます。そのエネルギーの多くは石油など化石燃料から得ており、地球温暖化の原因となるCO₂を大気中に放出しているのです。

商品の一生において、それぞれの過程で排出されるCO₂の数値を表したものがカーボンフットプリントです。



●再生紙トイレットペーパー・アローザ(ダブル)の例





容器包装削減活動とリサイクルによるCO₂削減効果 (環境省「3R行動見える化ツール」プロジェクトによる)

ユニーでは循環型社会構築のための活動として、お客様と一緒に「容器包装の3R」を行っています。使用済みの容器包装をリサイクルボックスで回収、レジ袋を購入すれば繰り返し使う、マイバッグやマイバスケット持参でレジ袋を使用しない、といった3R活動に取り組んでいます。これらの活動が資源循環だけでなく、CO₂の発生抑制に貢献し、地球温暖化防止に繋がることを、環境省のプロジェクトに参加し数値化することで確認できました。



リサイクルボックス

- レジ袋を辞退すると、33gのCO₂が削減できます。
ユニーが2006年に使ったレジ袋 …… 3億3,363万枚
2012年に使ったレジ袋 …… 1億1,074万枚

2億2,289万枚削減 (CO₂は7,355t削減)

2012年度リサイクル回収によるCO₂削減量

	回収実績 (kg)	CO ₂ 削減量 (kg)
アルミ缶	555,663	3,389,547
牛乳パック	575,332	514,347
食品トレイ	291,151	1,441,198
ペットボトル	1,865,920	6,064,240
合計		11,409,332

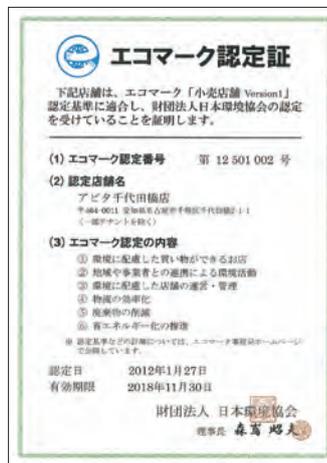
- リサイクルボックスで回収すると
アルミ缶1kgで6.1kgのCO₂削減
牛乳パック1kgで0.894kgのCO₂削減
食品トレイ1kgで4.95kgのCO₂削減
ペットボトル1kgで3.25kgのCO₂削減

低炭素社会を目指すエコストア

アピタ千代田橋店がエコマーク小売店舗第1号に認定

名古屋市のアピタ千代田橋店は、日本環境協会が新たに認定基準を制定したエコマーク小売店舗第1号として2012年1月27日に認定されました。ユニーは持続可能な社会を目指し、店舗で具体的に実践しています。その活動と成果がエコマーク小売店舗の認定基準に達していると認定されたのです。特に評価された項目は、次のとおり。

- 食品リサイクルループを実践し生産した野菜などを販売、さらにその工程を消費者に見学や農業体験を通して伝えていること。
- 容器包装廃棄物削減とリサイクル推進の取り組み。
 - ・レジ袋辞退率……89.4% (2011年度)
 - ・青果、鶏卵のパックにバイオマスプラスチックを使用。使用後は回収リサイクルしている。
 - ・ばら売りの促進やトレイを使わない販売の試行など
 - ・店頭回収の実施および再生品化の推進 (牛乳パックから製造したトイレトーパーの販売など)
- 消費者交流などによる環境啓発活動の実施
 - ・地域の消費者と一緒に「環境にやさしいお買い物」をテーマにした交流会を開催している。
 - ・子ども達のお店探検など、次世代に環境教育を行っている。



お店探検隊で推進するエコストア



エコマーク認定パネル

電気自動車の充電スタンドを設置

ユニーの大型店舗アピタやモールには1,000台以上の駐車場があります。お客様が自動車で来店されると、CO₂やその他の排気ガスが排出されます。そこで、環境にやさしい来店方法として電気自動車を使っていただくために、充電スタンドの設置を推進しています。



電気自動車充電スタンド

お客様のお買い物中に充電していただくことができ、遠方からも安心して来ていただけます。2013年6月時点で、普通充電器・急速充電器の設置台数は18店舗21台です。

電気自動車充電スタンド設置店舗

地区	店舗
中京	アピタ千代田橋店・アピタ安城南店・アピタ刈谷店・アピタ豊田元町店・ピアゴ蟹江店・ピアゴ新城店・ピアゴ可児店・リーフウォーク稲沢・アクアウォーク大垣
関東	アピタ長津田店・アピタ本庄店・アピタ佐原東店・けやきウォーク前橋・ピオニウォーク東松山
山静	アピタ富士吉原店
北陸	アピタ福井大和田店・アピタ敦賀店・ピアゴ金沢ベイ店

※1店舗2台設置もあります



環境配慮商品

環境にやさしいお買い物が地球を守る

毎日の生活を、省エネ・省資源やゴミをできるだけ出さない3Rなどのエコライフスタイルにすれば、持続可能な社会構築に貢献することになります。そして、お買い物には「環境にやさしい」視点で商品を選ぶ、ということもエコライフスタイルです。ユニーでは原料や製造過程・容器包装・使用時の省エネ・節水・使い終わった後の廃棄物が少なくリサイクルできるなど、「環境にやさしい」商品を提供することが地球を守ることに繋がると考え、商品開発や品揃えを行っています。

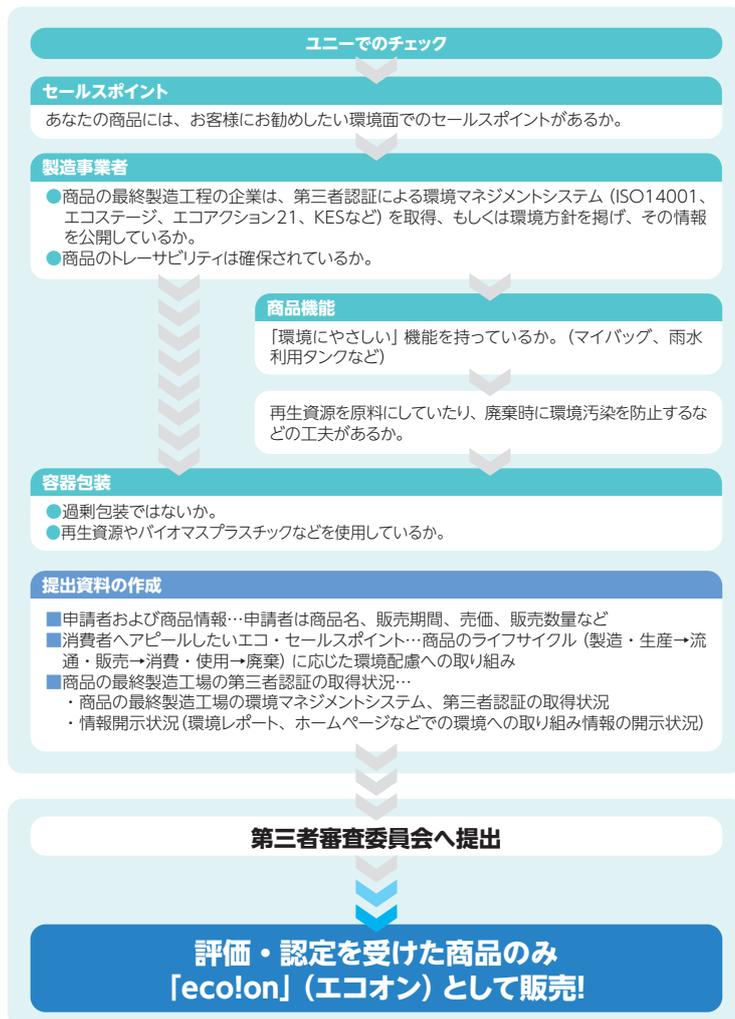
環境に配慮したオリジナル商品「eco!on」(エコオン)

ユニーはPB(プライベートブランド)・SB(ストアブランド)商品を開発するうえで、特に環境に配慮した商品をサブブランド「eco!on」(エコオン)として、パッケージやタグにこのロゴを付けて販売しています。

「eco!on」の審査は、申請書と添付資料をもとに行い、特に商品開発担当者の「環境配慮への思い、ストーリー」についても審査対象にしています。その思いには、「現在だけでなく未来の地球環境に対する責任」や「購入していただくお客様へのメッセージ」「生産者のこだわり」などが含まれています。さらに、生産現場や製造過程を視察し、審査します。

eco!on商品に認定されるまで

オリジナル商品を開発した商品開発担当者は、環境配慮商品 eco!on の認定を受けるために商品やメーカーに関する情報や認証などの資料を揃え、申請書を第三者審査委員会に提出します。ここで審査し、認証を受けた商品を eco!on として販売しています。



「eco!on」の考え方

「eco!on」は、環境負荷の少ない安全安心な商品を提供することにより、お客様の快適な生活を支援し、持続可能な社会構築をお客様と一緒に推進していくことを目指しています。また、環境配慮商品を生産する生産者を支援します。

- 1 お客様と一緒に育てていく環境配慮型商品です
- 2 ユニーが定める品質基準を満たしています
- 3 ユニーが定める環境に配慮した生産条件を満たしています
- 4 「eco!on」第三者審査委員会で審査を受け認定されています(毎年見直しを実施)

This section showcases various eco!on products. At the top, it highlights the 'eco!on' logo and tagline 'eco on your life' with a tag that says 'eco!on 地球にやさしいお買い物' (eco!on Earth-friendly shopping). Below this, several products are displayed with their respective descriptions:

- アローザトイレペーパー**: Recycled paper products made from recycled toilet paper boxes.
- マグボトル**: Reusable mugs that can be used repeatedly, reducing waste.
- 学習帳**: Notebooks made from FSC-certified paper.
- 特別栽培の無洗米**: No-wash rice from special cultivation, reducing the need for washing and thus saving water and reducing pollution.
- ふんわりエコロール**: Soft toilet paper made from Arrowza, developed to reduce CO2 emissions.
- 洗濯洗剤**: Laundry detergent made from plant-based ingredients, contributing to CO2 reduction by 51% compared to 1990 levels.
- 液体洗剤・柔軟剤**: Liquid detergent and fabric softener made from sustainable bio-plastic containers, reducing CO2 emissions.



第三者審査委員会

環境配慮商品eco!onの認定は、社内審査に加え専門家や有識者による第三者審査委員会でご審議していただいています。審査基準を満たした商品だけをeco!onとして販売しています。



審査会議



商品開発担当の説明



消費者から意見をいただいています



審査委員会

持続可能な暮らしで次世代へ繋ぐ

名古屋大学 情報文化学部環境学専攻教授 佐野 充

次世代へ今をリレーする私たちの役割は、持続可能な環境の中で暮らしを営むことではないでしょうか。私たちの今の暮らしが明日につながり、明日の時間では次世代の人たちが持続可能な環境の中で暮らし、そして、次世代の子どもたちが次の明日を暮らす。今以上の暮らしができる明日としていく、これが私たちに与えられた役目ではないでしょうか。環境配慮商品「eco!on」が、環境に配慮した日常生活を実感でき、持続可能な暮らし方につながり、次世代に今以上の暮らしができる明日を実現できるよう、皆さんと一緒に商品を作り、育て、暮らしに役立てたいと思います。「eco!on」商品を応援するとともに、「eco!on」商品が提案する暮らし方を消費者の皆さんにもっともっと知ってほしいと思います。

消費者力の形成

公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 石崎美英

グローバル化、情報化等を背景に消費生活がより多様化・複雑化している現在、消費者力の形成が課題とされています。消費者力とは、商品や企業について情報を収集し、生活の安全や企業の社会的責任等への監視を伴った選択をする力であり、また「eco!on」のような環境配慮型商品を購入するなど、環境問題をはじめとする国内外の社会的な問題解決および価値創出に向けて行動する力のことです。

第三者審査委員として、「eco!on」の開発に関わる中で、ユニー株式会社が、消費者の視点を重視し、環境配慮型商品の開発・販売により、社会的な価値や心の豊かさも実現していることを実感しています。消費者も企業も、自らの幸福や利益のみを追求するのではなく、家族、地域、地球全体のよりよい生活や環境を意識し、主体的・能動的に行動していくことが求められています。その意味で「eco!on」商品の果たすべき役割は大きく、今後も環境配慮型商品の多様なラインナップを期待します。

エコブランド「eco!on (エコオン)」の定着

株式会社コボ 代表取締役社長 山村真一

「エコオン」をパソコンに打ち込んでみる、トップページに環境配慮型オリジナル商品「eco!on」がヒットする。これは、ユニー株式会社の環境配慮型商品でPB（プライベートブランド）、SB（ストアブランド）である。

商品アイテムは生活雑貨から食品まであり、その商品群はどんどん広がっていく。環境問題は、大学の研究機関等専門領域での話題が多く、生活目線からしっかり育て、発信されていく話題や議論は意外に少ない。これは、環境問題は空気や水や光のように具体的な形や色等、五感で表現することが難しいところにある。この難しい五感に商品イメージを表現する有力な力は「ブランド」である。私たちの身の周りには多くのブランド商品がある。飲料水やお茶、牛乳等にある「おーいお茶」や「おいしい牛乳」や「いーる・は・す」等五感に訴えるネーミングに重点を置いたブランド戦略もあるが、「eco!on」という親しみ易い音と響きで難しい環境テーマをブランド化するネーミングもなかなか好評であり、着実に広がり定着していきつつある。

この「eco!on」は、商品企画を行うバイヤーさんや学識経験者、消費者代表の方々も加えた第三者審査委員会において毎回熱い議論が交わされ決められていくことも素晴らしいシステムである。

企業の社会的責任（CSR）が世界の大きなニュースになることが多い近頃、環境問題に真正面から取り組むエコブランド「eco!on」がこのものづくりを得意とする中部地域から発信されていくことは実に素晴らしいことと思う。

FSC認証のeco!on学習帳

小学生が使う学習帳を、FSC認証された紙で作りました。FSCマークとは、1993年に創立されたNGO団体であるFSC (Forest Stewardship Council) 森林管理協議会が定めるマークです。「正しく管理された森林」の基準を決め、この基準を満たした木材や商品にFSCマークが表示されます。このマークの付いた商品を選ぶことで、森林保全に貢献できます。

ユニーでは、子ども環境学習でFSC認証を教え、ノートを紹介して、子どもたちが自分でノートを選ぶ時に思い出してもらえるようにしています。



eco!on学習帳の開発

地球環境を保護することにスポットを当て、開発した商品です。地球の未来を担う子どもたちに、自然の偉大さや森を守ることの大切さを知ってほしいと思っています。今回、eco!onに学習帳を加えた理由は、子どもたちに一番身近で毎日使用することで環境についての学びを深める商品にしたいからでした。



グループ商品企画部
バイヤー
佐藤 雄一

eco!on商品の開発

日常生活に欠かせない製品を、環境負荷の少ない安心・安全なものにすることでサステナブルな社会を築いていく第一歩にしたいと考え、「eco!on」商品を開発しています。お客様のニーズを考慮し、売れる「eco!on」の開発を目指し、次の商品開発につなげていけるように取り組んでいます。「eco!on」商品を通じて「ユニーの環境の考え方」や「環境への取り組み」をお客さまに伝え、ユニーの企業価値を上げるブランドにしていきたいと考えています。



グループ商品企画部
住開担当部長
菅野 誠一





省エネルギー・省資源活動

省エネ活動

2012年は、2011年の東日本大震災による福島第一原発の事故を受けての電力使用量を抑える取り組みを引き続き実施しました。店舗や事務所ではできるだけ電気を使わないよう、基本照明やスポット照明の消灯、屋外照明の消灯、空調の基本設定を28℃とするなどの節電を全店で実施し、その結果として、2011年よりも電気・ガス・石油・水道の使用量を削減することができました。

省エネルギー推進委員会

店舗では、エネルギー使用量の削減を目的に月に1度、省エネルギー推進委員会を開催しています。メンバーは、店長や各副店長の管理職に設備担当や専門店代表者などで構成されています。毎月の電気、ガス、水道などの使用量の推移を確認し、削減についての施策を検討し具体的に実施していきます。



事務所内の空調

本社事務所内は、「エアコン使用規定」が定められています。6月～9月は夏季室温設定として28℃、12月～2月は冬季温度設定として19℃に決められています。またそれ以外の月はエアコン使用禁止期間とし、事務所での大半を占める空調による消費電力の削減に取り組んでいます。



バックヤードの照明

「必要な場所で必要な時だけ点灯する」と、店舗のバックヤードや事務所の電灯にはプルスイッチ（紐）をつけています。特にバックヤードには、作業や設置場所の状況を調べ、一つひとつのスイッチに「常に点灯」「必要な時だけ」を表示しました。



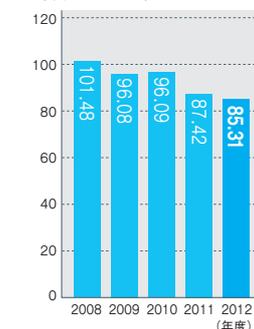
エネルギー使用量の推移

※データは、各年度とも当年2月21日～翌年2月20日までのものです。

電気 (単位: 千kWh)

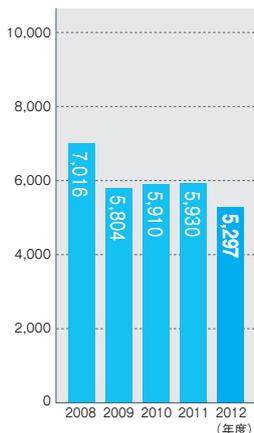


単位面積時間当たりの使用量 (単位: W/H.m)



2011年同様、全店において照明設備関連、空調設備関連、冷蔵設備関連などで積極的に節電に取り組み、10月以降も引き続き節電を継続したことも削減につながりました。また、冷温水ポンプ定流量インバータを積極的に設置したことも削減の要因となりました。

水道 (単位: 千m)



単位面積時間当たりの使用量 (単位: リットル/H.m)

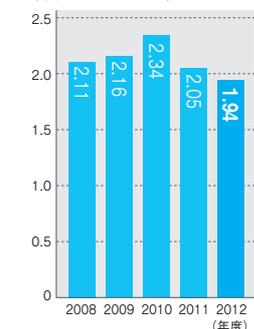


積極的な節電による空調使用量の削減効果により、水道使用量も大きく削減することができました。今後は雨水利用や節水トイレの採用などにより削減を図ります。

ガス (単位: 千m)

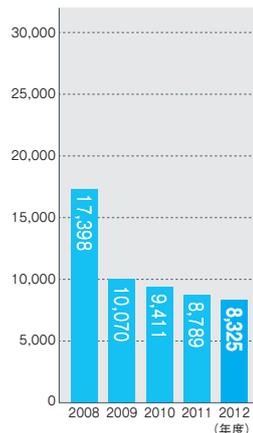


単位面積時間当たりの使用量 (単位: リットル/H.m)



2011年に引き続き、店内設定温度を上げて、空調使用量を抑えることができました。また、冷温水発生器伝熱管の取り替えを積極的に実施したことも削減につながりました。

石油 (単位: 千リットル)



単位面積時間当たりの使用量 (単位: cc/H.m)

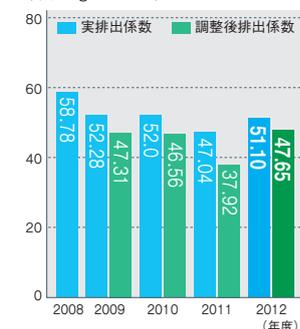


2011年に引き続き、店内設定温度を上げて、空調使用量を抑えることができました。また、冷温水発生器伝熱管の取り替えを積極的に実施したことも削減につながりました。

二酸化炭素排出量 (単位: t-CO₂)



単位面積時間当たりの使用量 (単位: gCO₂/H.m)



エネルギー使用量は削減することができましたが、電力会社の原子力発電から火力発電への切り替えなどにより、全ての電力会社のCO₂係数が上がり、CO₂使用量が大幅に増加しました。

※調整後排出係数：電気事業者の調節後排出係数(京都メカニズムクレジット・国内認証排出削減量を加味している)

※単位面積時間当たりの使用量：CO₂排出量/営業面積×営業時間

2012年度のCO₂換算係数は下記より換算しました。

●電気・環境省ホームページ温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度について 電気事業者別のCO₂排出係数(2011年度実績)(平成24年11月6日公表) ●水道・独立行政法人国立環境研究所「水道に関するCO₂排出原単位の算定根拠」(環境省推奨) ●ガス・石油・環境省ホームページ温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度について 算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧(平成22年3月改訂後)

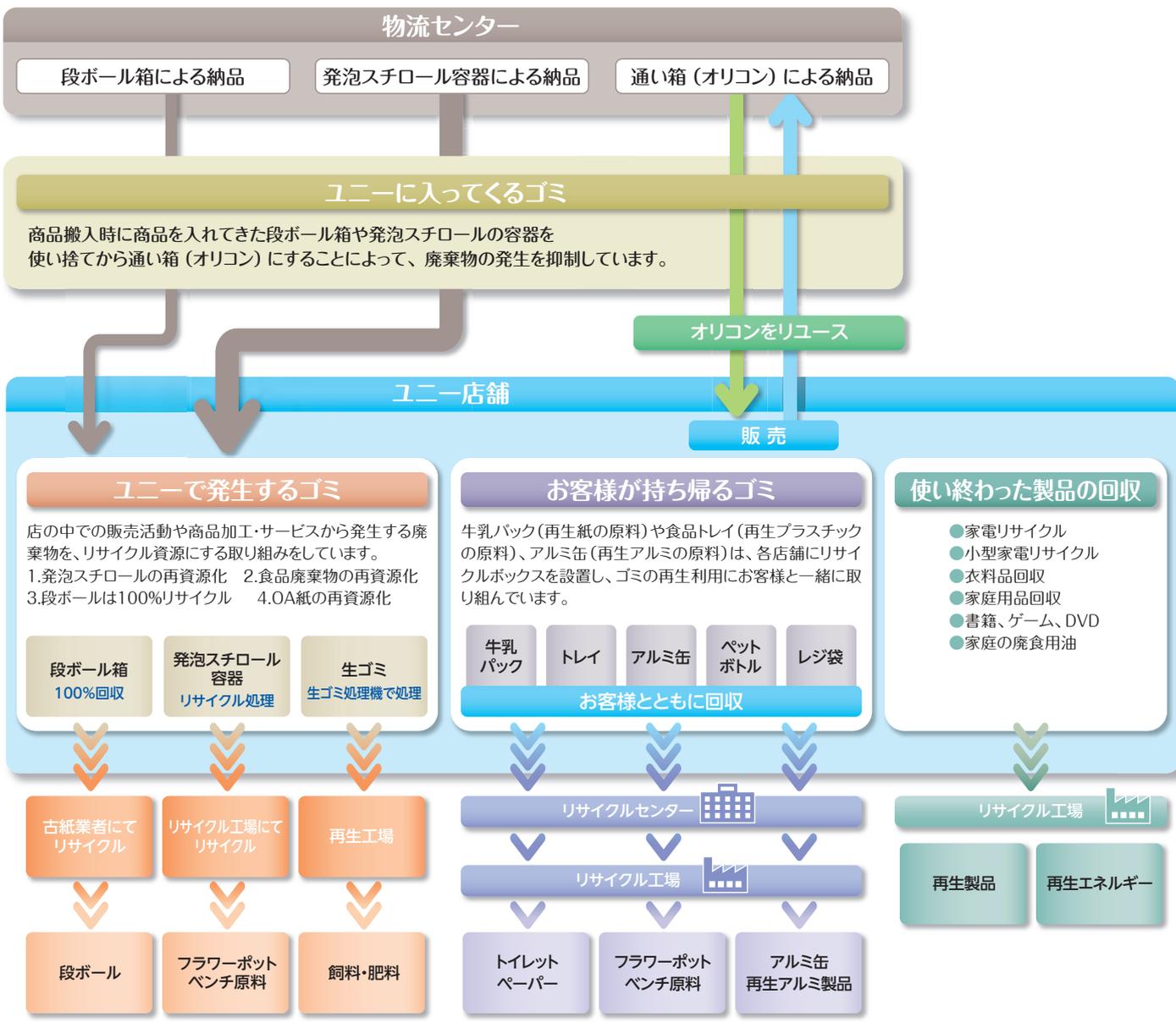


循環型社会 廃棄物を削減する取り組み

企業活動による廃棄物をできるだけ出さないようにするためには、廃棄物の発生場所や原因、種類などを正確に捉えることが必要です。ユニーでは全店舗で廃棄物計量器を設置し、排出場所・分類別に計量し、廃棄物の発生抑制やリサイクル推進に努めています。また、家庭に持ち帰るとゴミになる容器包装をできるだけ削減し、さらに使用済みの容器包装を店頭回収して再生利用しています。そして使い終わった製品のリサイクル回収も店舗では進めています。

廃棄物削減のための取り組み

廃棄物の再資源化



廃棄物分別を徹底するために

ユニーの廃棄物分別計量は、店舗の直営部だけではなく、入店されているコンセッションナリーやテナント、お客様用ゴミ箱など共有部分での廃棄物など、あらゆる廃棄物で行っています。正確に分別計量してもらうために、関連している全ての人々を教育しています。



ユニーで発生するゴミ

店舗での廃棄物削減の取り組み

ユニーでは2003年度から順次店舗に廃棄物計量器を設置し、店舗から排出される全ての廃棄物を排出場所ごとに分別計量しています。排出場所（売り場、専門店、その他）ごとに管理することで排出責任を明確にし、廃棄物の発生要因を追求し発生抑制に努めています。また排出された廃棄物は分別を徹底することで再生資源としての価値が上がり、リサイクルが進みます。

2012年度の廃棄物総排出量は2011年度比95.8%で4.2%削減できました。店舗から排出される廃棄物で構成比の高い段ボールは、物流の効率化として用いられる折り畳み式コンテナ（オリコン）や荷造り用わく箱（クレート）の使用により大きく削減することができました。また廃棄商品を削減することで、生ゴミやそれに伴う容器包装のビニール類が削減できました。

再生できる紙類が増加していますが、これは廃棄物を分別することによって再資源化につながることを従業員が理解し実践してきた結果です。今後はユニーだけでなく、専門店にも理解を求め教育を行い、廃棄物の発生抑制と排出された廃棄物は正しく分別することによってリサイクルを進めていきます。

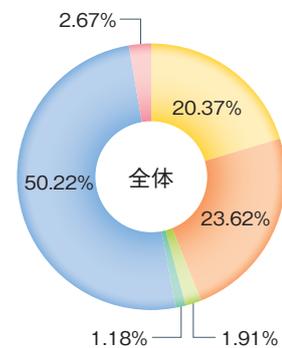
廃棄物排出量

(単位:kg)

区分	種類	2010年度	2011年度	2012年度	前年比[%]	
可燃ゴミ	焼却ゴミ	一般可燃ゴミ	12,128,956	12,130,126	12,164,854	100.3%
		ビニール(食品系)	4,779,492	4,319,674	4,297,839	99.5%
		小計	16,908,448	16,449,800	16,462,693	100.1%
	食品ゴミ	生ゴミ	14,777,363	14,174,353	14,200,425	100.2%
		魚のアラ	3,712,463	3,177,342	2,520,947	79.3%
		てんかす	1,302,481	1,220,555	974,337	79.8%
		廃食用油	1,417,817	1,371,352	1,393,662	101.6%
小計	21,210,124	19,943,602	19,089,371	95.7%		
不燃ゴミ	ビン	1,034,530	1,054,398	1,058,184	100.4%	
	缶	533,041	512,169	491,763	96.0%	
	小計	1,567,571	1,566,567	1,549,947	98.9%	
発泡スチロール		1,082,640	982,894	958,302	97.5%	
段ボールおよび再生紙	段ボール	40,441,290	40,787,926	38,163,782	93.6%	
	紙類(再生可)	2,012,196	2,110,142	2,417,343	114.6%	
	小計	42,453,486	42,898,068	40,581,125	94.6%	
その他	プラスチック	477,839	467,949	458,480	98.0%	
	ビニール(衣住系)	966,398	924,381	958,694	103.7%	
	ペットボトル	370,258	370,200	383,655	103.6%	
	陶器・ガラス	121,284	125,519	121,530	96.8%	
	金属カス	152,504	139,464	137,468	98.6%	
	その他	424,671	463,083	101,681	22.0%	
	小計	2,512,954	2,490,596	2,161,508	86.8%	
合計		85,735,223	84,331,527	80,802,946	95.8%	

廃棄物構成比率

- 焼却ゴミ
- 発泡スチロール
- 食品ゴミ
- 段ボールおよび再生紙
- 不燃ゴミ
- その他



廃棄物計量システム



売り場では廃棄物を種類ごとに別々の容器に分けて入れます。混ぜてしまうとリサイクルできないので、容器に入れる時にきちんと分別します。



廃棄物は排出場所・分別毎にバーコードで管理し、計量器に載せ、重量を計ります。



シールを発行します。同時にデータは事務所の端末に記録、集計され、本社の端末に送信されます。テナントや売場には毎月集計された結果が告知されます。



計量した廃棄物は、それぞれ温度管理された廃棄物庫で保管されます。腐敗しやすい食品廃棄物などは冷蔵保管されます。



循環型社会 環境にやさしい容器包装

容器包装の本来の目的は、商品の品質や衛生安全を保全し、手軽に安全に持ち運ぶことです。セルフサービスで販売しているユニーでは、お客様が自分で商品を選びレジで精算するシステムなので、ほとんどの商品は容器包装に入れて販売しています。ところが、これら容器包装は家庭ごみの50%を占め、廃棄したものを焼却処分する際に大量のCO₂を排出し、地球温暖化の一因にもなっています。ユニーでは容器包装の見直しを行い、3Rの推進とバイオマス活用を推進しています。

1 容器包装をできるだけ使わない販売への取り組み

レジ袋のように、お客様と一緒に「使わなくてもよい容器包装」を削減する。

- ノーレジ袋キャンペーン
- レジ袋無料配布の中止
- ばら売りなど、容器包装を使わない販売
- どうしても使用する容器包装の小型化・薄肉化
- トレイを使わない販売の検討
- 贈答品などの簡易包装
- マイボトルやマグカップなどの利用促進

2 使った後の容器包装を廃棄物にしない取り組み

お客様が商品と一緒に持ち帰った容器包装を回収し、再生資源にする。

- リサイクルによる店頭回収
- 再生資源として製品（トイレトーパーなど）やベンチなどにリサイクル
- 使用済みレジ袋を再びレジ袋にリサイクルする

3 サステナブル（持続可能な）原料を使った容器包装への取り組み

限りある化石資源（石油）を使用せず、繰り返し栽培可能な植物資源を原料にする。

- 環境配慮PB商品eco!onの容器にバイオマスプラスチックを使用
- 有料レジ袋にバイオポリエチレンを使用
- 生鮮食品の販売に生分解性バイオプラスチック、ポリ乳酸製バックを使用

1 容器包装をできるだけ使わない販売への取り組み

レジ袋削減への取り組み

スーパーでレジ袋の配布を開始したのは1970年代、薄くて丈夫、水に強く便利なことから、瞬く間に社会に浸透しました。ところが一度の使用で廃棄されてしまうこと、また自然界で分解しないので、ゴミ問題や自然破壊につながることから大きな問題になり、消費者団体などで「お買い物袋持参運動」が1980年代に始まり、ユニーでは1989年から取り組み始めました。2001年からは「ノーレジ袋キャンペーン」を開始し、さらに啓発を進めましたが効果が出ず、2007年から「レジ袋無料配布中止（有料化）」を始めました。2012年には有料化を94市町178店舗で実施しています。有料化店舗のレジ袋辞退率は88%となり、全社の辞退率は75%、1年間で2億枚強の削減を果たしています。今後さらに多くの店舗に拡大していきます。

レジ袋削減のための取り組み

■ お買い物袋持参運動開始
1989年に愛知県一宮市で「使用済みのレジ袋を再び使用しよう」という、お買い物袋持参運動を開始しました。



お買い物袋持参運動の説明を受ける従業員（1989年11月、サンテラス一宮店）

■ マイバッグキャンペーン
2001年からは「何度も使えるレジ袋代わりのマイバッグ」をスタンプカードと交換で差し上げるマイバッグキャンペーンを始めました。

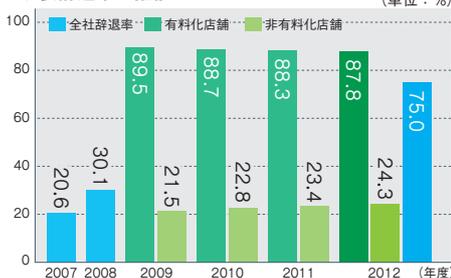


■ レジ袋の無料配布中止
名古屋市緑区で、他のスーパーと一緒に有料化を進めました。市民や市の職員も一緒にキャンペーン活動をしました。



名古屋市緑区アビタ鳴海店

レジ袋辞退率の推移



レジ袋使用量の推移

年度	枚数 (単位: 千枚)	重量 (単位: t)	備考
2007	310,559	1,818	レジ袋無料配布の中止
2008	309,222	1,851	96店舗で無料配布中止
2009	134,678	1,029	170店舗で無料配布中止
2010	116,749	964	約73%の店舗で無料配布中止
2011	111,632	851	四日市市・弥富市などの店舗が加わる
2012	110,743	839	約80%の店舗で無料配布中止

※2008年にユースタと合併し80店舗増える
※容器包装リサイクル法に基づき、財団法人日本容器包装リサイクル協会へ支払った委託金額

容器包装リサイクル法への対応

年度	委託金額
2007	2億9,729万円
2008	2億7,978万円
2009	2億2,272万円
2010	1億6,655万円
2011	1億6,154万円
2012	1億4,868万円



レジ袋有料化

ユニーでは2007年6月に、横浜市のピアゴ中山店（旧ユニー中山店）で単独で有料化を開始しましたが、自治体や消費者・同業者との連携がないまま実施したため、お客様のご理解がいただけず、来店客数が減少し売り上げも一時低迷、厳しいスタートでした。店舗での啓発活動の結果、持ち直せましたが反省することがたくさんありました。これ以降、ユニーでは自治体と市民の皆様の合意のうえ、周辺の同業者と連携し、地域全体で取り組みました。その後大きな問題もなく、地域を拡大してきています。

- 1 自治体が、レジ袋削減は「廃棄物削減および地球温暖化防止」のためであることを広く市民に知らせ、主体的に取り組むこと。
- 2 地域の市民団体が支援して下さること。
- 3 地域の小売り事業者などが皆で参加すること。



自治体・市民団体・事業者の三者がそれぞれの役割を果たすために、協議会を設立し十分に話し合い、協定書を締結するよう努める。

地域環境活動に寄付

有料レジ袋を購入していただくと、ユニーは1枚につき1円を、地域の自治体の環境活動に寄付します。

■2012年度実績
94市町 178店舗 2,325万5,597円

トレイを使わない販売のチャレンジ

容器包装使用削減のターゲットを、有料化が進み使用削減が進んだレジ袋から食品トレイに移し、売り場や商品部と協働で削減を進めています。2008年に名古屋市のアピタ千代田橋店精肉売り場でポリ袋を使った販売を実験、2011年には名古屋市のピアゴ清水山店でリーフパック（紙シートとラップの包装）で販売実験を行いました。さらに2011年秋からは椋山女学園大学との協働で、継続的に販売実験を行っています。



リーフパック



リーフパックを販売する精肉売り場



リサーチャーズのPOP

消費者の環境配慮行動を後押しする「リーフパック」への期待

2011年に引き続き、「おかいもの革命!プロジェクト」の一環として、消費者リーダー達の意見を得ながら、リーフパック商品の販売拡大を目指して取り組んできました。食品トレイに代わる容器包装として「リーフパック」を普及させ、「レジ袋辞退」に続く消費者の容器包装削減行動を後押しするものとして注目されます。

多くの消費者は何か環境によいことをしたいと考えています。エコ・ファースト企業による新たな提案として、消費者の環境配慮型ライフスタイルを導く「リーフパック」の普及が大いに期待されます。



椋山女学園大学
東 珠実 教授

トレイを使わない販売へのチャレンジ

精肉部では資源使用を最小限に抑えることで、CO₂の排出量を削減した、環境にやさしく家庭ごみを減らしたいお客様の声に応える「トレイを使わない販売」を行っています。

大型店舗のアピタでは「リーフパック」という省資源包装を導入しています。現在は中京エリアの5店舗で、豚肉・鶏肉の4～5品目を販売、「リーフパック」の普及イベントも行い、お客様の支持は確実に高まっています。



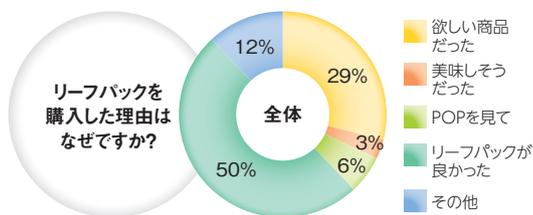
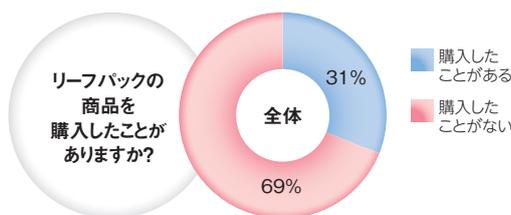
食品本部 精肉部長
酒井 睦夫

椋山女学園大学とJST(科学技術振興機構)の研究で、2011年から取り組んでいる、食品トレイを使わない「リーフパック」(紙製シートとラップを使った包装)の販売拡大を目指し、店舗とバイヤーが中心となり、「おかいもの革命!プロジェクト」(買い物を通じてCO₂削減を目指す研究プロジェクト)と協働でリーフパックの販売実験を行いました。

前回の販売実験で得たお客様の声を取り入れ、今回はより目立つPOPを設置するとともに、動画(動くコトPOP)で使い方をPRし、実験店舗を6店舗に拡大して行いました。その結果、6店舗中5店舗において、POPの設置前後で6種類の対象商品に対するリーフパックの購入割合が増えました。また、お客様へのインタビュー調査では、リーフパックの購入経験者は31%、購入理由については「リーフパックが良かった」と回答した人が50%にのびりました。購入したお客様からは「かさばらない」「ごみが減る」「まな板がわりになる」という3つのPRポイントのほか、「量がちょうどよかった」「食品トレイと一緒に並んでいると分かりやすい」「もっと宣伝が必要では」などたくさんのご意見をいただきました。一方で、リーフパックをPRするPOPは販売促進の補助的な役割を果たしているものの、直接的な影響は少ないことも分かり、いかに認知度を上げるかが課題となっています。

リーフパックは認知され、良さを実感できればお客様に支持され、支持されることでCO₂削減にもつながるため、引き続きよりお客様に認知していただけるような販売方法について検討を行っていきます。

リーフパックに関するアンケート



マイボトル・マイカップ普及キャンペーンに協力

ユニーは、容器・包装3R推進協議会(事務局 名古屋環境局)主催の「マイボトル・マイカップ普及キャンペーン」に協力して、ごみと資源の排出を抑制し、リユースするライフスタイルへの転換を図る取り組みとして、マイボトルの利用を促進し、使い捨て飲料容器の削減を推進します。アピタ千代田橋店、ヒルズウォーク徳重ガーデンズに、マイボトル専用給水機を設置し、マイボトルの利用拠点を創設しました。



給水スポットにて前村会長(左)、河村たかし名古屋市長(右)



ステージで説明する前村会長



2 使った後の容器包装を廃棄物にしない取り組み

リサイクルボックスによる容器の店頭回収

ユニーではお客様の家庭から排出されるゴミを削減し再生資源とするために、食品取扱店舗全店で使用済み容器包装を、店頭を設置したリサイクルボックスで回収しています。これはお客様と一緒に進める「循環型社会構築」のための取り組みの一つです。リサイクルボックスで回収する容器包装は、再生利用ルートを確認し、国内で循環するシステムで活用できるものです。

各店舗では回収実績を毎月集計し、ポスターで公表しています。またリサイクル製品をわかりやすく説明したポスターなども掲示し、お客様にリサイクルの仕組みを理解していただけるようにしています。



リサイクルセンターに集約

リサイクル回収の輸送にかかるエネルギーやCO₂の排出などが問題にされることがあります。ユニーでは、店舗から物流センター内のリサイクルセンターに搬送する際に、商品配送便の帰り便を使うことにより、無駄な燃料やCO₂排出削減に努めています（現在、北陸地区・中京地区の物流センターにリサイクルセンターを設置。その他の地区は店舗から直接リサイクル工場へ搬入しています）。リサイクルセンターでは、各店舗から回収した使用済み容器を計量し効率的に搬送しやすいように圧縮し、それぞれのリサイクル工場へ搬出します。



弥富物流センター内のリサイクルセンター

容器包装リサイクルの仕組み

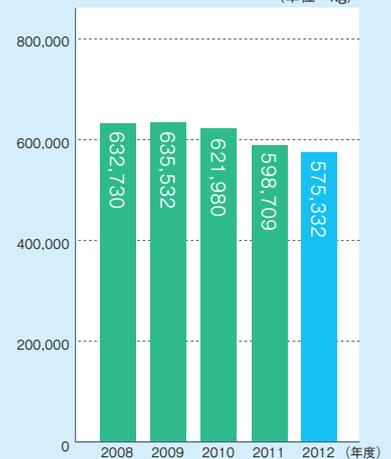


全国牛乳容器環境協会によると、牛乳パックの回収率は日本全国で約34%（使用済み回収分）と報告されていますが、アルミ缶の90%、ペットボトルの80%に比べ、とても低い回収率です。牛乳パックはバージンパルプで製造され、高品質なパルプとして再生利用できます。

ユニーでは、牛乳の消費者である子ども達に、お店探検や環境学習の場で牛乳パックのリサイクルについて学んでもらい、飲み終わった牛乳パックを洗って開いて、リサイクルボックスに自分で持ってくるよう啓発しています。



リサイクル量の推移



参加店舗数と参加率の推移

年度	参加店舗	食品取扱店舗	参加率 (%)
2008	220	224	98.2
2009	223	223	100.0
2010	223	223	100.0
2011	217	217	100.0
2012	217	217	100.0

3 サスティナブル（持続可能な）原料を使った容器包装への取り組み

バイオマスプラスチック製容器包装

容器包装にはプラスチック製のものが多く、その原料のほとんどは石油です。石油など化石資源は地球に残された量に限りがあり、近い将来には枯渇してしまう恐れのある貴重な資源です。使い捨てられる容器包装に、そのような貴重な資源を使ってよいのでしょうか。また化石資源である石油は産出する時や廃棄処分する時もCO₂を排出し、地球温暖化の原因になるといわれています。

こうしたことを考えて、ユニーでは2006年から植物を原料にしたバイオマスプラスチック製容器を使っています。植物は光合成により大気中からCO₂を吸収して成長し、また繰り返し栽培できることから、サスティナブル（持続可能な）原料です。

バイオマスプラスチックの特徴

バイオマスプラスチックは石油由来のプラスチックと異なる特徴があります。

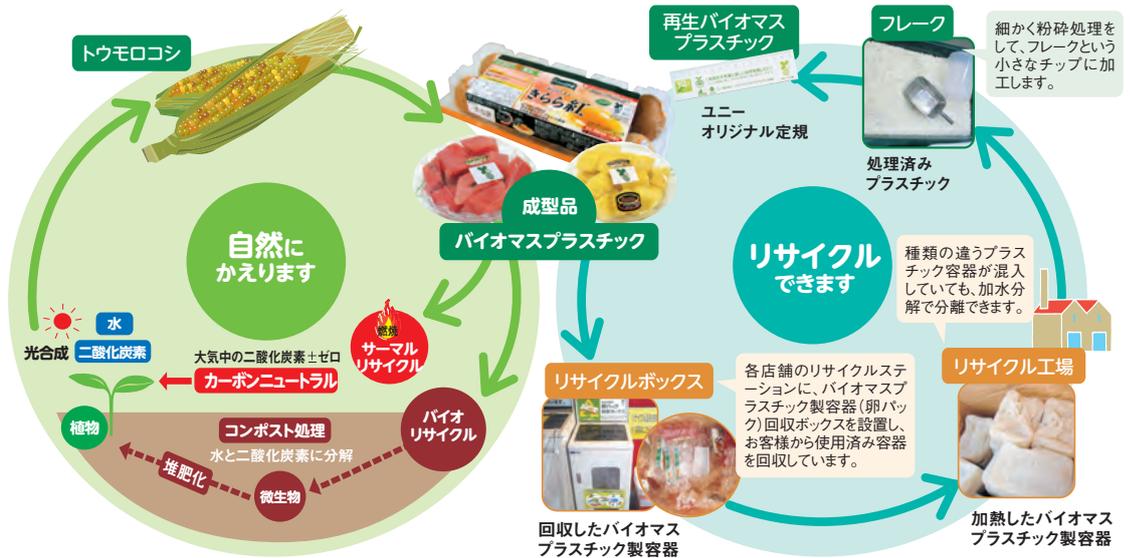
- 1 植物が原料なので、石油資源が節約できます。
- 2 植物は地球上のCO₂を吸収するので、焼却処分してもCO₂を増やしません。
- 3 ポリ乳酸のような生分解性のあるものは、生ゴミなどの堆肥に入ると、熱と水分で水とCO₂に分解し廃棄物になりません。
- 4 使用済みバイオマスプラスチック製容器は、回収しリサイクルしています。



バイオスマーク
動植物を原料としたプラスチック
使用後は水と二酸化炭素に分解され、
自然に還ります。

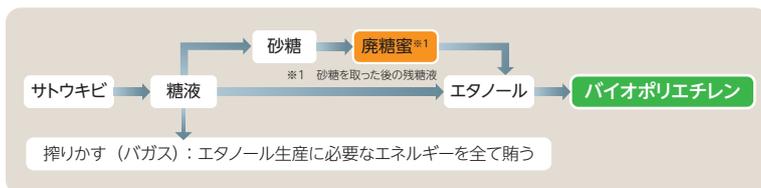
バイオマスプラスチック（ポリ乳酸）製の容器包装

ユニーでは2006年から卵ケース（きらら紅）と青果売り場の透明ケース・カットフルーツカップに、バイオマスプラスチック（ポリ乳酸）製容器を使用しています。使用済みの容器は回収しリサイクルしています。



バイオマスプラスチック（バイオマスポリエチレン）製の容器包装

ポリ乳酸製の容器に続き2012年から、サトウキビの廃材を利用したバイオポリエチレンを、容器包装（液体洗剤や柔軟剤の容器・レジ袋）に使っています。従来の石油由来のポリエチレンと同じ性質を有しますが、植物性なので大気中のCO₂を吸収し、また繰り返し栽培できるので、サスティナブル（持続可能な）原料です。



環境配慮商品eco!onに バイオマスプラスチック製容器を採用

地球環境を保全しつつ持続可能であり、地球上にCO₂を排出しないバイオマスプラスチック製容器をStyle ONEの衣料用洗剤と柔軟剤に使用しています。この容器はサトウキビの廃糖蜜を原料にしたPETとPEで、枯渇が懸念される石油の使用を抑制するとともに、生育段階における光合成によって廃棄時に発生するCO₂を相殺します。ボトル容器では重量の30%、詰め替え容器では重量の35~40%にバイオPET/PEを使用しています。これらの商品には、一般社団法人日本有機資源協会の認定を受けて「バイオスマーク」とユニーの環境配慮商品「eco!on」をつけて販売しています。



グループ商品企画部
バイヤー
千葉哲志





レジ袋にバイオマスプラスチックを使用

2012年6月から、ユニーのレジ袋無料配布を中止している店舗で販売する有料レジ袋を、バイオポリエチレン25%含有製品に代えました。サトウキビの廃材から作られたバイオポリエチレンは、石油由来100%のレジ袋に比べ、サトウキビの生産～ポリエチレン原料製造工程～レジ袋製造～輸送～焼却処分までのCO₂を17%削減します。ユニーとしてはCO₂を年間262,231kg削減します。(試算：補助工業)



日本バイオマス製品推進協議会から表彰

第2回バイオマス製品普及推進功績賞を受賞

ユニーは日本バイオマス製品推進協議会より「第2回バイオマス製品普及推進功績賞」を受賞しました。植物生まれのバイオマスプラスチック製の容器やレジ袋を導入し、「環境にやさしいお買い物」として普及啓発するとともに使用済み容器のリサイクルにより環境負荷の低減に努めたことが評価されました。



東海三県一市グリーン購入キャンペーン

2002年より、愛知県・三重県・岐阜県・名古屋市との共催で「環境にやさしいお買い物」を推進するキャンペーンを開催しています。環境ラベル表示商品や詰め替え商品などの購入で廃棄物削減やリサイクル資源の利活用、資源の保全などができることを紹介、消費者に環境を考えて商品選択してもらうためのキャンペーンです。



東海三県一市グリーン購入キャンペーンのポスター



東海三県一市グリーン購入キャンペーンのイベント

ユニーでは独自企画として、バイオマスプラスチック製容器包装の普及啓発活動を行っています。また、県や市と協力して店内でイベントを開催、より多くのお客様に知ってもらい、買っていただくよう努めています。

環境配慮ラベルの導入

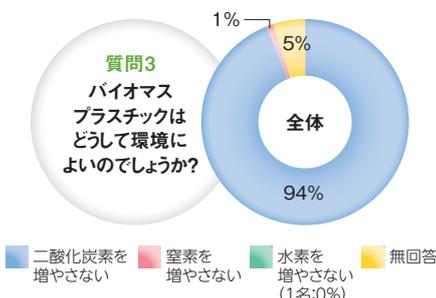
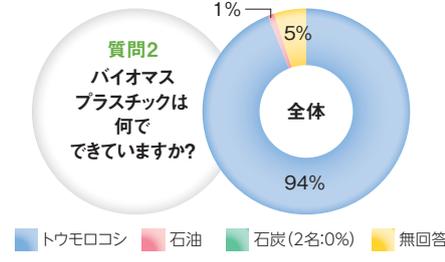
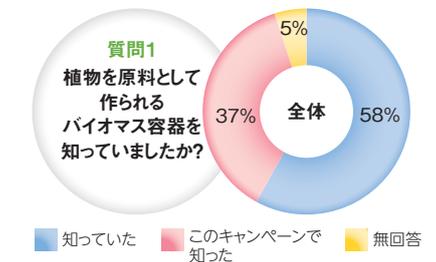
ユニーの店舗では、食品売り場の売れ残りを失くすために、夕方から特売価格で提供しています。その時に使用する「おつとめ品ラベル」に、サトーグループの開発した「エコナノ」を使用しています。「エコナノ」は、独自の技術開発によって焼却時のCO₂を焼却灰に吸収、CO₂の排出量を削減します。通常のラベルに比べ、CO₂が20%削減できます。



エコナノ「おつとめ品ラベル」

東海三県一市グリーン購入キャンペーンアンケート

2013年1月～2月に行った、1府19県下のアピタ・ピアゴのお客様を対象にしたグリーン購入キャンペーンのはがきの応募によるアンケート調査の結果です。(対象：2,990名)



お客様からのご意見・ご感想

- 今回のキャンペーンでバイオマス容器について知りました。これからもバイオマスプラスチックを使った商品を積極的に買い、私も環境へ少しでも貢献したいです。
- 買い物をする時、商品の中身は産地や添加物など気にしても、容器まであまり考えたことがありませんでしたが、こういうキャンペーンで環境のために役立つことを考えさせられ、とてもいいと思いました。
- バイオマスマークはもう少し大きい方が、分かりやすく(目立って)いいと思います。
- 「プラスチック=害」だとずっと思っていました。水と二酸化炭素に自然分解するなんて…、とても有意義ですばらしい製品だと思います。

家電リサイクル

家電リサイクル法に定められた冷蔵庫・洗濯機・エアコン・テレビの4品目を、お客様の家庭から回収しています。しかし、家電製品を取り扱う店舗が年々縮小しているため、回収量は減少しています。

家電リサイクル回収実績





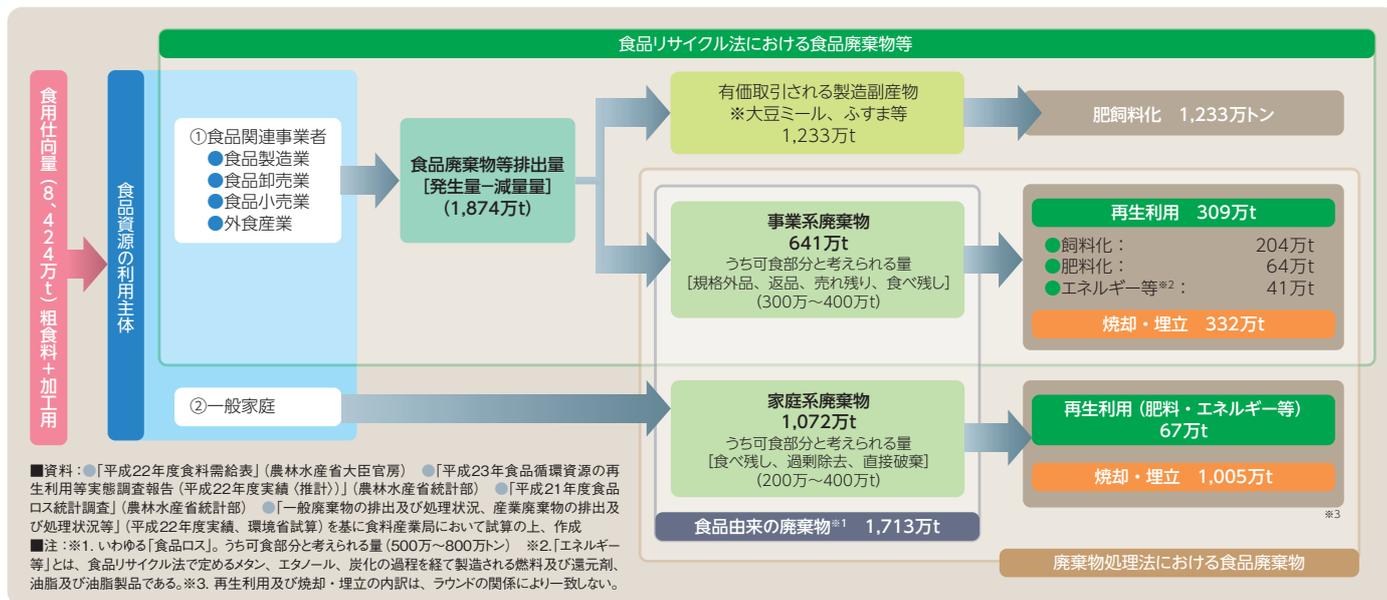
循環型社会 食品廃棄物リサイクルシステム

日本の食料自給率は40%に満たない状況で輸入に頼っている現状にもかかわらず、毎日たくさんの食料が廃棄されています。ユニーは食品リサイクル法を遵守し、食品廃棄物をできるだけ発生させない取り組みと、循環型農業による「食品リサイクルループ」の構築を推進しています。こうした取り組みをお客様に理解してもらい一緒に推進する活動をしています。

日本の食品廃棄物等の利用状況

食品リサイクル法の対象である食品関連事業者の排出する事業系廃棄物は641万t、家庭から排出されるものは1,072万t、そして市場に出ることなく廃棄される食品ロス¹は1,713万tにもなります。食品廃棄物の発生抑制には、食品関連事業者だけの問題ではなく、消費者も一緒に取り組む必要があります。また、生産者から消費者までのバリューチェーンで対策を講じることが今後の課題です。

概念図（平成22年度推計）



食品廃棄物発生抑制への取り組み

ユニーの店舗から排出される未利用食品（食品残さ）

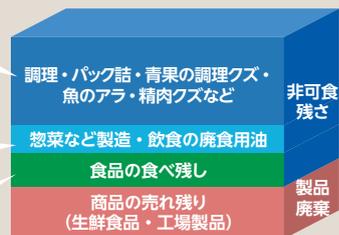
2007年の食品リサイクル法改正では、「食品関連事業者においては、食品廃棄物等の発生抑制を最優先で取り組むもの」と位置づけられ、2012年の見直しでは、「業界区分の細分化と各々の発生率の目標値」が設定されました。

ユニーから排出される食品廃棄物は、販売前に発生するキャベツの外葉や魚のアラなどの非可食部分と、「商品の売れ残り」「飲食店の食材の残り」などの可食部分があり、後者は消費者行動によるものが少なくありません。食品廃棄物の発生抑制を進めるためには、食品関連事業者と消費者が連携した取り組みが必要です。

市場や生産地から生鮮食品が搬入され、売り場に出すために調理するときに出される食品残さ

総菜やパンなど店内で製造する際、飲食店で調理する時に排出される使用済み廃食用油

飲食店などでお客様が残した食品残さ



ユニーの食品リサイクル方針

2001年にユニー環境部が設立した時点で、食品リサイクル法はすでに施行されており、食品関連事業者は業種の区別なく、食品廃棄物を20%以上リサイクルなどの実施が義務付けられていました。ユニーはこの数値を環境負荷をかけることなく達成するために「食品リサイクルの方針」を決めました。環境負荷が少なく、経済的に負担が重くなく、そして持続可能な方法を検討しました。そして、食品廃棄物を再生利用した循環型農業「食品リサイクルループ」を構築し、営業店舗の地元での地産地消も実現しました。

その後2007年に食品リサイクル法が改正されました。新たに業種ごとのリサイクル率目標値として小売業は45%と設定され、ユニーではさらに取り組みの強化を図りました。食品リサイクルの環は、自然環境や生物多様性を保全し、持続可能な地域循環を目指すものです。

- 1 安全であり環境負荷が少ないこと。
(大気汚染・水質汚染を予防し、省エネであること)
- 2 再生資源として有効であること。
(有価資源になり再廃棄しない)
- 3 経費が抑えられること。
(公共処理料金との比較)
- 4 継続できる方法であること。
(リサイクルルートが確立していること)



リサイクル実績	2011年度			2012年度		
	排出量 (t)	リサイクル量 (t)	リサイクル率 (%)	排出量 (t)	リサイクル量 (t)	リサイクル率 (%)
店舗から発生する食品廃棄物 (未利用食品)						
生鮮食品の調理クズ (野菜果物など)、賞味期限切れや飲食の食べ残し	14,174	6,436	45.4%	14,200	6,850	48.2%
魚のアラ (魚介類の調理クズや内臓・骨)	3,177	2,841	89.4%	2,521	2,212	87.7%
廃食用油 (使用済み揚げ油)	1,371	1,371	100.0%	1,394	1,394	100.0%
てんかす (フライやテンクラなどの揚げカス)	1,221	164	13.4%	974	418	42.9%
合計	19,944	10,812	54.2%	19,089	10,874	57.0%

※端数を四捨五入しているため、合計数値と一致しない場合があります

食品リサイクルの歩み

2001年に食品リサイクル法が施行されるにあたって、ユニーでは各地で「地域循環」を目指し、できるだけ環境負荷の少ないリサイクルの構築に努めてきました。

2000年

- 福井市で地域循環堆肥へのリサイクルに取り組む
- 名古屋市内店舗に熱乾燥処理機導入 (アピタ新守山店)

2001年

- アピタ福井大和田店が地域循環堆肥へのリサイクルに参加

2002年

- 茨城県で堆肥化リサイクルに取り組む
- 愛知県内2店舗に真空乾燥機導入 (アピタ岡崎北店・アピタ東海荒尾店)

2003年

- 富山市内4店舗、富山エコタウンに参加 (バイオガスによる発電)

2004年

- 長野県 (アピタ伊那店)・奈良県 (アピタ大和郡山店) の店舗に真空乾燥機導入
- 愛知県内3店舗で愛知経済連の協力により堆肥化および作物栽培・販売の実験開始
- 三重県で堆肥化リサイクルに参加 (アピタ鈴鹿店)

2005年

- 三重県内で堆肥を使って栽培した作物の販売開始 (アピタ松阪三雲店)
- 愛知県で2店舗 (アピタ瀬戸店・アピタ江南西店) 乾燥機導入

2006年

- 横浜市内3店舗が、店舗から排出した食品残さを飼料にして飼育した豚肉を販売する「横浜市有機リサイクル」(登録再生利用事業者)に参加

2007年

- 愛知県刈谷市で構築した「食品リサイクルループ」が、1月に食品リサイクル法再生利用事業計画に認定される
- けやきウォーク前橋 (アピタ前橋店)・アクアウォーク大垣 (アピタ大垣店) に真空乾燥機を導入

2008年

- 愛知県一宮市・稲沢市・江南市・豊山町にあるユニー・サークルKサンクスで取り組むリサイクルループが完成し、食品リサイクル法再生利用事業計画に認定される
- ラสบア御嵩 (アピタ御嵩店) に真空乾燥機を導入

2009年

- 名古屋市内、春日井市内および瀬戸市内店舗から排出した食品残さを飼料にする取り組み「中部有機リサイクル」に参加
- 石川県・山梨県・三重県で地域の再生利用事業者や農業生産者とともに新たなリサイクルループを計画する
- 千葉県・埼玉県・山梨県・石川県でリサイクルループの取り組みを始める

2010年

- 三重県 (三功)、神奈川県 (横浜市有機リサイクル)、富山県 (富山グリーンフードリサイクル) の既存リサイクルループを再生利用事業計画に申請。8月横浜市有機リサイクルが認定される
- 愛知県 (中部有機リサイクル) のエコフィードで豚の飼育実験を実施
- 千葉県 (プライトピック) では、コンビニエンスストアのサークルKサンクス・ファミリーマートとの共同でリサイクルループを構築。ユニーの関東地区で山崎製パンが製造した「エコフィードで育てた豚肉使用の惣菜パン」を販売

2011年

- 3月プライトピック・山崎製パンのリサイクルループが認定される。6月エコパークの惣菜パンをユニーとコンビニ2社で販売
- 6月三功のリサイクルループが認定される
- 愛知県・岐阜県 (中部有機リサイクル) のリサイクルループを申請。岐阜県多治見市を組み込む
- 京都府 (京都有機質資源) のリサイクルループを申請
- 京都有機質資源のエコフィードによる鶏卵生産のリサイクルループが認定される
- 中部有機リサイクルで愛知県・岐阜県のリサイクルループが認定される

2012年

- 京都有機質資源のリサイクルループに滋賀県・奈良県の店を加え、リサイクルループを完成させ、認定される
- 福井県坂井市の長谷川造園とJA花咲ふくいのリサイクルループを申請し認定される
- 新潟市の不二産業とJA新潟みらいのリサイクルループを申請し認定される
- 長野県飯田市のいいだ有機とJAみなみ信州のリサイクルループを申請し認定される

2013年

- 静岡県、山梨県のてんかす堆肥 (静岡油化工業) でサツマイモを栽培するリサイクルループが認定される
- 埼玉県・群馬県のアイル・クリーンテックと地元農業者の角屋商店のリサイクルループを完成、認定される
- 茨城県・栃木県のむかしの堆肥と地元農業者のレインボー・フーチャーとのリサイクルループを完成、認定される
- 農水省からの補助金を受け、石川県のトスマク・アイとJA松任のリサイクルループに取り組み完成。認定されたことで1府18県下でのリサイクルループが完成
- 食品産業センターから食品産業優良企業等表彰「環境部門」において、農林水産大臣賞を受賞

食品リサイクルの実績

ユニーでは全店舗で廃棄物の分別計量を行うことにより、廃棄物の総排出量を毎年削減しています。食品廃棄物も商品の廃棄ロス削減に取り組み、毎年減少しています。また、リサイクル量に関しても、各地でリサイクルループの構築を推進し、2012年度には店舗所在地の1府18県で達成できました (福島県を除く)。

食品廃棄物の発生抑制およびリサイクルの推進を図り、未利用食品の「もったいない」をできるだけ少なくするように努めています。

食品リサイクルの推移

年度	廃棄物総量 (t)	食品廃棄物量 (t)	リサイクル量 (t)	リサイクル率 (%)
2008	90,560	21,436	7,561	35.3
2009	88,412	22,908	9,444	41.2
2010	85,735	21,210	10,378	48.9
2011	84,332	19,944	10,812	54.2
2012	80,803	19,089	10,874	57.0

発生抑制目標の設定

2012年、発生抑制の重要性が高い業種から先行して目標値が設定されました。当面は暫定目標値として実施されますが、食品関連事業者は食品廃棄物の単位当たりの発生量がこの目標値以下になるように努力が必要です。

発生抑制の目標値の例 (2012年4月~2014年3月)

業種	業種区分	暫定目標値 (売上高百万円当たり)
食品製造業	肉加工品製造業	113kg
	パン製造業	194kg
	そう菜製造業	403kg
食品卸売業	すし・弁当・調理パン製造業	224kg
	食料・飲料卸売業 (飲料を中心とするものに限る)	14.8kg
食品小売業	食料・飲料卸売業 (飲料を中心とするものを除く)	4.78kg
	各種食料品小売業	65.6kg
	菓子・パン小売業	106.0kg
	コンビニエンスストア	44.1kg

※食品廃棄物の発生量と密接な関係を持つ値 (売上高、製造数量等) 当たりの発生量を、発生原単位 (単位当たりの発生量) といいます。



エコ野菜売り場



食品リサイクルループの環

ユニーは店舗を営業している各地域で食品リサイクルループを構築し、循環の環を継続していくことを目標としています。食品リサイクルループは、食品廃棄物を再生利用するだけでなく、消費者と農業者を結び、地産地消を実現する有効な手段でもあります。トレーサビリティが明確であることから、食の安全安心にもつながります。さらに食品リサイクル法で定められた「再生利用事業計画」を国に申請し認定されることで、リサイクルループの有効性と法遵守を確実に継続させていきます。

農林水産大臣賞受賞

ユニーは、「エコ・ファースト」の約束に基づき、店舗所在地の1府18県（福島県を除く）で食品リサイクルループを構築し、食品廃棄物の再資源化と地域循環型農業の実施を成し遂げた功績が認められ、第34回食品産業優良企業等表彰「環境部門」において、農林水産大臣賞を受賞しました。この受賞を機に、さらに食品循環資源の有効な利用に向けた取り組みを積極的に進めていきます。



食品リサイクルループの構築

リサイクルループを構成するパートナーシップ

ユニー、再生利用事業者、生産者がそれぞれの役割を果たすことによって、リサイクルの環が完成し、回り続けることができます。食品をむだにせず、ゴミを減らすことができ、地球にやさしいライフスタイルです。リサイクルの環で作った野菜や肉、卵は安全安心で美味しく、作った人の顔の見える農産物です。そして、消費者が農産物を購入することで、リサイクルループが回っていくのです。



食品関連事業者

食品循環資源を排出する店舗

- 調理クズ・魚アラ・売れ残り・残飯などから異物を排除し分別、計量する
 - 分別マニュアルの作成
 - 従業員・テナントへの教育の徹底
- 食品循環資源の品質を確保するために、適正に保管する
 - 廃棄物庫の整備（清掃・冷蔵施設）
 - 保管容器の整備（分別容器・洗浄）

再生利用事業者

- 品質の高い再生製品（堆肥・飼料）を製造する
 - 原料である食品循環資源・製造方法・施設・保管の基準作成と監視
- 農業生産者のニーズにあった再生製品を製造する
 - 再生製品の販売先を確保し、農業生産者とパートナーシップを図る

農業生産者

- トレーサビリティの確立（生産者の顔の見える農産物）
 - 農業生産者の生産技術と適正な再生製品（堆肥・飼料）によって、安全安心な農産物を提供してもらう

リサイクル農産物を消費者に提供する

リサイクルループを有効に運用するために

店舗の所在地で食品リサイクルループを構築し、地域の再生利用事業者や農業生産者とパートナーシップを図っていくことがユニーの方針です。ユニーでは、食品廃棄物を再生資源として堆肥や飼料を製造する再生利用事業者を探し、優良な再生品を作り上げることが環境担当者の仕事です。また、生産者と契約し、野菜や肉卵などの農産物を仕入れ販売することは、商品部や店舗担当者の仕事です。リサイクルループを順調に推進するために、情報を交換し話し合っって課題を解決しています。

環境担当者の役割

食品残さをリサイクルするためにパートナーを探す

リサイクルループで生産した農作物を販売することを目的としてパートナーを探す

再生利用事業者の製造する堆肥や飼料が、農業生産者の利用に適した品質かどうかを確認する。

再生製品（堆肥や飼料）を利用する農業者を探す

地産地消を前提に、生産技術の高い農業者に主旨を理解してもらい、パートナーになってもらう。

仕入れ担当者・販売担当者の役割

リサイクル農作物を販売

生産された農作物を販売するために、社内で検討する

販売計画を立てる前に、農作物の栽培履歴や品質が販売基準に達しているかどうかを確認する。

農業生産者と食品関連事業者がパートナーシップを図る

販売計画に基づいて生産計画を検討して、購入契約を結ぶ。

食品関連事業者はリサイクル作物の特徴を消費者へ十分にアピールする

売り場にリサイクルループの主旨説明や生産者の紹介などを掲示し、「安全安心な農作物」であることを明示する。

ユニーの循環型リサイクル（乾燥食品残さ・大根のツマ）

2000年からユニーの店舗に食品残さ乾燥機を導入し、乾燥した食品残さを堆肥製造業者に販売し、堆肥の原料にしています。この堆肥を使って栽培した大根で「刺身のツマ」を作って、店舗で使用しています。2000年から2008年までに食品残さ乾燥機を新規開店店舗に導入してきましたが、2007年に食品リサイクルループが再生利用事業計画に認定されたことで地域循環型農業を推進する方針とし、乾燥機の新規導入は中止しました。現在では6店舗で継続しています。（アピタ瀬戸店、アピタ江南西店、アピタ新守山店、けやきウォーク前橋、アークウォーク大垣、ラスパ御嵩）



各地で実施している食品リサイクルループ

愛知県ヒラテ産業・JAグループ [愛知県]

ユニーが最初に取り組み、2005年から事業を始めたりサイクルループです。愛知県刈谷市の再生利用事業者（ヒラテ産業：堆肥化）とJAグループとの連携で、現在は、愛知県下の刈谷市・知立市・安城市・岡崎市のアピタ・ピアゴの店舗から食品残さを回収し堆肥を製造。その堆肥を使って栽培した野菜や果実を再び店舗で販売しています。農業者とのパートナーシップは、JAあいち海部・JAあいち中央と組んで、地産地消に取り組んでいます。

- 2007年…食品リサイクル法再生利用事業計画を全国初の認定
- 2007年…第1回食品リサイクル推進環境大臣賞最優秀賞受賞
- 2011年…再生利用事業計画変更の認定



2007年10月第1回環境省食品リサイクル推進環境大臣賞最優秀賞受賞



D.I.Dバイオマスリサイクルシステム・JAグループ [愛知県]

2008年、愛知県一宮市の再生利用事業者（ディーアイディー：堆肥化）に一宮市・稲沢市・江南市・豊山町にあるアピタ・ピアゴの店舗から食品残さを搬入し、JAグループとの連携でリサイクルループを構築しました。当初から複数の自治体にある店舗からなるリサイクルループで、現在ではさらに拡大し、大口町・岩倉市・小牧市の店舗からも食品残さを搬入しています。

- 2008年…食品リサイクル法再生利用事業計画認定（ユニーで2例目）
- 2013年…再生利用事業計画変更の認定



石川県の食品リサイクルループ構築

石川県の食品リサイクルループの構築にあたっては、再生利用事業者と農業者が再生利用事業計画への参加が初めてだったこと、また食品関連事業者も含め課題を抱えていたことから、農林水産省の「平成24年度農山漁村6次産業化対策事業」の補助事業として、「石川県食品リサイクルループ構築協議会」を設置し、食品リサイクルループの構築を行いました。

2013年の1月から3月にかけて、農産物の生産計画の話し合いや堆肥生産の問題点を検証した検討会を3回、先進事例の視察を中心に生産者との意見交換を行った研修会を2回実施しました。

リサイクルループ構築の課題と解決

リサイクルループを構築するためには、食品関連事業者・再生利用事業者・農業者がそれぞれの役割を果たし、パートナーシップを構築することが重要ですが、事業開始前には以下の課題がありました。

- ①ユニーでは、食品残さの排出管理はできていたが、農産物の販売体制が未整備であった。
- ②トスマク・アイ（特定肥飼料等製造業者）は、登録再生利用事業者であったが、JAのニーズに合った堆肥の品質向上に課題があった。
- ③JA松任（特定肥飼料等の利用者）は、食品リサイクル堆肥を利用した農産物の生産経験がなく、新たな生産計画が必要であった。

これらの課題解決には、愛知県で2件の堆肥化リサイクルを先進的に推進し、指導的立場にあった2名の指導員が大きな役割を果たしました。堆肥の品質向上に関しては、他の東海・北陸地域の優良先進事例との比較、分析を通して課題を抽出し、生産工程の見直しにつなげました。また農産物の生産と物流に関しても、JAとユニー青果仕入れ担当者に、愛知県の事例に基づいた助言を行い、生産計画・販売計画の策定ができました。



検討会の実施



指導員による堆肥製造施設の確認

愛知県のリサイクルループ生産者との交流

愛知県で当初より食品リサイクルループの農産物の生産に携わっていただいている、JAあいち海部エコ部会の皆さんと今回新たにループに参加するJA松任の農家の皆さんとの意見交換会を行いました。意見交換会では食品リサイクル堆肥を利用した農業の利点についてなどの質問が出され、活発な意見交換がなされました。



生産者同士による意見交換会

完成したリサイクルループ

2010年から石川県白山市、金沢市の店舗から排出される食品残さを再生利用事業者（トスマク・アイ：堆肥化）に搬入し堆肥を製造しています。2012年度よりJA松任でこの堆肥を使って栽培した作物を石川県を中心とした北陸地区の店舗で販売する計画です。

- 2013年3月…食品リサイクル法再生利用事業計画認定（ユニーで15例目）



横浜市有機リサイクル アリタさんちの豚 [神奈川県]

●2010年
食品リサイクル法再生利用事業計画認定
(ユニーで3例目)

横浜市有機リサイクル
協同組合
(登録再生利用事業者)
食品リサイクル加工センター



ブライトピック、プリマハム、山崎製パン [千葉県]

●2011年
食品リサイクル法再生利用事業計画認定
(ユニーで4例目)

リキッドフィーディングリサイクルシステム
(登録再生利用事業者)



三功・酵素の里 [三重県]

●2011年
食品リサイクル法再生利用事業計画認定
(ユニーで5例目)

三功(登録再生利用事業者)



京都有機質資源 鶏卵 [京都府・滋賀県・奈良県]

●2011年…食品リサイクル法再生利用事業計画認定
(ユニーで6例目)
●2012年…再生利用事業計画変更の認定

エコの森京都 油温減圧乾燥システム
(登録再生利用事業者)



中部有機リサイクル PBブランド豚 [愛知県・岐阜県]

●2011年
食品リサイクル法再生利用事業計画認定
(ユニーで7例目)

豚の配合飼料製造
(登録再生利用事業者)

エコフィード
(ドライエコフィードP1)



長谷川造園、JA花咲ふくい [福井県]

●2012年8月
食品リサイクル法再生利用事業計画認定 (ユニーで8例目)

再生利用事業者



不二産業、JA新潟みらい [新潟県]

●2012年9月
食品リサイクル法再生利用事業計画認定 (ユニーで9例目)

登録再生利用事業者



いいだ有機、JAみなみ信州 [長野県]

●2012年9月
食品リサイクル法再生利用事業計画認定 (ユニーで10例目)

再生利用事業者



アイル・クリーンテック、角屋商店 [埼玉県・群馬県]

従来からリサイクルを行っていた埼玉県内の店舗に、2012年から群馬県内の店舗もリサイクルに加わりました。店舗から排出された食品残さを再生利用事業者（アイル・クリーンテック：堆肥化）に搬入し堆肥を製造、角屋商店でこの堆肥を使って栽培した作物を店舗で販売します。

●2013年3月 食品リサイクル法再生利用事業計画認定（ユニーで11例目）



富山グリーンフードリサイクル、JAなのはな [富山県]

●2013年3月 食品リサイクル法再生利用事業計画認定（ユニーで12例目）



むかしの堆肥、レインボー・フューチャー [茨城県・栃木県]

従来からリサイクルを行っていた茨城県の店舗に加え、2012年から栃木県の店舗でもリサイクルが始まりました。店舗から排出された食品残さを再生利用事業者（むかしの堆肥：堆肥化）に搬入し堆肥を製造、レインボー・フューチャーでこの堆肥を使って栽培した作物を店舗で販売します。

●2013年3月 食品リサイクル法再生利用事業計画認定（ユニーで14例目）



静岡油化工業、地元の農業生産者 [静岡県・山梨県]

●2013年3月 食品リサイクル法再生利用事業計画認定（ユニーで13例目）



食品リサイクル普及に向けての取り組み

農業体験

食品リサイクルで生産した作物の収穫体験を、消費者に体験してもらいました。食品残さが堆肥になる過程での臭いや温度を感じて、また畑の土にふれて、収穫の喜びと食べる物の大切さを体感しました。



農業体験 (JAあいち海部)

消費者交流

循環型農業で生産している農業者と消費者の交流会を定期的で開催しています。農業体験や郷土料理を味わいながら、安全安心な作物作りにかかる農業者の努力を知ってもらいました。さらに消費者からは農業者への要望も出されました。



消費者交流

JAあいち海部のエコ部会

食品リサイクルループで循環型農業を実践しているJAあいち海部で毎年開催されるエコ部会は、前年度の総括と次年度の計画を承認しました。エコ部会ではユニーの青果部と毎月生産計画と販売計画をすり合わせ、食品リサイクルループの継続的發展を確認しています。



JAあいち海部エコ部会

食品リサイクル法 2012年度定期報告書

■再生利用等実施率 66.5%
(2012年度単純実施率に2007年度比の発生抑制を加味した数値)

■食品廃棄物等の発生原単位
(食品売上高百万円当たりの廃棄物発生量) 34.15311kg/百万円
(●2007年度=44kg/百万円、2007年度比=77.6%
●2011年度=34.67696kg/百万円、2011年度比=98.5%)

自然共生社会 生物多様性 [自然共生社会を構築するために]

私達の生活は、さまざまな「生物多様性」の恵みを受けて成り立っています。

そしてユニーの売り場に並んだ「生物多様性」の恵みをお客様が購入することで、「生物多様性」を守ることにつながる取り組みを進めています。また次世代を担う子ども達が体験を通して「私達はたくさんの生き物と一緒に生きている」ことを学ぶ環境学習を行っています。

命と暮らしを支える生物多様性

地球が誕生して以来、長い時間をかけて私たち人間を含めたさまざまな生き物が生まれ、つながり合って生きてきました。その生物多様性がもたらす恵み「生態系サービス」によって、私達の命や暮らしは支えられています。生物多様性条約では、この生き物のつながりを3つのレベルに分類しています。

生物多様性の危機

地球上に3,000万種の生き物がお互いにつながり合っている生物多様性ですが、人間の活動が原因で毎年4万種が絶滅していると推定されています。その要因は、①開発・乱獲により自然を破壊している、②里地里山などに人間が手を入れなくなった、③外来種の持ち込み、化学物質の排出などで生態系を攪乱した、④地球温暖化の影響、が挙げられています。

生物多様性条約

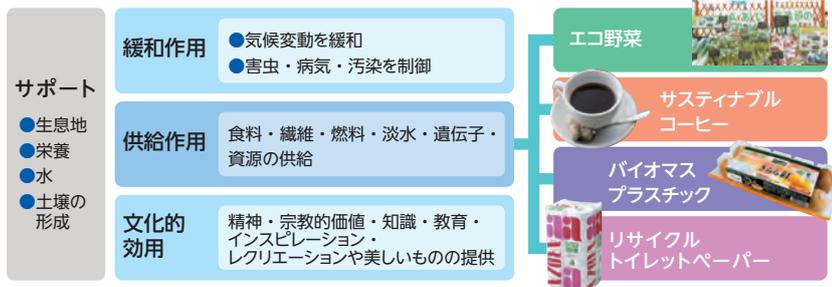
1992年にリオ・デ・ジャネイロで開催された地球サミットで採択され、193の国や地域が加盟しており、地球温暖化防止を目的とした国連気候変動枠組条約とともに環境関連の重要な条約で、1993年に発効しています。その目的は、①生物多様性の保全、②その構成要素の持続的な利用、③遺伝資源の利用からの利益の公正かつ均衡な配分、です。

2010年に愛知・名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開催され、「名古屋議定書」（食品や医薬品の開発につながる動植物や遺伝資源から得られる利益の分配について）、「愛知ターゲット」（生物多様性の損失速度を減少させ、さらに生態系、種、遺伝子の多様性を守り持続可能に利用するための行動を人々が認識すること）がCOP10で決議されました。

- 生態系の多様性**
海や川、森、里、さまざまな自然があること
- 種の多様性**
いろいろな生き物がいること
- 遺伝子の多様性**
同じ種でも個体差があること

生物多様性を守る取り組み

私達が生きるために必要な酸素は植物によってつくられ、汚れた水は微生物によって浄化されています。このように私達人間は、いろいろな生き物からさまざまな「恵み」をもらって生きています。こうした恵みを与えてくれる生物多様性を守った食べ物や製品を選んで購入することが生物多様性を守ることにつながります。ユニーではお客様が買い物することで生物多様性保全につながる取り組みを「供給作用」を通して行っています。



環境パートナーシップ・CLUB

中京エリアの企業・団体が環境について協働で取り組むことを目的にした「環境パートナーシップ・CLUB」では、会員の要望で「EPOC生物多様性ライフサイクル別事例集」を作成しました。従来の企業活動と生物多様性のつながりに新たな「気づき」を得られることを目的としています。ユニーも「テーブルの上の生物多様性」で掲載されました。



EPOC生物多様性
ライフサイクル別事例集

生物多様性を利活用した商品・容器包装

FSC認証マークを取得

FSC: Forest Stewardship Council (森林管理協議会) は、国際的な森林管理の認証をおこなう協議会で1993年に設立されたNGOであり、製品の原料を生産する森林・製品・流通過程の評価、認定・監督をおこなう機関です。FSC認定制度は、FSCの定める基準を満たした製品について、それを保証してラベリング（FSC認証マーク）を表記する制度です。消費者はラベリングされた製品を選択することで、環境や社会に大きな負担をかけていない商品を購入、消費できる仕組みとなっています。

Style ONEパルプトイレットペーパーは、今回のリニューアルを期にFSC認証マークを取得しました。これは「品質の良い商品を使いたい。でも環境にも配慮したい」という相反する需要を同時に満たすことができる商品であることを意味します。



FSC木材利用
Style ONE パルプトイレットペーパー

バイオマスプラスチック製容器の洗剤

バイオマスプラスチック製容器には、重量の30～40%にサトウキビの廃糖蜜を原料にしたPETとPEを使っています。枯渇が懸念される石油の使用を抑制するとともに、生育段階における光合成によって廃棄時に発生するCO₂を相殺します。また、植物を原料にしているので、何度でも栽培でき、持続可能です。これらの商品には、一般社団法人日本有機資源協会の認定を受けて「バイオマスマーク」をつけています。



テーブルの上の生物多様性

ユニーの売り場に並んでいる食品は「生物多様性の恵み」です。生物多様性を身近なことに感じ、「私達の毎日の食べ物生き物の命」ということを伝え、自然環境やそこで生きる生き物を大切に守ったうえで生産した食べ物を選ぶことが、生物多様性に貢献することだと知ってもらえるように、努めています。



環境に配慮して製品化する取り組み

ユニーで取り扱う、プライベートブランドの「プライムワン ノルウェー生アトランティックサーモン」は水揚げ・加工・物流・包装資材にいたるまで、環境に配慮した製品として「eco!on」の認証を受け販売を続けています。北欧のきれいな海を守るためにさまざまな取り組みを実施しており、養殖場から工場内へはバキュームを使用するため海上付近での活け締めがなく、血で付近の環境が汚染されない取り組みを心掛けています。また、加工では活け締め後、冷やし込みに使用した油のたまったタンク内の汚水は、魚油として再利用することで汚水を自然環境に垂れ流さない配慮をしています。



ノルウェーの養殖場



食品本部 鮮魚部 バイヤー 嶋田大蔵

森林を守る活動

森の町内会

ユニーは、古紙のリサイクルに取り組み「オフィス町内会」が長野県飯島町・駒ヶ根市と連携する「森の町内会」の取り組みに協力しています。「森の町内会」とは、企業が紙を使用する際に間伐にかかる費用を環境評価として価格に反映させた「間伐に寄与する紙」を選ぶことで、森林保全のための間伐を促進する活動です。ユニーは2012年の環境レポートなどの環境関連印刷物に、6,087.875kgの森の町内会「間伐に寄与する紙」を使用し、長野県の0.33haの間伐に貢献しました。



森林間伐作業

森の命を守るために（森林保全活動）

ユニーは、エコ・ファースト企業のキリンビールやライオンとの共同企画で植樹活動を行いました。販売キャンペーンに応募してくれたお客様と一緒に木を植え、植えた後も手を入れることで森林を健全に保全することを学びました。



キリンの森の植樹

いろんな生き物と生きている

農業体験

食品リサイクルループによる食品循環資源の堆肥で栽培した野菜の収穫を体験しました。堆肥が発酵する時の臭いや熱を体感したり、堆肥で育てた野菜の畑にはミミズやカエルが生息していることを発見しました。



小松菜収穫

エコ博のキッズズー

日本モンキーセンターとの協働で、「生き物命を感じる」キッズズーをエコ博で開催しました。子ども達は大きな亀に触ったり、大きなトカゲを抱いたり、いろんな生き物と一緒に生きていることを体感してもらいました。



オトカゲ



リクガメ

名古屋港水族館

名古屋港水族館の「移動水族館」がユニーの店舗で開催されました。愛知県で生まれたアカウミガメの赤ちゃんに触れたり、楽しいワイズショーで海の生き物のことを学びました。



アカウミガメ

なごや環境大学 インタープリター養成講座

ユニーが企画提供している市民講座で、「環境にやさしいライフスタイル」を周りの人達に伝えてくれるインタープリターになってもらうためのプログラムを実施しています。養蜂家にミツバチの巣箱を見せてもらい、蜂蜜も少しもらいました。森の中にはいろんな生き物が暮らしていて、森を守ることも大事な役割だということを体感しました。



ミツバチから蜂蜜を採取

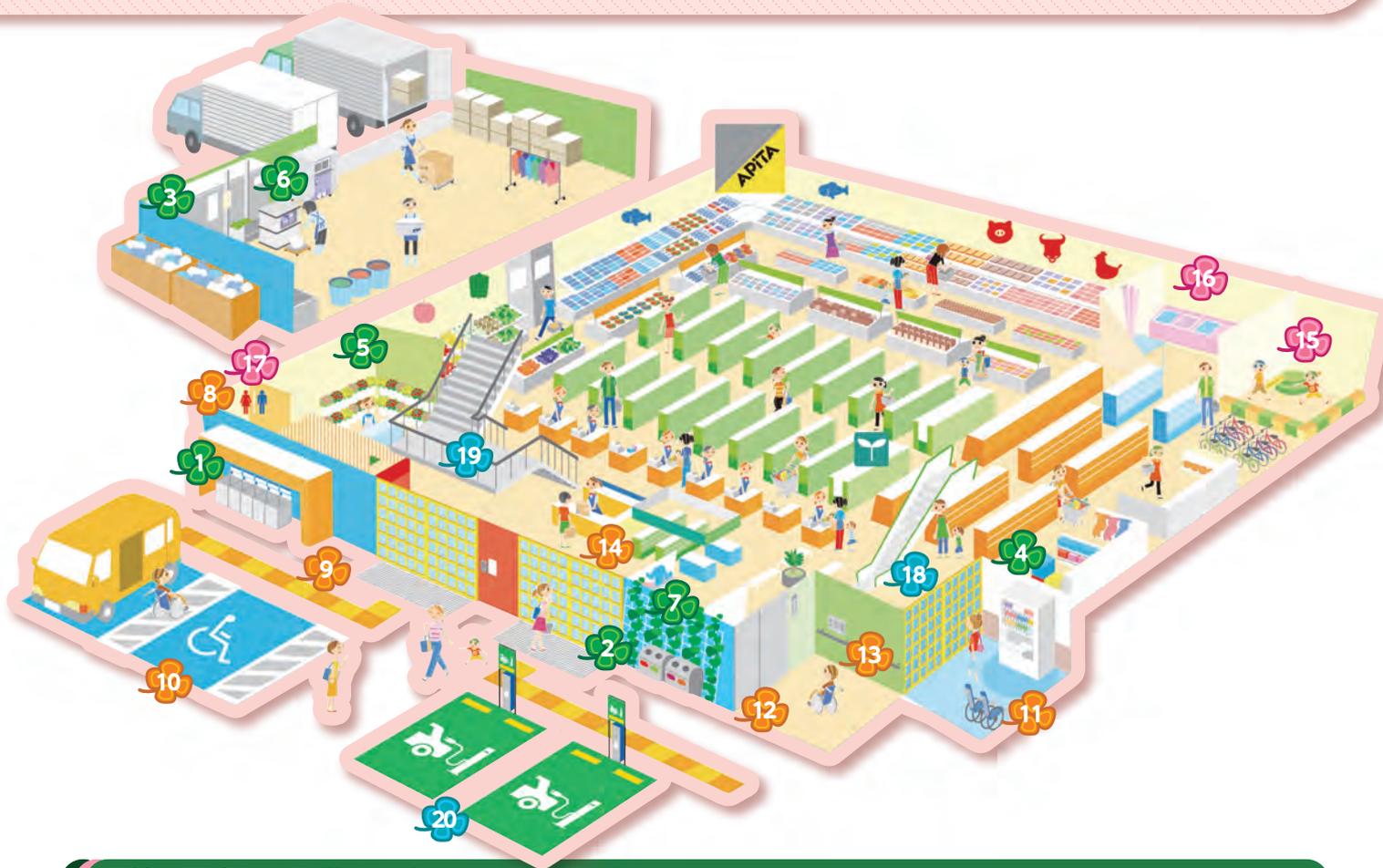


森の中にはいろんな生き物



店舗での取り組み

来店された全てのお客様が快適にお買い物を楽しんでいただけるように、ユニーでは店内のいろいろな所を工夫しています。また、「環境にやさしいお買い物」をお客様と一緒に進め、持続可能な社会を目指して、環境にやさしい商品の販売、包装資材の削減や廃棄物の削減、分別、リサイクルなどを実施しています。



環境に配慮した設備や工夫

“環境に配慮した店づくり”を目指しているユニーの店内では、ゴミの減量、リサイクルや省エネを推進するため、さまざまな設備を用意するとともに、販売方法にも工夫をしています。特にお客様とともに進めるゴミの減量に関しては、お客様が利用しやすいように、リサイクルステーションのほか、各所に分別ゴミ箱を設置しています。



1 リサイクルステーション

牛乳パックをはじめ、アルミ缶・トレイ・ペットボトル・バイオマスプラスチック・卵パックなどお客様のお買い上げ後にゴミになるものを回収し、リサイクルしています。



2 分別ゴミ箱

店内各所に「燃やせるゴミ」や「燃やせないゴミ」など分別するためのゴミ箱を置き、ゴミを分別回収しています。



3 リサイクル処理機

生ゴミは肥料、発泡スチロールはプラスチックチップなど、再生資源としてリサイクルを行っています。



4 環境配慮商品

原料・製造工程・使用時・容器包装廃棄時などの環境負荷を低減した環境配慮商品を開発・販売しています。



5 情報の開示

ユニーの取り組みをポスターなどで紹介・報告しています。



6 廃棄物計量システム

各売場やテナントから排出される廃棄物を分別し、計量することにより、減量やリサイクルの促進を図ります。



7 壁面緑化

ヒートアイランド対策と断熱効果のある、壁面緑化を店舗の外壁に導入しました。建物温度の上昇を抑え空調使用量を削減します。





ユニバーサルデザイン



8 多目的トイレの設置

車椅子でご利用いただけるトイレです。また、妊婦の方やお年を召した方もご利用いただけます。



9 段差のない入り口

駐車場と店内の段差をなくし、公道入り口から各玄関まで誘導ブロックを設置しました。



10 車椅子専用駐車場

入り口の近くに、車椅子専用駐車場を設置しました。



11 車椅子の無料貸し出し

店内でご利用いただける車椅子をご用意しています。



12 優先エレベーター

混雑時などに車椅子の方が優先的にご利用いただけます。音声案内・点字表示をし、低い位置に操作ボタンを付けました。



13 介添えサービスの実施

1階各出入り口にインターホンを設置し、お呼び出しによって介添えサービスのご要望にお応えします。



14 AED (自動体外式除細動器)

不測の事態に備えてAEDを設置しました。

お子様連れの方への配慮



15 小さなお子様の遊び場

小さなお子様に安全に遊んでいただけるように、床や遊具にソフトな素材を使用した遊びのスペースを設けています。



16 ベビー休憩室 (赤ちゃんルーム)

お子様の授乳やおむつ替えにご利用いただけるベビー休憩室 (赤ちゃんルーム) を設けました。



17 子供用トイレ設備の設置

男性用トイレにベビーシートを設置したり、子供専用トイレを設置しました。

ベビーシート



子供専用トイレ

よりよく利用していただくためのサービス・工夫



18 アピタのおいしい水

飲料やお料理に使用していただける水を提供する浄水機を設置しました。



19 危険防止の工夫

危険防止のために、店内の階段には手すりを付け、足元に誘導ブロックを設置しました。



20 電気自動車充電スタンドの設置

地球温暖化防止の取り組みとして、電気自動車用「急速充電器」を設置しました。お買い物しながら充電ができます。



バリアフリー新法

ユニーはすべてのお客様に快適にご利用いただける店づくりに取り組んでおります。バリアフリー新法とは、「高齢者、障がい者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」で、平成18年12月20日に施行されました。



ピックアップ・エコストア

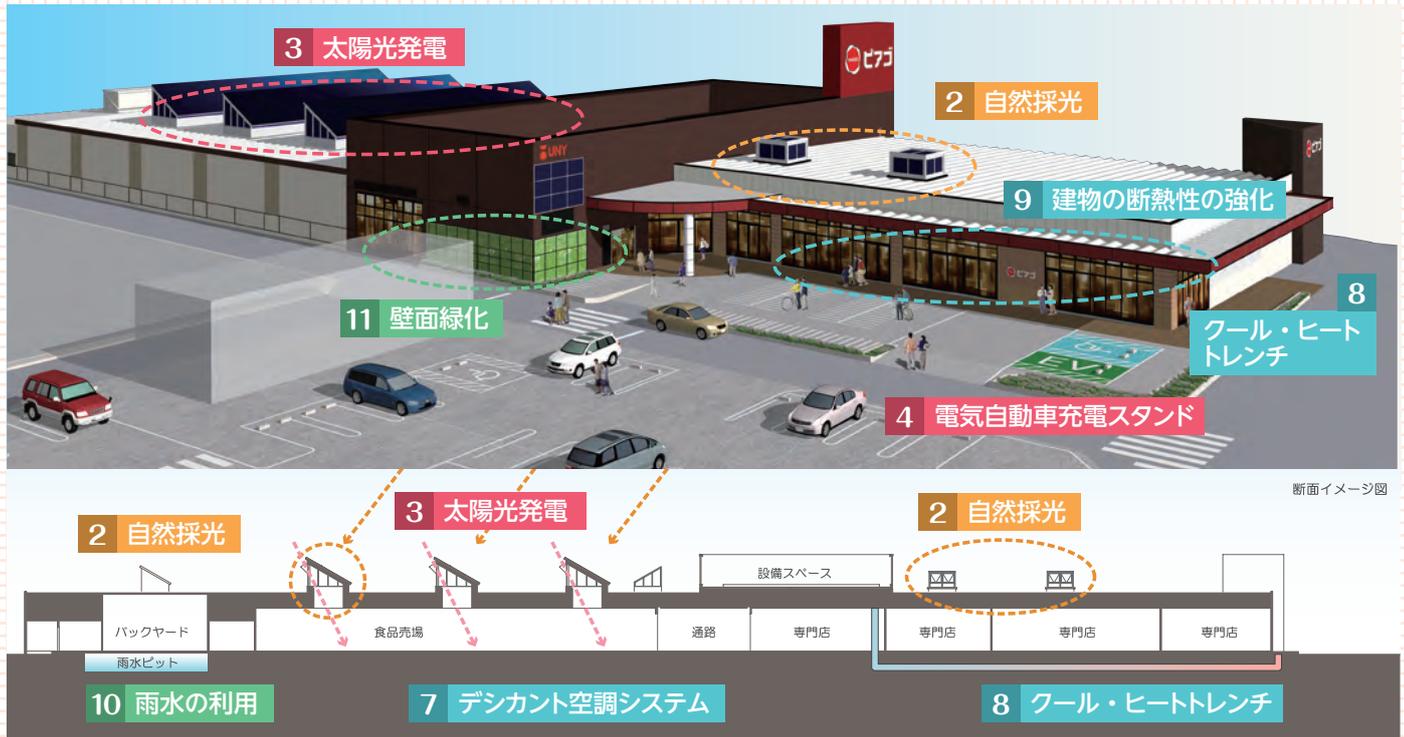
地球温暖化防止を目指し、ユニーでは省エネルギー設備を設置し、さらに従業員をはじめ、お客様や取引先など関係する人たちと一緒に環境活動を進める「エコストア」を開店しました。



ピアゴ 蟹江店

節電対策充実の省エネルギー（エコストア）モデル店舗

省エネルギー実現に向け、ピアゴ初の節電対策充実の省エネルギーモデル店舗として、「ピアゴ 蟹江店」を2011年9月23日にリニューアルオープンしました。ランニングコストおよび二酸化炭素排出量の30%以上削減を目指します。



1 LED照明

従来の蛍光灯に比べ、電力量を約40%削減し、施設全体の年間CO₂排出量を約5.3%削減します。



2 自然採光

昼間の照明の点灯時間を短縮し、施設全体の年間CO₂排出量を約0.7%削減します。



天井の窓から太陽光をお店の中へ入れることで、電気使用量を削減します。



3 太陽光発電

太陽の光を電気に変える太陽光発電パネルを設置。昼間の照明の点灯時間を短縮し、施設全体の年間CO₂排出量を約3.0%削減します。



4 電気自動車充電スタンド

環境に優しい電気自動車を広めるために、充電スタンドを駐車場に設置。



5 オール電化

省エネ性能に優れた機器を導入する事で、二酸化炭素発生量を抑え、店内で火を使わず安全・安心な施設を実現します。





6 高効率空調

さまざまな環境の変化にも対応した最適な運転を行う事で、空調による電力使用量を約4.3%、施設全体の年間CO₂排出量を約1.4%削減します。



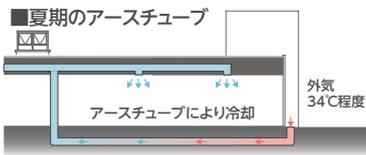
7 デシカント空調システム

温度管理を適正に行う事で冷ケースの霜取り運転を削減し、施設全体の年間CO₂排出量を約8%削減します。



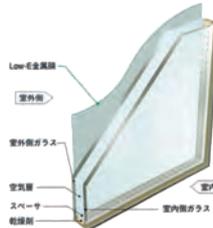
8 クール・ヒートレンヂ

地中熱を利用して行う空調。店内に冷えた新鮮な空気を送る事ができ、空調による電力使用量を約1.8%、施設全体の年間CO₂排出量を約0.6%削減します。



9 建物の断熱性の強化

折板屋根に二重葺きを採用。建物全体の断熱性能を強化する事で、外気の影響による室内の温度変化を抑え、空調による電力使用量を約32%、施設全体の年間CO₂排出量を約11%削減します。



10 雨水の利用

トイレの洗浄水や散水栓などに雨水を利用する事で、水道使用量を約16%削減します。

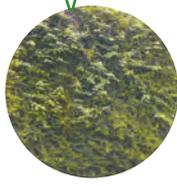


11 壁面緑化

日当たりの良い建物南側の壁面を利用して、約45㎡の壁面緑化を導入。空調負荷を軽減し、ヒートアイランド現象の抑制にも貢献します。



お店の壁に植物を植えることで、お店の中の温度変化を防ぐ「天然のエアコン」になります。



12 リサイクルステーション

お客様の家庭から出る廃棄物を削減し、再生資源とするため、牛乳パックやアルミ缶、トレイなど使用済み容器包装を回収します。



13 節電観測パネルの設置

太陽光発電でつくられた電気量や二酸化炭素量を使用した量が分かるパネルを店内に設置し、お客様にも節電状況を公開しています。



ヒルズウォーク徳重ガーデンズ

●空調

空調熱源に電気式ターボ冷凍機を採用しています。省エネルギーでCO₂排出量を削減します。



ピオニウォーク東松山

●空調関連

空調熱源を電気式ヒートポンプチャラーで実施。60%で設定。



ラザウォーク甲斐双葉

●電気式ヒートポンプ空調システム

空気中の熱を効率よく汲み上げ、少量の電気エネルギーでたくさんの熱エネルギーを取り出せる効率的なシステム。エネルギー使用量を抑えCO₂排出量削減にも貢献できます。



リーフウォーク稲沢

●ガスコージェネレーションシステム

都市ガスを用いて発電した際に発生する排熱を冷房や給湯に利用する省エネルギーシステム。CO₂削減に貢献しています。



お客様の声 [人にやさしく、環境にやさしい店づくりのために]

よりよい店づくりのために、何よりもお客様のご意見を大切にしています。

お客様の声に真摯に耳を傾け、速やかな回答と迅速な対応ができる仕組みを整え、商品やサービスの改善を進めています。お客様の声を商品やサービスに反映することが企業の社会的責任（CSR）を果たすことに繋がり、お客様に支持されて、はじめて持続可能な社会貢献を果たすことができると考えています。

お客様の声のポスト

お客様の声ユニーを変えます

ユニーでは各店舗に「お客様の声のポスト」を設置しています。ポストには店舗施設や商品・サービスなどさまざまなご意見ご要望・お問い合わせ、またご指摘やお叱りの言葉が寄せられています。これらの「お客様の声」には店長が必ず回答し、店舗や商品、サービスなどに反映させていただいています。ポストに入れていただいた「お客様の声」は地域のお客様のより良い生活を築いていくためのメッセージであり、ユニーの羅針盤でもあります。これからも、お客様からのメッセージを真摯に受け止め、お客様に支持され期待される店づくりに努力していきます。



営業サポート本部
お客様サービス部長
黒田 洋司

内容	件数	構成比率 (%)
ご意見・ご指摘	2,535件	74.2
お問い合わせ・ご要望	798件	23.4
お褒め	82件	2.4

※データは、2012年2月21日～2013年2月20日（ユニー本部 受付分）のものであります。



環境・社会貢献に対してのご提案・ご要望など貴重なご意見をいただき、今後の取り組みの参考にさせていただきます。また、最近はお客様より心温まるお褒めの言葉をいただく機会が増えており、従業員一同のさらなる励みとしてありがたく思っています。

お客様の立場でさまざまな改善に努めています

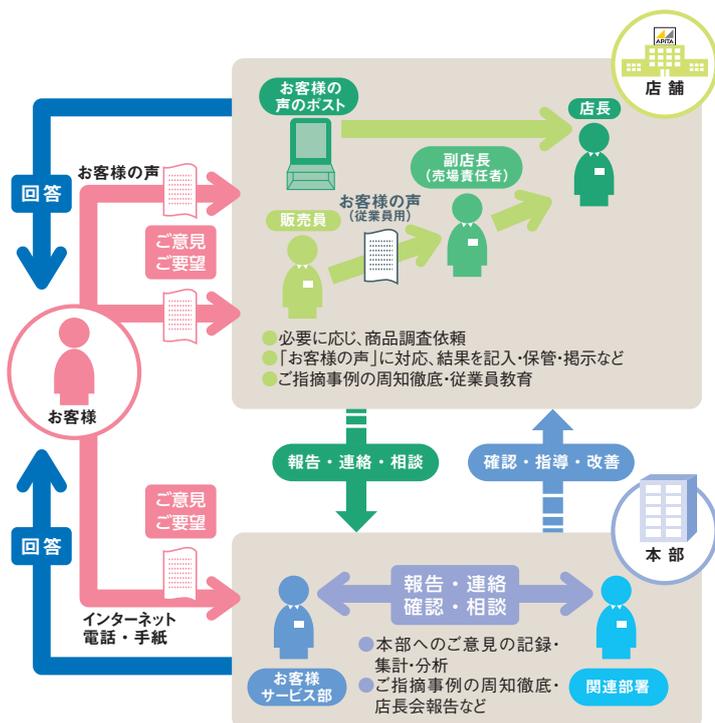
お客様からお寄せいただきましたご意見・ご要望・ご質問などのうち、全体的な内容につきましては店舗から本部へ報告され、毎週取りまとめたうえで本部内・各地区本部・関係部署へフィードバックされ、商品開発や品揃え、売場づくりやサービス改善に活かされています。こうしてお客様の声が全社の改善につながるのです。

お客様サービス部は年中無休でお客様の声をお聞かせいただけるよう対応しています。よりたくさんのお客様の声をお聞きし、なおいっそう従業員の意識を高め、お客様に気持ち良くお買い物をしていただけるよう努めてまいります。



お客様サービス部のメンバー

お客様の声の流れ



ホームページからの環境情報発信

ユニーのホームページでは、環境・社会貢献活動に関する活動や環境配慮商品などの情報を発信しています。また参加型イベントなどの応募情報なども掲載し、「やさしい暮らしPress」では生活の中での環境の知識を学べるページもあります。

環境社会貢献部 ホームページアドレス

<http://www.uny.co.jp/corporate/torikumi/eco/index.html>



社会貢献・地域貢献

持続可能な社会は、地球環境を守るだけでなく「みんなが幸せに暮らしていくことができる社会」です。ユニーはその実現のために社会貢献活動を推進しています。そしてユニーの店舗は市民の皆様やNPO・自治体と一緒に、頼りになる「地域のコミュニケーションセンター」としての役割を果たしていきます。

社会貢献活動

難民衣料救援

ユニーはNPOや地元企業のボランティアと協働で、お客様の家庭で不用になった衣料品を回収して、日本救援衣料センターを通じて、アジア・アフリカ・南米に送りました。この事業には日本通運にも協力していただきました。

衣料品回収店舗	実施日	協力機関	回収量(t)	参加者数(名)
アピタ刈谷店	2012年10月13日	デンソーボランティア支援センター	22	483
アピタ千代田橋店	2013年5月22日	日本救援衣料センター 名古屋を明るくする会	15	400
アピタ刈谷店	2013年6月8日	デンソーボランティア支援センター	16	471
アピタ安城南店	2013年6月15日	デンソーボランティア支援センター	11	275
アピタ豊田元町店	2013年6月29日	トヨタ紡織ボランティア	5	220



デンソーボランティア支援センター



名古屋を明るくする会



トヨタ紡織ボランティア

「エコとくお買い物券」プレゼント企画

家庭で不要になった衣料品を回収し、リサイクル資源として自動車の内装材に活用しています。回収に協力してくれたお客様に、アピタ・ピアゴでのお買い物に使用できる「エコとくお買い物券」をプレゼントしました。エコとくお買い物券の使用で1枚につき2円を、ユニーから災害支援や緑化活動に寄付しました。



エコとくお買い物券

エコとくお買い物券・使用実績と寄付金

	企画	直営 使用枚数(枚)	専門店 使用枚数(枚)	使用枚数 合計(枚)	寄付単位 (円)	寄付金 (円)	寄付先
2012年 5月	衣料品引取り (アピタ・ピアゴ)	334,294	39,666	373,960	2	747,920	公益社団法人 国土緑化推進機構
2012年10月	衣料品引取り (アピタ・ピアゴ)	628,130	64,873	693,003	2	1,386,006	公益社団法人 国土緑化推進機構
	合計	962,424	104,539	1,066,963		2,133,926	

世界の医療団 ～スマイル作戦キャンペーン～

「世界の子ども達を笑顔にしたい」と先天性やけがや病気で、戦争などで傷を負って、顔に手術が必要な途上国の子ども達に医療を施し笑顔を贈る活動です。2012年度には12店舗で開催し、2,369名の方々が参加、子ども達にメッセージをいただいたり、661万円もの寄付金振込の手続きをしてくださりました。



募金活動



リーフウォーク稲沢でのイベント

エコキャップ運動 ～世界の子ども達にワクチンを～

2012年7月から2013年6月までの期間に集まったエコキャップは809万3,600個でした。途上国の9,520人の子ども達にワクチンを送ることができました。この活動は、お客様から店舗に寄せられたエコキャップを、近隣の読売新聞販売店の方が回収して、新聞を運んできたトラックの帰り便で工場に集約、リサイクル業者に届けられる、というたくさんの方々の善意で行われ、多くの子ども達の命を救っています。



エコキャップ推進協会から感謝状を受ける佐古社長



読売新聞販売店が定期的にキャップを回収



NPO法人JCVを通じ、発展途上国の子ども達にワクチンを届けます

募金活動

盲導犬育成キャンペーン「ワンステップ」

盲導犬を育てて目の不自由な方に役立てていただくキャンペーンを実施しました。11月期の1カ月間にペットフードの販売金額の1%、34万7,000円を全国盲導犬施設連合会へ寄贈しました。愛犬家の善意が届けられたキャンペーンです。



全国盲導犬施設連合会から表彰



WFP(国連世界食糧計画) 支援活動

ユニーはWFP協会参加企業として、従業員を対象に「ワンコイン募金」を実施しています。「ポケットのワンコインで、飢餓に苦しむ途上国の子ども達に給食をプレゼントしよう」と社内会議の出席者や社員食堂利用者に協力を呼びかけています。2012年度は103万円を寄付しました。



WFP協会から感謝状を受ける前村会長

UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) 支援活動

世界では多くの人々が内戦や戦争に巻き込まれていたり、宗教や人種、政治的な立場が違うといった理由で、迫害を受け、生命の安全をおびやかされています。そのため故郷から逃げ出さざるを得ず、他国に避難した「難民」、国内の別の地域に避難した「避難民」が人々が安心できる生活に戻れるよう支援する活動を行っています。



店舗での募金活動

愛の1円玉募金

各店舗の店頭で「愛の募金箱」を設置し、お客様・お取引先様・従業員から善意の募金を集めています。集まった募金は、地域の社会福祉協議会や福祉団体へ寄付しています。

中京地区	10,404,254円
関東地区	2,151,444円
山静地区	764,469円
北陸地区	975,355円
合計	14,295,522円



愛の1円玉募金箱と感謝状

AJU自立の家 車いすセンター・ピア名古屋

1982年より旧ユースタアの従業員で続けられてきた「車いすの無料貸し出し」活動を支援する募金活動を、2009年からはユニーが引き継ぎ実施しています。2012年度は100万円を寄付しました。また、知的障がい者授産施設ピア名古屋が多治見市の修道院で収穫したブドウで醸造したワインを販売し、障がい者自立支援を行っています。



AJU車いすセンター



エコ博でピア名古屋のワイン販売

東日本大震災支援

2011年3月11日の東日本大震災は大きな被害をもたらしました。ユニーでは発生当初から迅速に災害支援活動を開始し、支援物資や義援金を届けてきました。現在も被災地では復興事業が行われていますが、失われたものは大きく、まだまだ支援活動が必要です。ユニーでは特に「子ども達の未来のために」他の企業や団体と協働で、お客様と一緒に支援活動を行っています。

子ども達の進学支援

ユニーとサークルKサンクスは、大震災で親を亡くした子ども達が将来の夢をあきらめずに進学できるよう、「公益財団法人みちのく未来募金」を通じて2012年より10年間にわたり支援をしています。

ブックオフとのチャリティーで絵本・文具を寄贈

お客様の家庭にある、いらなくなった本やCD、ゲームなどを店舗（アピタ阿久比店、リーフウォーク稲沢、ラスパ御嵩、アピタ江南西店、アクアウォーク大垣、アピタ知立店）で回収、ブックオフに引き取ってもらい、買い取り金で東日本大地震被災地の子ども達に絵本と文房具を贈りました。



家庭で不要になった本、CD、ゲームの回収

寄付された本・CD・ゲームの点数	4,381点
寄付金額	39万5,145円

ベルマークを集めて被災地の子ども達を支援

2012年に引き続き、1月10日から2月19日の期間、ユニー全店のサービスカウンターと事務所で、お客様と従業員からベルマークを集めました。集まった50万点はベルマーク教育助成財団名古屋事務所に寄贈し、東日本大地震で被災した子ども達への学用品支援に使われます。この活動は、キリンビバレッジとの協働で行っています。



回収したベルマークとキリンビバレッジ担当者



サービスカウンターでベルマークを回収

被災地の健康対策、マスクを寄贈

大震災から季節が一巡し、寒さが厳しい東日本では、風邪やインフルエンザ予防のためにマスクが必需品です。ユニーは、被災地に使い捨てマスクを約40万箱寄贈しました。皆さんの健康が守れたと、多数の方より感謝状をいただきました。



マスクを受け取った仙台の皆さん

学生たちとクリスマスのチャリティーコンサート

リーフウォーク稲沢で、名古屋コミュニケーション専門学校（通称：コメ）の学生達のチャリティーコンサートを開き、お客様から寄せられた募金で被災地の子ども達に文房具を贈りました。学生達はプロのボーカリストを目指していて、アカペラのゴスペルは本格的で迫力があり、お客様も聴き入っていました。クリスマスに心温まるコンサートでした。



クリスマスチャリティーコンサート

被災地の子ども達の心に夢と力を!企画

花王との協働で、被災地の子ども達に、絵本613冊（84万3,569円）を寄贈しました。この企画は、ユニーとサークルKサンクスの店舗で、1カ月間にお客様が購入した花王製品の点数に応じて寄付をしたものです。寄付先の7カ所の小学校、幼稚園、保育園から感謝の手紙が届きました。



絵本を受け取り笑顔を見せる子ども達



南三陸町復興支援「光のカケラプロジェクト」

東日本大震災復興支援として、「光のカケラプロジェクト」を行いました。エコロジーブランド「ECOMACO」による未来を担う子どもたちの「色育」や「エコ活動」を啓発するプロジェクトに賛同し、活動を推進しています。



ユニーでは、①東日本大震災被災地の応援と防災意識の向上

②色育 ③バイオマス素材の紹介の3つを大きなテーマとし取り組みを行いました。また、P&Gとの協働プロジェクトとして、アピタ・ピアゴでのP&G製品売り上げの1%を活動資金として支援しています。

南三陸町でのワークショップ

第一フェーズとして、東日本大震災の被災地である宮城県南三陸町でワークショップを行い、参加した女性や子ども達に色が元気とパワーをもたらすことを伝えました。まだ復興途上にある南三陸町の女性達に“色のパワー”で少しでもハッピーになってもらいたいと思います。南三陸町での活動は、NPOウィメンズアイとの協働で実現しました。



素材や色について、ECOMACOの代表岡さんにレクチャーしていただきました



洋服の端切れ（バイオマス素材）を使い、ポストカード、エコバッグを作りました



ワークショップでは色によって力を貰うことができる、色は人をハッピーにするということが実感できました



ECOMACOの洋服を身にまとい、笑顔の参加者

リーフウォークでのイベント

第二フェーズとして、2013年5月11・12日にリーフウォーク稲沢にて南三陸町復興支援イベントを開催しました。南三陸町の被災状況の紹介や南三陸町からゲストを招いての防災についてのトークショー、バイオマスプラスチック繊維を草木染めした素材を使っのファッションショーやワークショップなどのお客様参加型のイベントを開催しました。



メイン会場には南三陸町を襲った津波の高さを押し、津波の大きさを伝えました



実際に津波に遭ったゲストとのトークセッション



P&Gの皆さんと前村会長



ECOMACOによる洋服の端切れを使ったワークショップ



バイオマス素材の端切れでハガキをデコレーションしました



P&Gパフューマー（調香師）による香りづくりワークショップ



リデザイン プロジェクトのチャリティ販売（ユニーブース）



ECOMACOによるバイオマス素材のファッションショー



サスティナブルコーヒーの試飲（珈琲工房ひぐちのブース）



体験型イベント「エコ博」

環境にやさしいお買い物からエコライフを始めませんか。ユニーはお客様と一緒に持続可能な社会を目指しています。各エリアのモール型店舗やアピタで、地球にやさしいライフスタイルの体験型イベント「エコ博」を開催しました。環境に関心のある方も、そんなに意識していなかった方も、エコ博に参加して「今日からエコライフ」を始めることが、未来の子ども達に美しい自然を残すことにつながります。

アピタ誕生30周年記念「エコ博」を開催

2012年はアピタ誕生30周年の年でした。ライフスタイル提案型の店としてスタートしたアピタでは、「これからの店舗は全てエコストアでなければならない」と、各エリアのNPOや自治体と協働で、お客様と一緒に創るエコストアを目指して環境貢献活動を進めています。

アピタ長津田店

横浜市にある大型店舗アピタ長津田店で、神奈川県・横浜市との協働により、神奈川県との包括協定を記念して「エコ博」を開催しました。県や市のブース、環境省の「活かそう資源プロジェクト」のブースやNPOの「減装ショッピング」、WFP協会の「国連世界食糧計画」など、多彩な内容でたくさんのお客様に参加していただきました。



お買い物のついでにエコ博で環境活動



「水のさと」ブース（神奈川県）



ゴミの分別ゲーム（横浜市）



WFP協会（国連世界食糧計画）子ども達を飢饉から救おう



電気自動車の試乗会



NPO減装ショッピング

プレ葉ウォーク浜北

静岡山梨エリアでは、浜松市のプレ葉ウォーク浜北で開催しました。地元浜松市や静岡県からの出展や富士常葉大学の学生達が世界遺産富士山の自然や文化を劇にして演じてくれました。また名古屋港水族館の「アカウミガメの子亀と子ども達のふれあい」が人気でした。



3R推進展（浜松市）



静岡県地球温暖化防止活動推進センター



全国盲導犬施設連合会のデモンストレーション



富士常葉大学の学生たちのエコクラフトと環境劇「富士山の生きもの」



天ぷら廃油回収（食品リサイクルループ）のブース（静岡油化工業）



アカウミガメとのふれあい（名古屋港水族館）



アピタ福井大和田店

北陸エリアではアピタ福井大和田店で開催しました。福井市中央卸売市場で開催された福井市環境展と連動しスタンプラリーを実施。企業や地元NPO・団体の展示、名古屋市からは名古屋港水族館、愛知県から子ども環境ミュージカル「劇団シンデレラ」も出演しました。



福井市中央卸売市場での福井市環境展



たくさんの企業、NPO、団体が出展



金沢大学・香坂先生による「生きもの語り」



「海のクイズ」で盛り上がるステージ（名古屋港水族館）



ESDがテーマの子ども環境ミュージカル



NPOエコネットふくいによる牛乳パックのエコ工作

アピタ各務原店「環境展」

岐阜県のアピタ各務原店では、東海三県一市グリーン購入キャンペーンのイベントとして、岐阜県と店舗が協働で「環境にやさしいお買い物」をお客様に楽しみながら知っていただく活動を行いました。



環境活動ブース（岐阜県）



サスティナブルコーヒーのお話し（珈琲工房ひぐち）



地元音楽家のステージ



環境紙芝居（店舗の従業員がナレーション）

大垣市環境市民会議「エコフェア」

環境活動に熱心な岐阜県大垣市では、大垣城ホールで大垣市環境市民会議の環境フェアが開催され、ユニーも環境展示とエコ工作、環境紙芝居で参加しました。



環境クイズ



エコ工作は「マイ風呂敷づくり」



ESDをテーマに「エコ博」を開催

2013年は、ユニーグループ・ホールディングス誕生記念の「エコ博」を開催しました。2014年に愛知・名古屋で開催される「国連ユネスコのESD（持続可能な開発のための教育）国際会議」に協賛して、未来の子ども達を主役にしたエコ博です。



リーフウォーク稲沢

リーフウォーク稲沢でのテーマは「エコライフが地球を守る」。エコ博に賛同して、地元稲沢市やたくさんの企業・NPOが参加してくださいました。それぞれが推進している環境活動を展示やステージで紹介し、お客様も一緒になって楽しみながら学んでいただきました。



たくさんのお客様に楽しんでいただきました



出展者がそれぞれのメッセージを述べました

エコ博は子ども達が主役です

子どもの時に学んだことは、大人になって「ライフスタイル」を選択する時にきっと役に立ってくれるはず、地球環境を守ること「みんないっしょに・つづく・めぐる」が、今年のエコ博のテーマです。



子どもミュージカル



ライオンのブースで水の大切さを学びました

エコ博ガイドツアー

会場を一緒に回ってエコを楽しく学ぶガイドツアーを実施しています。案内役はユニーのインタープリター、ボランティアの皆さんです。



ユニーのブースでリサイクルを学びました



地元稲沢市ブースでグリーンカーテンの展示を見学

私達の食べているものは、みんな命です

環境で一番大切な「人の命」、食べることを学ぶブースです。



NPO Let's食の絆のブースで「食事バランスチェック」



明治ブースで牛乳のお話を聞きました。

生物多様性

私達はいろいろな生き物と一緒に生きています。生き物に触れて命の大切さを学んだり、遠いアフリカの動物の話をお聞きしました。



日本モンキーセンター「キッズズー」生きものとふれあい



アフリカの野生動物と環境問題のお話

エコ工作

子ども達が夢中になって、「要らないものから、新しいすてきなものを創る」エコ工作。一生懸命に創った、子ども達の宝物です。



光のカケラ マイバッグづくり



牛乳パックの紙すき

その他の催し



花王のせっすい丸くんのステージ



トヨタ白川郷自然学校のブース



人形劇団 ミニ天井



キリンの環境活動についての講演



日本ハムのブース



全国牛乳容器環境協議会ブース

アクアウォーク大垣

アクアウォーク大垣は日頃から地域の皆様と一緒に環境活動を推進しています。緑地は「レジ袋 市民の森」と名付けられ、エコ博ではここで採取したハーブでブーケ作りをお客様に体験していただきました。



環境アンケートでリサイクルについて知ってもらいました



岐阜県園芸福祉協会の香りブーケづくり



サスティナブルコーヒーの試飲



まのあけみさんのふるさと歌コンサート



大垣市環境市民会議の牛乳パックの紙すき工作

けやきウォーク前橋

群馬県前橋市のけやきウォーク前橋は、ユニーで最初にエコ博を開催した店です。毎年地元の企業や自治体が参加しており、お客様にも楽しみにしていただいています。



けやきコート



ユニー環境展



前橋市ごみの分別釣りゲーム



段ボールハウス



エコ工作



地域貢献

ユニーは頼れる「地域のコミュニティーセンター」として、地域貢献活動を行っています。そして自治体との協働で地域貢献に努め、さらにお買い物を通して社会貢献を果たしていきます。

自治体と包括協定を結び、地域に貢献

ユニーは店舗を出店している自治体と順次包括協定を結び、地産地消など地域の活性化や環境保全、災害時の支援など地域のために努めることを約束しました。2012年度は千葉県、岐阜県、石川県、三重県、静岡県、神奈川県と締結し、地域で活動を行いました。

関東地方では初めて「地域振興・地域貢献に関する包括協定」を締結しました。



千葉県森田知事と締結

東海地区では愛知県に次いで岐阜県と包括協定を締結し、その内容は地産地消、食育、観光振興、災害対策、環境保全などの13項目に及びます。その後、三重県とも包括協定を締結し、内容は県民サービスの向上と地域活性化を図ることを目的として、県産品の販売、健康増進、災害対策、環境保全などの11項目になります。また、岐阜県、三重県と愛知県、名古屋市との共催で、消費者に環境に配慮したお買い物を薦める「三県一市グリーン購入キャンペーン」を開催しました。



岐阜県古田知事と締結



三重県鈴木知事と締結



東海三県一市グリーン購入キャンペーン

北陸地方では石川県と「連携と協力に関する包括協定」を締結し、内容は環境保全、地産地消の推進、観光振興、子育て支援、防災など11項目です。また、能登半島の「能登の里山里海」が世界農業遺産に登録され、その記念事業として、石川県と共催で親子スタディツアーを実施しました。



石川県谷本知事と締結



能登半島 世界農業遺産「スタディツアー」を共催

静岡県と「連携に関する包括協定」を締結しました。県民サービスの向上と地域活性化を目的とし、地域の安全・安心の確保、災害時の支援、観光や県産品の情報発信など9項目です。夏休みには世界文化遺産を目指す「富士山」や「牛乳パックリサイクルのトイレトーパー」を学ぶ親子環境教室を共催しました。



静岡県川勝知事と締結



夏休み親子環境教室を共催

関東地方では2件目となる、神奈川県との包括協定を締結しました。内容は地産地消の推進、子育て支援、暮らしの安全・安心、災害対策、環境保全、エネルギー対策など10項目です。横浜市のアピタ長津田店で「エコ博」を県や市、企業が協働で開催し、お客様と一緒に環境について楽しみながら学びました。



神奈川県黒岩知事と締結



横浜市アピタ長津田店でエコ博を共催

愛知県	2011年 11月 21日
千葉県	2012年 3月 21日
岐阜県	2012年 6月 26日
石川県	2012年 8月 29日
三重県	2012年 9月 5日
静岡県	2012年 9月 18日
神奈川県	2012年 11月 27日

地域の緑化活動を支援

レジ袋使用削減のために、レジ袋無料配布を中止して、必要なお客様には有料レジ袋を購入していただいています。そしてユニーは、購入枚数1枚につき1円を、地域の環境活動に寄付しています。

大垣市の「レジ袋 市民の森」

岐阜県大垣市のアクアウォーク大垣には、大垣市環境市民会議と協働で作り上げた「レジ袋 市民の森」があります。市民によるグリーンサポーターが木や花の管理に活躍しています。



レジ袋 市民の森サポーターの表彰



グリーンサポーターの活動

名城公園「花の山エリア」プロジェクト

名古屋市民憩いの場の名城公園の「花の山エリア」に「ユニーの花壇」を市民の皆さんと一緒に作っています。花を楽しみ地球温暖化防止にも努めています。



名古屋市民と一緒に花植えする佐古社長（右）



ユニーの花壇



全店一斉クリーンアップキャンペーン ～Make a CHANGE Day奨励賞受賞～

ユニーでは毎日店舗や事業所周辺の清掃や除草の活動を行っていますが、6月の環境月間、10月の3R推進月間には活動範囲を近くの公園や道路などに広げ、全店一斉クリーンアップキャンペーンとして実施しています。この活動が評価され、「愛・地球博ボランティアセンター Make a CHANGE Day実行委員会」から奨励賞を受賞しました。この賞は「人の気持ち」に変化を起こし、自らの参画で「社会」に変化を起こそうという主旨で行われているものです。



Make a CHANGE Day 奨励賞



全店で実施しました



周辺道路を清掃

認知症の方へのお買い物サポート

高齢化社会が進みつつある中で、ユニーは認知症の方にもお買い物を楽しんでいただけるよう、サポートしています。従業員に認知症への理解と見守りの役割を担ってもらうための教育を行い、店内での困りごと対応やお手伝いで支援しています。また、一般のお客様にもご理解・協力をさせていただくために、店内で認知症支援のボランティアや市の職員、支援大学と一緒に買い物サポートイベントを開催しています。



認知症のサポート教育



お買い物サポートのイベント



紙芝居で認知症について説明



認知症のパネル展示

認知症お買い物サポートを支援するNPO

認知症の人の数は全国で462万人、予備軍400万人という時代になってきています。当会では「買い物セーフティーネット」（買い物を通して認知症の人を地域で見守る支援）の取り組みを行っていますが、ユニーのご協力により始めた店舗内での認知症を知ってもらうための啓発イベント・パネル展は早いもので3年目を迎えました。

これまでにアピタ大府店をはじめ各店で11回実施し、子どもから大人まで延べ1万人を超える皆さんにご参加いただきました。ゲームや紙芝居、風船配布など子どもたちが楽しみながら参加でき、明るい雰囲気の良いイベントです。今年にはアピタ長津田店（神奈川県）、アピタ美濃加茂店（岐阜県）など県外でも企画中です。

従業員の皆さんの「認知症サポーター養成講座」受講生も400人を超え、ピアゴ新城店では、従業員全員の方にご受講いただき嬉しく思っています。これからもユニーのお店での活動に、たくさんの方に参加していただきたいと思います。



NPO HEART TO HEART 代表 尾之内直美

サービス介助士の養成

サポートの必要なお客様のお手伝いのために、知識や技術を得るための講習を実施し、サービス介助士資格取得を進めています。店長・副店長、一般従業員が受講し、1,263名以上が資格を取得、お買い物のサポートに活躍しています。



車椅子操作の訓練



高齢者体験

ネットスーパーで環境社会貢献

店舗に行かなくても買い物ができる「ネットスーパー」は、買い物が困難なお客様の味方です。特に散歩が苦手な方や重い荷物を持ち運ぶことができない高齢者や小さな子どもがいる家庭にはとても助かると好評です。さらに利用していただきやすくするために、タブレット端末を活用したサービス、使用済み容器包装を持ち帰ってのリサイクル、環境対策の宅配車として、小型EV（電気自動車）の実証実験に協力するなど、お客様に便利で環境にも配慮した取り組みを進めています。



使用済み容器包装をリサイクル



高齢者のためのタブレット端末利用



トヨタ自動車小型EV商用車、実証実験に協力（アピタ豊田元町店）





Re DESIGN PROJECT (リ デザイン プロジェクト)

Re DESIGN PROJECTは、未利用資材を使い、デザイナーの卵であるデザイン学校の学生たちがデザインした商品を障がい者が就業訓練を行う授産所で生産し、ユニーの店舗で販売するというものです。デザインコンテストを行いファッション性や機能性を取り入れることで、チャリティーではなく「欲しい商品を買ったらエコだった」「プレゼントに購入したら社会貢献につながった」と、商品としてお客様に購入してもらうことを目指しました。



素材 ～循環素材の活用～

地元の織物製造業社やメーカー、繊維商社、関連組合の方々から倉庫に眠っている製品やサンプル、少しの傷などで廃棄されてしまう「繊維素材」を提供していただきました。

●2012年度協賛企業18社5団体

デザイン ～学生への啓発～

提供いただいた素材も持って各デザイン学校で、学生を対象にデザインコンテストの説明会を実施し、コンテストの目的やテーマなどを伝えました。

各校へは「未利用資材を使用」「授産施設で生産」「商品化」という条件と素材を提供し、学生達に参加を呼びかけました。

2012年度参加校：6校

- 学校法人 愛知文化服装専門学校
- OKA学園トータルデザインアカデミー
- 中部ファッション専門学校
- 名古屋学芸大学
- 学校法人 名古屋ファッション専門学校
- 名古屋モード学園

プロジェクトの目的



表彰式

愛知県稲沢市のリーフワーク稲沢で、素材を提供してくれた企業・団体や参加校、授産所の皆さんを招いてデザインコンテストの入賞作品の発表と表彰式を開催しました。



応募作品



応募作品の審査



入賞作品



表彰式



入賞者

生産 ～授産施設とのコラボレーション～

このプロジェクトは授産施設とのコラボレーションとして、授産所に通う障がい者の働く機会を創出し、公正な対価を払うことで自立を支援しています。一定量の商品を生産することで、授産施設の技術向上にもつながります。



授産所の方々

参加授産施設

- 社会福祉法人 名古屋市身体障害者福祉連合会 名身連第1ワークス・第1デイサービス
- 社会福祉法人 ゆたか福祉会 みのり共同作業所
- 社会福祉法人 すぎな 作業所えがお
- 社会福祉法人 大森福祉会 大森授産所

販売 ～ファッション性を取り入れたエコ商品～

入賞作品を商品化するため、素材を検査機関で検査し、ユニーの販売品質基準をクリアしたものを店頭で販売します。2012年11月21日～12月25日までの期間アピタ大型店舗で販売し、クリスマスプレゼントなどとして購入していただけたようです。その売り上げは授産所で働く方への支援につながることを期待しました。

販売店舗

- アピタ安城南店
- アピタ千代田橋店
- アピタ鳴海店
- アピタ名古屋南店
- アピタ稲沢東店
- アピタ東海荒尾店
- アピタ長久手店

たくさんのご応募をいただきました

今年は316作品の応募がありました。普段は捨てられてしまうような小さなハギレを組み合わせた、授産施設の方にも作りやすいように考えられた作品が多くありました。みなさんのあたたかい気持ちを込めて商品化できるように進めています。



グループ商品企画部
バイヤー 墨 康秀



アピタ千代田橋店での販売



環境教育

ユニーはエコ・ファースト企業として、環境方針に従って地球環境保全・地域社会貢献活動を行うために、従業員や関係者への教育を実施しています。環境方針には持続可能な社会を小売業としての企業活動を通して、お客様や自治体、お取引様と一緒に創り上げていくことが明記してあります。それらを実現していくために必要な知識や技術を習得させるための講習や実習を現場教育・集合教育で行っています。また、ユニーと一緒に活動していただく消費者・行政・取引先や同業者、その他の店舗見学や講習も行っています。

従業員教育

●新入社員教育

ユニーの環境方針の理解や店舗・事業所での環境保全活動について、新入社員オリエンテーションで教育を行っています。



新入社員オリエンテーション

●管理職教育

管理職に登用された社員には、それぞれの職制に必要な環境保全・社会貢献の教育を行っています。特に店舗管理職には、店舗に関わる法令その他の要求事項について、その内容と遵守するための取り組みについての講習を行っています。



新任店長教育

●ISO14001集合教育

環境マネジメントシステム14001の適正な運用と、それぞれの仕事から環境影響を抽出し、環境実施計画を策定し、目的目標を達成するための教育を行っています。



ISO14001本社従業員集合教育

●テナント・その他の従業員教育

店舗に出店しているテナントやそこで働く人達に、環境保全活動を理解し協力してもらうための教育を実施しています。特に廃棄物の分別計量システムや排水に関する教育は、店舗ごとにマニュアルやDVDを使って行っています。



店舗テナント環境教育

●関係会社従業員教育

ユニーの従業員以外の派遣社員やその他社内で働いている人達に、環境に関する社内ルールや認知症支援活動などについて、理解し協力してもらえるように教育を行っています。



店舗での認知症支援教育

●各エリア環境担当者連絡会

関東・山静・北陸と中京エリアを担当する、環境担当者を集めて店舗での環境対策や環境イベントの打ち合わせや、学習会を開催しています。



ESDの理解と環境学習のための講習会

ユニーと一緒に環境学習

●環境関連事業者連絡会

ユニーと取引のある、一般廃棄物運搬事業者や産業廃棄物関連事業者、リサイクル事業者などの環境関連事業者を集め、年2回連絡会を開催しています。環境問題全般や環境関連法令などに関する講習会、先進的な取り組みをしている環境施設の見学会を通し、法令遵守やリサイクル推進をユニーと一緒に取り組んでもらうことを目的としています。



東邦ガスエネルギー館での環境教育

●店舗見学の受け入れ

店舗の施設見学や環境活動の見学に、消費者団体・行政・同業者の方を受け入れています。特に多いのは、食品リサイクルグループの仕組みやエコ野菜販売などについての見学です。



店舗でのリサイクル利活用の見学

●海外からの見学者

国連地域開発センターを通して、アジアやアフリカ、南米の行政官が、廃棄物対策やリサイクル資源の活用などの見学に来ています。



タイのバンコク市行政官の見学

●インタープリター研究会

ユニーのインタープリター・ボランティアや地域のNPOの皆さんと、環境教育の研究会を行っています。日頃の活動の課題対策や新しいカリキュラムなどを習得し、環境教育の推進に役立ててもらっています。



インタープリター課題対策



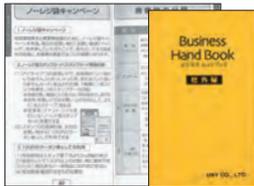
牛乳パックのリサイクル紙すき(全国牛乳容器環境協議会)

環境コミュニケーションツール

社内コミュニケーション

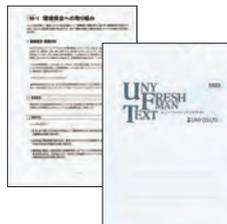
●従業員教育マニュアル

社内規程をまとめたポケットガイドに環境のページを設け、廃棄物分別などのマニュアルを記載しています。



●新入社員テキスト

新入社員に対して基礎教育に使用するテキストに、環境の基本的な事項や遵守すべき法令などを記載しています。



●社内報での情報の共有化

社内報に「環境」「社会貢献」のスペースを設け、会社や各店舗での取り組み、成果などの情報を全従業員が共有し、従業員の環境意識を高めています。



社外コミュニケーション

●ホームページ

ユニーのホームページ「環境社会貢献」には、活動の最新情報や活動報告、環境配慮商品などの情報を掲げています。



●環境壁新聞

ユニーの店内には環境問題を紹介した「やさしくらしPress」を掲示しています。ホームページでも見ることが出来ます。



●環境教育用DVD

ユニーの環境活動を「食品リサイクル」「容器のリサイクル」「生物多様性」などのDVDにして、店内やイベントで使い、理解と協力を促しています。





ユニーの食育について

心身ともに健全な社会に向けて、国を挙げて取り組まれている食育。

ユニーでは、皆様の「健康なからだ」と「豊かなこころ」づくりを応援します。

子ども達の「食」への興味・関心を育て、親子や親しい人同士で食の楽しさを発見・実感するきっかけになるよう、「おいしく」「たのしく」をモットーに、さまざまな食育活動に取り組んでいます。

ユニーの食育

心身ともに健全な社会のため、子どもから大人まで食に関心を持ち、正しい知識を身につけ、おいしく楽しい食生活を送っていただけるよう食育活動に取り組んでいます。

食材の旬・生まれ・栄養素・調理方法や昔ながらの伝統食など、親から子へ語り伝えていきたい食の物語を「たべものがたり」と名付け、皆様に分かりやすくお伝えしていきます。

ユニーの食育理念

私たちは、食と食に関わる情報の提供を通して、食の大切さや楽しさを地域のお客様と共有化します。

ユニーの食育方針

- 1 新鮮かつおいしい食材を提供することにより味覚を養います。
- 2 食材の持つ栄養素とその働きを理解することにより体を養います。
- 3 食材のルーツをたどることにより食べ物を大切にすることを養います。
- 4 食材本来の味や特性を活かした調理や料理ができる技を培います。
- 5 合理的な手法を用いた商品選択により安全・安心な食材提供に努めます。

あいち食育サポート企業団の活動

地元愛知の健全な食生活の実現と豊かで活力ある社会づくりに向けて、「あいち食育サポート企業団」を結成し、愛知県や関係団体等と連携・協働して食育を推進しています。また、「おうちでごはんの日」や「早寝早起き 朝ごはん」運動の普及、日本型食生活の良さ・地産地消の啓発、食の体験活動なども推進しています。

2007年	「あいち食育サポート企業団」の結成
2008年	「地域に根ざした食育コンクール」で最優秀賞
2010年	愛知県とともにドアラを食育大使に任命
2011年	愛知県図書館に食育絵本110冊を寄贈
2012年	愛知県に企業団オリジナル食育絵本1,000冊を寄贈
2012年	名古屋文理大学にて食育講座を開講

あいち食育サポート企業団 加盟企業



「地域に根ざした食育コンクール2008」にて農林水産大臣賞（最優秀賞）を受賞



愛知県とともにあいち食育大使にドアラを任命



愛知県にオリジナル絵本を寄贈



愛知農林水産フェアで食育イベントを実施



愛知県と共催で食育講座を実施



毎月加盟企業による店頭イベントを実施



名古屋文理大学にて食育講座を開講



愛知の野菜を使ったレシピコンテストを実施

あいち食育サポート企業団活動紹介ホームページ <http://aichishokuiku-support.info/>





店舗を中心とした食育活動

企業との食育への取り組み

店舗内外のイベントを通じて、皆様に「食」への関心を持っていただくために、食品関連企業や各種団体と共同で、食に関するさまざまなイベントを開催しています。食を大切にする心を育むことを目的に、食品の製造現場を訪ねる工場見学も積極的に行っています。



学生との食育への取り組み

大学や専門学校の学生と、食育まんがやイベントなど、子どもにも分かりやすい食育活動に取り組んでいます。食育における学生と子どもの「共育」推進も目的としています。



生産者との食育への取り組み

お客様が農産物の栽培から収穫までを生産者とふれあいながら体験することにより、売り場の野菜・果物を身近に感じていただくことも大切な食育と考えています。



5ADAY (ファイブ・ア・デイ) 食育体験ツアー

「1日5皿分 (350g) 以上の野菜と200g以上の果物を食べましょう」をスローガンとした活動を推進しています。



ふれあいクッキング

お客様に食材の「おいしさ」「栄養」「使い方」を実感し、よりよく知っていただくために、店舗で料理教室を行っています。



クッキングワゴン

栄養士が健康を考え、旬の食材を使ってレシピを提案する店頭でのライブクッキングコーナーを開催しています。



ホームページ

私たちにとって、一番身近な「食」に関するさまざまな「こと」を紹介するサイトです。旬の食べ物を食卓に取り入れる方法や栄養士が考える健康&簡単「からだにイイことレシピ」、食物栄養学科の学生と協力して作った「食育まんが」など、さまざまな情報で日々の食生活を応援しています。また、店頭などで行った食育イベントレポートも順次アップしています。

ユニー たべものがたり

検索



<http://www.uny.co.jp/tabemonogatari/>



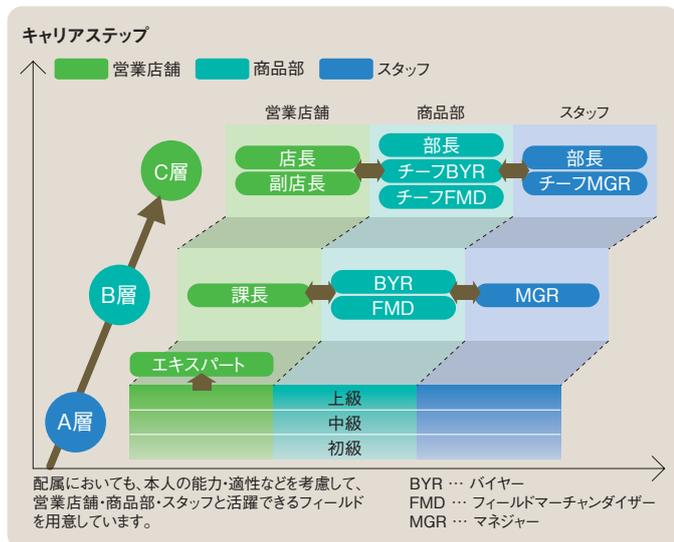
働きやすい職場環境づくり

ユニーでは従業員一人ひとりが、自ら学び、考え、動く「考動」する人材になることを目指しています。流通小売業に従事するビジネス人としてのスキルアップのみならず、広く社会に貢献できる人間力を育成するのが、ユニーの人材に対する考え方です。安定した雇用環境や実力重視の人材登用、充実した福利厚生など、従業員一人ひとりを強力にバックアップしています。

キャリアアップ制度

ユニーを支えているのは「人」。その能力を最大限に発揮させていくことが、会社の成長につながっています。そこでユニーでは、配属においても本人の希望を考慮しています。毎年、全社員を対象に自己申告を実施し、今後のキャリアについて本人の希望を確認しています。配属希望の部署やそのために取り組んでいる自己啓発などを調査することで、その後の配属に活かしています。

営業店舗で店長を目指して仕事している方、商品部でバイヤーとして世界中に商品の買いつけに行く方、スタッフ部署で営業の企画を立案している方など、各人の能力・適性により活躍できるフィールドはたくさん用意されています。



充実の教育体系

キャリアに応じて必要な教育研修を実施。自己啓発を勧め、従業員の成長をサポートしています。

●研修

新入社員から管理職まで各職層別に研修を実施。2012年度の研修参加者数は述べ3,973名になります。



●従業員キャリアアップ

従業員のキャリアアップを手伝うため、134講座におよぶ通信教育講座を案内。会社推薦講座受講者には会社からの補助があります。2012年度は442名が受講しました。



●サービス介助士資格

高齢者の方や障がいをもつ方にも安心して買い物に来ていただけるよう、店舗の店長や副店長などの管理職を中心にサービス介助士資格の取得を促しています。現在までに、1,000名以上が取得しています。



●技能研修

特別勤務者（パートタイム）の方には、生鮮部門担当者を中心に商品加工技術のある方に技能給を、福祉用具専門相談員やグリーンアドバイザー、自転車安全整備士、ホームヘルパーなどの資格を取得し、仕事に活かしている方にライセンス給を支給しています。



障がい者雇用

ノーマライゼーションの理念に基づき、障がいを持つ人も生き活きと働ける職場環境をつくるため、障がい者雇用に取り組んでいます。毎年、養護学校や施設から職場体験の受け入れも実施しています。

障がい者雇用率	
2011年	1.92%
2012年	1.95%
2013年	2.05%

ワークライフバランスへの取り組み

●半日休制度

付与された年次有給休暇のうち6日間を半日に分割して年間12回取得可能。年次有給休暇をより取得しやすくするため、2006年より導入しました。

●配偶者出産休暇

配偶者が出産のとき、出産日から2週間以内に有給の休暇を2日取得可能。2010年より導入しました。

●65歳までの再雇用制度

定年を迎えた従業員がその後の生活の安定を図るため、再雇用されることを希望した場合、65歳までを上限とし再雇用し、長年培った知識・経験・専門能力・技能を活用できるようにしています。

●自社商品割引購買制度

自社商品を割引で購入可能。同居家族も同条件で利用できる「家族証」を発行しています。

愛知県ファミリー・フレンドリー企業に登録

労働者が男女ともに仕事と家庭を両立させながら働くことができる職場環境づくりに取り組んでいる企業として認められ、2003年に愛知県ファミリー・フレンドリー企業に登録しました。



次世代法に基づく基準適合一般事業主認定企業

仕事と子育ての両立を図るために必要な、雇用環境の整備などを進めるための「一般事業主行動計画」を策定し、基準に適合した一般事業主として2008年に認定されました。





ユニグループ総合福祉センター

ユニグループ各社の従業員とその家族を含めた生涯にわたる福利厚生のため、1980年に設立されました。会社と労働組合による共同事業を、会社・労働組合のいずれにも属さない組織として従業員への福祉事業を運営しています。主な事業内容は、お祝い金やお見舞金などの慶弔活動、各種セミナーの開催、ホテルやレジャーなどの契約施設の斡旋などを行っています。

従業員同士が親しみ仲良く交流し、心と体の健康を増進するために

行楽・レクリエーション

店舗や事務所ごとに、日帰りでの慰安旅行・行楽、あるいはボウリングや物作り体験などの娯楽・レクリエーションを行っています。職場を離れた場所で、従業員同士が交流を通じ、疲れを癒すことが目的です。



サークル活動

共通の趣味を持つ仲間でご好会をつくり、活動することで、活発な職場づくりに活かしています。内容は、フットサルなどのスポーツ、写真・華道など文化的なものなど多岐にわたっています。

従業員が充実した人生を送るために

ライフデザインセミナー

正社員を対象に、定年退職後も充実した生き方・暮らし方ができるよう、先を見据えた人生設計を支援するセミナーを年代別に開催しています。



定年退職を間近に控えた正社員向け

ライフデザインセミナー 60

定年退職を控え、社会保険や税金、在籍中に加入していた保険制度など、退職に伴う各種手続きについての退職者向け説明会を行っています。(会社、ユニグループ健康保険組合、ユニグループ企業年金基金などと共同で開催)



40歳前後の正社員向け

ライフデザインセミナー 40

子どもの教育費、住宅費用などがかさみ始める40歳前後を対象に、主に「お金(経済)」を準備する内容を中心に行っています。

50歳前後の正社員向け

ライフデザインセミナー 50

定年退職まであと10年という節目に、充実した人生を送るため、経済面だけでなく「健康づくり、趣味づくり」への関心を持ってもらえるよう行っています。(ユニグループ企業年金基金などと共同で開催)

従業員の健康な身体づくりのために

健康セミナー

健康に悪影響があるといわれるメタボリック・シンドローム。その予防のため、食習慣および運動習慣を見直すきっかけづくりとして、日常の食事メニューのカロリーなどを確認し、ストレッチ、ウォーキングを実際に行う体験型セミナーを開いています。(ユニグループ健康保険組合と共同で開催)



健康ウォーキング

運動習慣を身につけるため、定期的にウォーキング行事を行っています。仕事を離れ、自然の中やテーマパークを楽しむことで、従業員同士の交流を図る場にもなっています。



従業員が安心して働くために

保険制度・貯蓄制度

従業員とご家族への保険制度および生活設計を実現するための貯蓄制度を用意しています。毎年1回、従業員が保障額や貯蓄額の変更・新規申し込みができる機会を設けています。従業員とご家族の万一の場合や日常のケガ・病気への備え・保障などがあると、安心して働くことができます。



福利厚生の情報共有のために

コミュニケーションツール

行楽・レクリエーション、各種セミナーおよびイベントなどの福祉制度を案内するため、定期的に冊子を発行し、従業員に配布しています。また、店舗・事務所に各種申請手続きの手引書を配布しています。





未来が変わる。
日本が変わる。

チャレンジ
25

この報告書の印刷・製本工程で
使用した電力量(600kWh)はグリーン
電力でまかなわれています。

この印刷物に使用している用紙は、森を元氣
にするための間伐と間伐材の有効活用に役
立ちます。

ユニー株式会社

愛知県稲沢市天池五反町1番地
TEL.0587-24-8093 FAX.0587-24-8010
<http://www.uny.co.jp>



「未来の子ども達に美しい自然を残したい」

ユニーは環境に優しい生活をお客様と一緒に進めています。

